



福島県立美術館
年報
平成18年度
2006



福島県立美術館 年報

平成18年度

2006

目 次

設置の目的と立地	2
沿 革	3
2006 年度主要記事	4
展示事業	5
・ 常設展	5
・ 常設展示	15
・ 特集展示	15
・ 移動美術館	16
・ 企画展	18
・ 須田国太郎展	18
・ カミーユ・クロード展	24
・ ドキュメント福島展	28
・ ハギレの日本文化誌	32
・ 風景読本 絵の旅・東北	40
・ 名画の散歩道 山形美術館名品展	44
普及事業	48
広報・出版	55
調査研究	56
収 集	58
保 存	68
管 理	70
運営・組織	71
・ 観覧者数一覧	71
・ 2006 年度予算内訳	72
・ 関係法規	73
・ 施設／設備	77
・ 福島県立美術館友の会活動報告	79
・ 福島県立美術館協力会活動報告	81
・ 委員会等、組織図	82
・ 利用案内	84

設置の目的と立地



福島県立美術館は、すぐれた美術作品にふれることで人々の感受性が高まり、情操が養われ、憩いと喜びのなかに創造の手がかりが得られる場として、1984(昭和59)年7月に、隣接する福島県立図書館とともに設けられました。

この目的のために、収蔵作品の充実をはかり、貴重な文化財である美術品の保存につとめ、継続的な調査研究にもとづく展示・普及事業を積極的に展開するとともに、美術に関するさまざまな情報を提供します。

美術館は、福島市のシンボルであり、憩いの場として親しまれている信夫山のふもとにあります。福島駅からも近く、交通の便もよい場所にありながら、野鳥の声もきこえる静かで落ち着いた環境にあります。60,000m²もの広大な敷地には、樹木や花々、広い芝生や日本庭園があり、散策や休息の場として親しまれています。

美術館と図書館は、多面的な機能と豊富な情報にもとづく、さまざまなサービスを提供することによって、見る・聴く・語る・作る・考える空間として活用していただくことをめざしています。

沿革

1977 年	5 月	文化を考える県民会議を設置
	6-8 月	文化に関する県民意識調査を実施
1978 年	1 月	文化を考える県民会議より「県の文化振興について」を県知事に報告
	7 月	文化振興会議を設置
1979 年	2 月	文化振興会議より「文化振興策の具体策について」を県知事に報告
	3 月	文化施設等整備基金条例制定
	4 月	県教育庁文化課内に文化施設班を置く
	6 月	福島県立美術館基本構想検討委員会を設置（委員 10 人を委嘱）
	12 月	美術品等取得基金条例制定
1980 年	1 月	「福島県立美術館建設基本構想について」を同委員会より知事に報告
	2 月	美術館・図書館の建設地を福島市に決定 版画家斎藤清氏より県に自作 227 点が寄贈される
	4 月	福島県立美術館収集評価委員会を設置（委員 7 人を委嘱） 美術館・図書館の建設地を福島大学経済学部跡地に決定
	5 月	第 1 回収集評価委員会開催、ワイエス「松ぼっくり男爵」他の購入を決定
	12 月	美術館基本設計を委託（大高建築設計事務所）
1981 年	7 月	美術館実施設計を委託（大高建築設計事務所）
1982 年	7 月	美術館設計工事着工
1984 年	3 月	美術館本体工事完了 福島県立美術館条例を議決
	4 月	福島県立美術館設置
	6 月	福島県立美術館博物館所管の県有美術品 365 点を移管
	7 月	開館（22 日） 初代館長に原田實が就任（-1989 年 3 月） 開館記念展第 1 部「戦後の名作に見る人間像」展開催 所蔵品図録抄を発行
	10 月	第 1 回運営協議会開催
1986 年	3 月	研究紀要第 1 号発行
1989 年	4 月	第二代館長に佐藤昌志が就任（-1990 年 3 月）
1990 年	3 月	収蔵作品図録発行
	4 月	館長事務代行を教育長兼務とする（-1992 年 3 月）
1992 年	4 月	第三代館長に長谷部満彦が就任（-2000 年 3 月）
1994 年	7 月	開館 10 周年記念展「ルネサンスの絵画」「日本画の風景」開催
1995 年	6 月	入館者通算 100 万人を記録する 「アンドリュウ・ワイエス展」開催、会期中に観覧者通算 100 万人を記録する
1998 年	4 月	「ピカソ回顧展」開催、67,125 人の観覧者を記録する
1999 年	3 月	屋根改修工事着工
	8 月	屋根改修工事のため 23 日以降常設展を休止（-2000 年 7 月 19 日）
	9 月	通算 100 本目の企画展「生誕 100 年関根正二展」を開催
	10 月	18 日以降臨時休館となる（-2000 年 7 月 19 日） 空調機械改修工事（第一期）着工 「移動美術館」開始（第 1 回は喜多方市美術館）
2000 年	4 月	第四代館長に酒井哲朗が就任
	7 月	空調機械工事（第一期）竣工、再開館（20 日）
2001 年	11 月	19 日以降臨時休館となる（-2002 年 4 月 26 日）空調機械工事（第二期）等着工
2002 年	3 月	空調機械工事（第二期）、展示室改修工事竣工（県立図書館空調工事も竣工）
	4 月	再開館（27 日） レストラン「カフェ・ドウ・ミュゼ ムスターシュ」新装開店
	10 月	「美術館友の会（仮称）設立に向けて県民の意見を聴く会」を設置
2003 年	4 月	「福島県立美術館友の会設立発起人会」を開催、友の会発足
2004 年	6 月	「特定非営利活動法人 福島県立美術館協力会」発足
	7 月	「アート オブ スター・ウォーズ展」開催、77,601 人の観覧者を記録する
	10 月	開館 20 周年記念展「田園の夢」開催
2005 年	3 月	収蔵作品図録 1990-2005 発行
2006 年	8 月	初の県立美術館・図書館連携事業として「アートなおはなし会」を開催する

2006 年度主要記事 (2006.4 - 2007.3)

2006 (平成 18)

- | | |
|-------------|---|
| 4 月 1 日 | 臨時休館 (-7 日) 渡部信一郎副館長着任 |
| 4 月 8 日 | 平成 18 年度第 1 期常設展開幕 (-7 月 2 日)
「須田国太郎展」開幕 (-5 月 14 日) |
| 4 月 23 日 | 「須田国太郎展」講演会 (講師: 須田寛氏 於講堂) |
| 5 月 5 日 | 常設展無料観覧日 |
| 5 月 29 日 | 「カミーユ・クロード展」開会式 |
| 5 月 30 日 | 「カミーユ・クロード展」開幕 (-7 月 17 日) |
| 6 月 1 - 2 日 | 全国美術館会議総会出席 (香川県直島) |
| 7 月 4 日 | 第 2 期常設展開幕 (-10 月 1 日) |
| 7 月 16 日 | 博物館実習 (-7 月 22 日) |
| 7 月 29 日 | 「ドキュメント福島展」開会式、同展開幕 (-8 月 27 日) |
| 8 月 5 日 | 美術館・図書館連携事業「アートなおはなし会」開催 |
| 8 月 21 日 | 常設展無料観覧日 (県民の日) |
| 9 月 9 日 | 「ハギレの日本文化誌」展開幕 (-10 月 15 日) |
| 9 月 10 日 | 「ハギレの日本文化誌」展講演会 (講師: 小松和彦氏 於講堂) |
| 9 月 19 日 | 常設展無料観覧日 |
| 10 月 3 日 | 第 3 期常設展開幕 (-12 月 27 日) |
| 10 月 7 日 | 「移動美術館 近代の名品にみる人物像」いわき市立草野心平記念文学館で開幕 (-11 月 5 日) |
| 10 月 15 日 | 友の会研修旅行 (宇都宮美術館、ニキ美術館他) |
| 10 月 19 日 | 美術館・図書館合同消防訓練 |
| 10 月 22 日 | 「コレクション・クローズアップ<ベン・シャーンとラッキードラゴン>」開催 |
| 10 月 28 日 | 「風景読本〜絵の旅・東北〜」展開幕 (-12 月 10 日) |
| 11 月 3 日 | 常設展無料観覧日 |
| 11 月 5 日 | ミュージアム・コンサート (福島楽友協会合唱団 於エントランスホール) |
| 12 月 1 日 | ミュージアム・クリスマス (-12 月 24 日) |
| 12 月 28 日 | 年末年始休館 (-1 月 4 日) |

2007 (平成 19)

- | | |
|----------|---|
| 1 月 5 日 | 第 4 期常設展開幕 (-3 月 25 日) |
| 1 月 11 日 | 「美術館への年賀状展」開幕 (-1 月 31 日) |
| 2 月 8 日 | 平成 18 年度収集評価委員会 |
| 2 月 17 日 | 「名画の散歩道 山形美術館名品展」開会式 同展開幕 (-3 月 25 日) |
| 2 月 22 日 | 平成 18 年度運営協議会 |
| 3 月 18 日 | ミュージアム・コンサート (出演: 山形交響楽団ベルク木管五重奏団 於エントランスホール) |
| 3 月 26 日 | 臨時休館 (-4 月 6 日) |
| 3 月 31 日 | 渡部信一郎副館長退任、中山兼一総務課長・早坂亜紀主査転任 |

常設展

□常設展示

当館所蔵の美術作品を常時公開するもので、年4回（版画は8回）の展示換えを行っている。

2007年度は以下の4期により開催した。

会期	主なテーマ
第1期 2006年4月8日～7月2日 (※5月26日に一部作品を展示替)	酒井三良の日本画 斎藤清の花と猫 福島画家たち ベン・シャーンのポスター 伊砂利彦の型染め 谷中安規の版画
第2期 2006年7月4日～10月1日 (※8月24日に一部作品を展示替)	近代の日本画 関根正二と近代洋画 海外版画名作選 アメリカの美術 現代版画の諸相 斎藤清・外国風景
第3期 2006年10月3日～12月27日 (※11月16日に一部作品を展示替)	星野真吾の日本画 李禹煥の版画 20世紀のアメリカ絵画 木版の表現
第4期 2007年1月5日～3月25日 (※2月16日に一部作品を展示替)	大山忠作の絵画 現代日本の陶芸・鈴木治と山田光 百瀬寿の版画 前川千帆・平川清蔵の版画

□サンデートーク

毎週日曜日午後1時～30分程度、常設展示解説として「サンデートーク」を計50回開催した。

解説は当館学芸員のほか、外部講師2名が担当した。詳細は以下のとおりである。

開催日	テーマ	担当	参加人数
4月9日	第1期の見所紹介	伊藤	10名
4月16日	建畠覚造「WAVING FIGURE 47(大)」	宮武	3名
4月23日	ワイエス「ガニングロック」	吉村	3名
4月30日	関根正二「姉弟」	久慈	13名
5月7日	安田寛彦「茶室」	堀	15名
5月14日	橋本章「ビルディング」	橋本	10名
5月21日	谷中安規の版画	増渕	3名
5月28日	小茂田青樹「薫房」	佐治	4名
6月4日	私と酒井三良	島田幸彦氏（美術品コレクター）	7名
6月11日	鎌田正蔵の作品	宮武	9名
6月18日	トーマス・ハート・ベントンの版画	荒木	3名
6月25日	ベン・シャーンのポスター	伊藤	7名
7月2日	若松光一郎「オートノミー」	橋本	5名
7月9日	第2期展示の見所紹介	宮武	20名
7月16日	ピカソ「二人の裸婦」	吉村	5名
7月23日	平福百穂「赤茄子と芋」	増渕	3名
7月30日	村上善男「丑町に釘打ち」	堀	6名
8月6日	関根正二と上野山清貢	伊藤	6名

8月13日	加納光於「星・反芻学」	荒木	1名
8月20日	土谷武「風 I - d」	宮武	2名
8月27日	工藤哲巳「危機の中の芸術家の肖像」	久慈	1名
9月 3日	小杉放庵「水荘訪客」	増渕	3名
9月10日	質問リクエスト～版画篇	堀	6名
9月17日	ベン・シャーン「ラッキードラゴン」	伊藤	11名
9月24日	工藤哲巳と村上善男	荒木	6名
10月 1日	酒井三良の日本画	佐治	4名
10月 8日	日和崎尊夫「卵」	久慈	7名
10月15日	第3期の見所紹介	宮武	4名
10月22日	玉川信一「風の日」	吉村	5名
10月29日	松田松雄「風景(川のほとり)」	橋本	3名
11月 5日	田淵安一「豊饒の樹」	荒木	1名
11月12日	星野真吾の日本画	増渕	5名
11月19日	清水登之「十四番街の地下鉄駅」	久慈	1名
11月26日	酒井三良「残秋」	佐治	4名
12月 3日	野田英夫「牛乳ワゴン」	吉村	7名
12月10日	仲山計介「エオンタ」	宮武	5名
12月17日	質問リクエスト	堀	3名
12月24日	斎藤清「会津の冬」	佐治	10名
1月 7日	第4期の見所紹介	伊藤	3名
1月14日	桂ゆき「親亀の背中に子亀をのせて」	橋本	10名
1月21日	村上華岳「早春風景」	増渕	5名
1月28日	関根正二「自画像」	久慈	11名
2月 4日	鈴木治と山田光	佐治	10名
2月11日	百瀬寿の版画	荒木	8名
2月18日	長谷川利行「浅草の女」	宮武	15名
2月25日	創作版画について	吉村	8名
3月 4日	萬鉄五郎「庫」	平澤広氏(萬鉄五郎記念美術館学芸員)	20名
3月11日	岩橋永遠「土」	堀	5名
3月18日	田口安男「季節を通り抜けて」	橋本	15名
3月25日	ベン・シャーン「W.P.A. サンデー」	吉村	6名

以上 計 50 回 339 名

□出品リスト

第1期 2006年4月7日～7月2日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
熊坂 適山	百花の図	1854	絹本着色	
小茂田青樹	薰房	1927	紙本着色 屏風二曲一双	
平福 百穂	ふき	不詳	紙本墨画淡彩 屏風二曲一隻	
速水 御舟	晩冬の桜	1928	絹本着色	
安田 靱彦	茶室	1962	紙本着色	
【酒井三良の絵画】				
酒井 三良	鴟（雨）	1934	絹・墨画淡彩	寄託作品
	江南春色	1940	紙本墨画淡彩	
	五浦の月	1948	紙本着色	寄託作品
	渡頭新雪	1950	紙本墨画淡彩	寄託作品
	沖縄風俗	1955	紙本墨画淡彩	
	雪路	1960	紙本墨画淡彩	寄託作品
	松籟	1964	紙本墨画淡彩	
	芋銭 百魔図模写	不詳	紙本墨画 卷子	寄託作品
	<スケッチブック>			
【斎藤清 花の版画 猫の版画】				
斎藤 清	赤い花	1948	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日

椿	1948	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
白い夢	1949	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
凝視（花）	1950	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
アネモネ	1963	紙・コラグラフ	展示期間：4月7日-5月25日
アネモネ	1963	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
パンジー	1964	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
椿	1980	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
春の鎌倉 甘縄神明宮	1983	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
早春	1990	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
かすみ 慈愛	1991	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
凝視（猫）	1948	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
凝視（二匹の猫）	1952	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
愛撫（A）	1953	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
凝視（B）	1957	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日
猫（1）	1963	紙・コラグラフ	展示期間：4月7日-5月25日
猫（2）	1963	紙・コラグラフ	展示期間：4月7日-5月25日
猫（3）	1963	紙・コラグラフ	展示期間：4月7日-5月25日
六月鎌倉（B）	1972	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
六月鎌倉（G）	1976	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
六月	1972	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
六月	1975	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
初夏（1）	1992	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
夏（A）	1972	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
夏（B）	1972	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
夏'73	1973	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
夏（B）	1975	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
月下美人（A）	1975	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
月下美人（B）	1975	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
猫（4）	1963	紙・コラグラフ	展示期間：5月26日-7月2日
猫（5）	1963	紙・コラグラフ	展示期間：5月26日-7月2日
猫（6）	1963	紙・コラグラフ	展示期間：5月26日-7月2日
凝視	1971	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
猜疑	1973	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
競艶	1973	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日
あれっ 三姿	1987	紙・木版	展示期間：5月26日-7月2日

展示室 B

【大正・昭和期の洋画】

安井曾太郎	ターブルの上	1912	カンヴァス・油彩
岸田 劉生	自画像	1914	カンヴァス・油彩
	静物（白き花瓶と台皿と林檎四個）	1918	カンヴァス・油彩
萬 鉄五郎	庫	1918	カンヴァス・油彩
恩地孝四郎	自画像 D（白和服）	1919	カンヴァス・油彩
木村 莊八	樹の下に遊んでいる子供	1915	カンヴァス・油彩
前田 寛治	裸婦	1925	カンヴァス・油彩
長谷川利行	浅草の女	1935	カンヴァス・油彩
松本 竣介	駅	1942	板・油彩
川口 軌外	柘榴	1932	カンヴァス・油彩

【関根正二の作品】

関根 正二	大樹	1915	紙・木炭
	裸婦	1915	紙・木炭
	死を思う日	1915	カンヴァス・油彩
	菊川橋	1916	紙・インク
	一本杉の風景	1918	カンヴァス・油彩
	真田吉之助夫妻像	1918	カンヴァス・油彩
	姉弟	1918	カンヴァス・油彩
	自画像	1918	カンヴァス・油彩

【福島画家たち】

若松光一郎	浮遊	1974	カンヴァス・コラージュ
	オートノミー 1	1979	カンヴァス・コラージュ
	オートノミー 3	1980	カンヴァス・コラージュ
鎌田 正蔵	貴装（A）	1976	カンヴァス・アクリル
	貴装（B）	1976	カンヴァス・アクリル
	小家族（B）	1981	カンヴァス・アクリル
	ランナーと女	1983	カンヴァス・アクリル
橋本 章	ビルディング	1967	カンヴァス・油彩
	武装する都市	1979	カンヴァス・油彩

【現代彫刻】

土谷 武	風 I - d	1977	軟鋼、ケヤキ
建畠 覚造	WAVING FIGURE 47 (大)	1987	合板・木

展示室 C

カミーユ・ピサロ	エラニーの菜園	1899	カンヴァス・油彩
ジョン・スローン	五番街の批評家たち	1940	カンヴァス・油彩
アンドリュー・ワイエス	ガニングロック	1966	紙・水彩
	ドイツ人の住むところ	1973	紙・水彩

【トーマス・ハート・ベントン (1889-1975) の版画】

トーマス・ハート・ベントン	サワーウッド・マウンテンで彼女ができたよ	1938	紙・リトグラフ
	川下り	1939	紙・リトグラフ
	日曜日の朝	1939	紙・リトグラフ
	麦を収穫する	1939	紙・リトグラフ

【ベン・シャーン (1898-1969) のポスター】

ベン・シャーン	農民にたずねよ	1941	ボード・グアッシュ
	これがナチの残虐だ	1942	紙・オフセット
	我々フランス労働者は警告する	1942	紙・オフセット
	選挙人登録……投票用紙はあなたの手中の力だ	1944	紙・オフセット
	労働者より農民へ……感謝をこめて	1944	紙・オフセット
	我が友よ	1944	紙・オフセット
	警告！……インフレーションは不況を意味する	1946	紙・オフセット
	これらあらゆる権利のために我々は闘いを開始したのだ	1946	紙・オフセット
	反動の魔手を打ち砕け	1946	紙・オフセット
	我々は平和を望んでいる	1946	紙・リトグラフ

【彫刻】

ジャコモ・マンズー	車に乗った子供	1982	ブロンズ
-----------	---------	------	------

展示室 D

【伊砂利彦 (1924 年生れ) の型染め】

伊砂 利彦	ドビュッシー作曲「前奏曲Ⅰ」のイメージより	1986-87	和紙・型染め (12 点組)	展示期間：4 月 7 日 - 5 月 25 日
	(1) デルフィの舞姫たち		(2) ヴェール (帆)	(3) 野を渡る風
	(4) 音と香りは夕暮の大地に漂う		(5) アナカプリの丘	(6) 雪の上の歩み
	(7) 西風の見たもの		(8) 亜麻色の髪の乙女	(9) とだえたセレナード
	(10) 沈める寺		(11) パックの踊り	(12) ミンストレル
	ドビュッシー作曲「前奏曲Ⅱ」のイメージより	1986-87	和紙・型染め (12 点組)	展示期間：5 月 26 日 - 7 月 2 日
	(1) ビック・ウィック卿をたたえて		(2) 霧	(3) ビーノの門
	(4) 枯葉		(5) 妖精はよい踊子	(6) ヒースの茂る荒地
	(7) 変り者のラヴァーヌ将軍		(8) 月の光がそそぐテラス	(9) 水の精
	(10) カノーブ		(11) 交替する三度	(12) 花火

【谷中安規 (1897-1946) の版画】

谷中 安規	シネマ	1932	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日	
	室内	1933 頃	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日	
	詩巻 (心の花)	1934	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日	
	行進	1936	紙・木版	展示期間：4月7日-5月25日	
	幻想集	1933	紙・木版 (10 点組)	展示期間：4月7日-5月25日	
	(1) 僕	(2) 夜	(3) 刀	(4) 酒	(5) 灯
	(6) 空	(7) 火	(8) 旅	(9) 力	(10) 雲

【川上澄生 (1895-1972) の版画】

川上 澄生	賭博者	1925	紙・木版	展示期間：4 月 7 日 - 5 月 25 日
	バラとパイプ	1925 頃	紙・木版	展示期間：4 月 7 日 - 5 月 25 日
	六月の風	1926	紙・木版	展示期間：4 月 7 日 - 5 月 25 日
	風見のある風景	1927	紙・木版	展示期間：4 月 7 日 - 5 月 25 日
	看板	1929	紙・木版	展示期間：4 月 7 日 - 5 月 25 日
	日比谷公園菊花大会	1930	紙・木版	展示期間：5 月 26 日 - 7 月 2 日
	はつなつの風	1933	紙・木版	展示期間：5 月 26 日 - 7 月 2 日
	かまきり	1933	紙・木版	展示期間：5 月 26 日 - 7 月 2 日
	男体山	1955	紙・木版	展示期間：5 月 26 日 - 7 月 2 日
	女と洋燈 (一)	1971	紙・木版	展示期間：5 月 26 日 - 7 月 2 日
	女と洋燈 (三)	1971	紙・木版	展示期間：5 月 26 日 - 7 月 2 日
	女と洋燈 (八)	1971	紙・木版	展示期間：5 月 26 日 - 7 月 2 日
	女と洋燈 (九)	1971	紙・木版	展示期間：5 月 26 日 - 7 月 2 日

ホール、屋外展示

ヘンリー・ムーア	母と子：腕	1980	ブロンズ
マリノ・マリニ	騎手	1956-57	ブロンズ

佐藤 忠良	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
エミリオ・グレコ	スケートをする女	1951	ブロンズ	
フェルナン・レジェ	歩く花	1952.53原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
井上 武吉	MY SKY HOLE 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	

第2期 2006年7月4日～10月1日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【近代の日本画】				
今村 紫紅	漁村	1911	絹本着色	
	瀬田風景	1913	絹本着色	
小杉 放庵	水荘訪客	大正末期	絹本着色	
平福 百穂	赤茄子と芋	1911	絹本着色	
小茂田青樹	農婦	1914頃	絹本着色	
山口 華楊	畑	1925	絹本着色	屏風二曲一隻
池田 遙邨	大漁	1932	絹本着色	屏風二曲一隻
酒井 三良	帰樵	1930	紙本着色	寄託作品
	雨はれ	1930	紙本着色	寄託作品
	そばの秋	1930	紙本着色	寄託作品
	雪暮	1930	紙本着色	寄託作品
中島 清之	胡瓜	1923	絹本着色	
酒井 白澄	麦畑	1927	絹本着色	
猪巻 清明	湘南の浜	1931	紙本着色	
	はさみ将棋	1934	紙本着色	
速水 御舟	女二題 其一	1931	絹本着色	
	女二題 其二	1931	絹本着色	
松本 栄	志摩	1968	紙本着色	
室井東志生	朝	1968	紙本着色	
大山 忠作	爽涼	1980	紙本着色	
佐藤 罔夫	少年と馬	1980	紙本着色	
福王寺法林	バドガオンの月	1982	紙本着色	
常盤 大空	天馬獎来図	1968	紙本着色	

展示室 B

【関根正二と近代洋画】				
高橋 由一	鐸木西美像	1881	カンヴァス・油彩	
岸田 劉生	静物（白き花瓶と台皿と林檎四個）	1918	カンヴァス・油彩	
万 鉄五郎	庫	1918	カンヴァス・油彩	
恩地孝四郎	静物（レモン）	1920	カンヴァス・油彩	
木村 莊八	樹の下に遊んでいる子供	1915	カンヴァス・油彩	
上野山清貢	ムッシュOの肖像	1915	カンヴァス・油彩	
関根 正二	風景	1915	カンヴァス・油彩	寄託作品
	姉弟	1918	カンヴァス・油彩	
	自画像	1918	カンヴァス・油彩	
川口 軌外	柘榴	1932	カンヴァス・油彩	
松本 竣介	赤い建物	1936	紙・油彩	
針生 鎮郎	王と妃・面—M	1988	カンヴァス・油彩	
田口 安男	斜に	1973	カンヴァス・油彩	
村上 善男	卅町に釘打ち（参）	1983	カンヴァス、紙・アクリル	
	卅町に釘打ち（四）	1983	カンヴァス、紙・アクリル	
工藤 哲巳	危機の中の芸術家の肖像	1976	ミクストメディア	
【海外版画名作選】				
パブロ・ピカソ	二人の裸婦	1945-46	紙・リトグラフ	18点組のうち5点
マルク・シャガール	少年時代の思い出	1958	紙・エッチング、アクアチント	10点組のうち4点
ジョルジュ・ルオー	流れる星のサーカス	1934-38	紙・アクアチント、エッチング	58点組のうち5点
フェルナン・レジェ	サーカス	1950	紙・リトグラフ	10点組のうち4点
マックス・エルンスト	博物誌	1926	紙・コロタイプ	34点組のうち6点
【現代彫刻】				
土谷 武	風 I—d	1977	軟鋼、ケヤキ	
建畠 覚造	WAVING FIGURE 47（大）	1987	合板・ウレタン塗装	

展示室 C

【ヨーロッパ、アメリカの美術】				
カミーユ・ピサロ	エラニーの菜園	1899	カンヴァス・油彩	

ポール・ゴーギャン	ブルターニュの子供	1889	紙・水彩、パステル	
ジャコモ・マンズー	車に乗った子供	1982	ブロンズ	
ベン・シャーン	トム・ムーニーの母親に挨拶するジミー・ウォーカー	1932-33	紙・グアッシュ	
	W.P.A. サンデー	1939	紙・グアッシュ	
	スイミングプール	1945	ボード・テンペラ	
	ラッキードラゴン	1963	紙・テンペラ	
	創造のアルファベット	1963	ボード・グアッシュ	
	マルテの手記より	1968	紙・リトグラフ	24点組のうち5点
ジョン・スローン	サンタフェからの二人の女	1921	カンヴァス・油彩	
レジナルド・マーシュ	回転ブランコ	1931	板・テンペラ	
アンドリュー・ワイエス	そよ風	1978	紙・水彩	
	農場にて	1989	紙・水彩	

展示室 D

【現代版画の諸相】

吉原 英雄	シーソー	1968	紙・エッチング、リトグラフ	展示期間：7月4日-8月23日
黒崎 彰	闇のコンポジション A	1970	紙・木版	展示期間：7月4日-8月23日
	失われた楽園 3	1972	紙・木版、シルクスクリーン	展示期間：7月4日-8月23日
一原 有徳	鉄炎 (円) 2	1985	紙・モノタイプ	展示期間：7月4日-8月23日
	K・YO	1985	紙・モノタイプ	展示期間：7月4日-8月23日
加納 光於	星・反芻学	1962	紙・インタリオ	展示期間：7月4日-8月23日
	星・反芻学	1962	紙・インタリオ	展示期間：7月4日-8月23日
	星・反芻学	1962	紙・インタリオ	展示期間：7月4日-8月23日
大宮 政郎	ミリオンカラットの友人たち III	1987	綿・エッチング	展示期間：7月4日-8月23日
	ミリオンカラットの友人たち IV	1987	綿・エッチング	展示期間：7月4日-8月23日
山野辺義雄	牢獄の寓話 1	1976	紙・銅版	展示期間：7月4日-8月23日
	魚の寓話 4	1976	紙・銅版	展示期間：7月4日-8月23日
饅 嘔	レインボー北斎、ポジション (A)	1970	紙・シルクスクリーン	展示期間：8月24日-10月1日
加納 光於	《しし座》—偶有と変容	1991-92	紙・カラーインタリオ (5点組)	展示期間：8月24日-10月1日
菅井 汲	黒	1960	紙・リトグラフ	展示期間：8月24日-10月1日
一原 有徳	K B E (1)	1978	紙・アクアチント	展示期間：8月24日-10月1日
	T A N	1985	紙・モノタイプ	展示期間：8月24日-10月1日
木村 光佑	アウト・オブ・タイム 24	1970	紙・アクリル、リトグラフ、シルクスクリーン	展示期間：8月24日-10月1日
	アウト・オブ・タイム 25	1970	紙・アクリル、リトグラフ、シルクスクリーン	展示期間：8月24日-10月1日
	アウト・オブ・タイム 26	1970	紙・アクリル、リトグラフ、シルクスクリーン	展示期間：8月24日-10月1日

【斎藤清の外国風景】

斎藤 清	憩い、パリ	1960	紙・木版	展示期間：7月4日-8月23日
	パリ (2)	1961	紙・木版	展示期間：7月4日-8月23日
	パリ (4)	1961	紙・木版	展示期間：7月4日-8月23日
	アン (シアトル)	1962	紙・コラグラフ	展示期間：7月4日-8月23日
	セントラル公園、ニューヨーク	1962	紙・コラグラフ	展示期間：7月4日-8月23日
	公園 (シアトル)	1962	紙・コラグラフ	展示期間：7月4日-8月23日
	彫刻 (メトロポリタン美術館にて) (A)	1962	紙・コラグラフ	展示期間：7月4日-8月23日
	ニューメキシコ	1965	紙・木版	展示期間：7月4日-8月23日
	タヒチ (C)	1971	紙・木版	展示期間：7月4日-8月23日
	サボテン (メキシコ) (A)	1963	紙・コラグラフ	展示期間：7月4日-8月23日
	キラウエア、ハワイ (B)	1964	紙・コラグラフ	展示期間：7月4日-8月23日
	パニアンツリー、ハワイ (A)	1964	紙・コラグラフ	展示期間：7月4日-8月23日
	印度 (A)	1968	紙・木版	展示期間：7月4日-8月23日
	印度 (C)	1968	紙・木版	展示期間：7月4日-8月23日
	教会、フランス (A)	1960	紙・木版	展示期間：8月24日-10月1日
	パリ (3)	1961	紙・木版	展示期間：8月24日-10月1日
	パリ (5)	1961	紙・木版	展示期間：8月24日-10月1日
	グリニッチビレッジ (ニューヨーク)	1962	紙・コラグラフ	展示期間：8月24日-10月1日
	ノスタルジア (ニューヨーク)	1962	紙・コラグラフ	展示期間：8月24日-10月1日
	彫刻 (メトロポリタン美術館にて) (B)	1963	紙・コラグラフ	展示期間：8月24日-10月1日
	尼僧 (メトロポリタン美術館にて)	1962	紙・コラグラフ	展示期間：8月24日-10月1日
	タヒチ (A)	1966	紙・木版	展示期間：8月24日-10月1日
	野良犬、メキシコ	1956	紙・木版	展示期間：8月24日-10月1日
	サボテン (メキシコ) (B)	1963	紙・コラグラフ	展示期間：8月24日-10月1日
	キラウエア、ハワイ (C)	1964	紙・コラグラフ	展示期間：8月24日-10月1日
	パニアンツリー、ハワイ (D)	1964	紙・コラグラフ	展示期間：8月24日-10月1日
	印度 (B)	1968	紙・木版	展示期間：8月24日-10月1日
	城、印度	1968	紙・木版	展示期間：8月24日-10月1日

ホール、屋外展示

*第1期と同様

第3期 2006年10月3日～12月27日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【近代の日本画】				
下村 観山	寒空	1923	絹本着色	
横山 大観	山間旅行之図	1901	紙本墨画	寄託作品
酒井 三良	残秋	1933	紙本着色	
坂内 青嵐	運動会之図	1915	紙本着色	屏風六曲一隻
木下 春	機織	1934	紙本着色	屏風二曲一隻
岡村宇太郎	舞妓図	1925	絹本着色	
安田 靱彦	茶室	1962	紙本着色	
太田 秋民	女	1932	絹本着色	
大山 忠作	O先生	1946	紙本着色	
大平 華仙	晩山幽趣	1965	紙本着色	
飯塚 栖圃	女沼の森	1957	紙本着色	
須田 珙中	枯山水石組	1956	紙本着色	
福王寺法林	ヒマラヤの花	1983	紙本着色	
内田あぐり	ロマノフの海	1984	紙本着色	
仲山 計介	エオンタ No.6201～6203	1987	紙本着色	屏風二曲一隻(3点組)
星野 真吾	麻紙による心象(集)	1960	紙・岩絵具など	
	暗色の記憶	1979	紙・岩絵具など	
	生きものC	1971	紙・インク	
	生きものD	1971	紙・インク	
上野 泰郎	人間讃美	1977	紙本着色	
斎藤 隆	ドラマ	1986	紙・コンテ	

展示室 B

【関根正二と近代洋画】				
岸田 劉生	静物(白き花瓶と台皿と林檎四個)	1918	カンヴァス・油彩	
恩地孝四郎	静物(レモン)	1920	カンヴァス・油彩	
万 鉄五郎	庫	1918	カンヴァス・油彩	
長谷部英一	二人の少女	不詳	カンヴァス・油彩	
宮川 教助	逍遙	1922	カンヴァス・油彩	
石井 柏亭	水車場	1927	カンヴァス・油彩	
	果樹園の午後	1928	カンヴァス・油彩	
猪熊弦一郎	風景	1935	カンヴァス・油彩	寄託作品
須田国太郎	ダロカ古城(城外)	1922	カンヴァス・油彩	寄託作品
鳥海 青児	北アフリカ・アルゼリーアの広場	不詳	カンヴァス・油彩	
	二重橋	不詳	カンヴァス・油彩	
関根 正二	砂村石渡牧場	1915 頃	板・油彩	寄託作品
	菊川橋辺り	1915	板・油彩	寄託作品
	井上郁像	1917	カンヴァス・油彩	寄託作品
	姉弟	1918	カンヴァス・油彩	
	裏の娘	1917	紙・水彩、パステル、鉛筆	
	銚子海岸	1916	紙・インク	
	若い男	1919	紙・インク	
脇田 和	窓	1966	カンヴァス・油彩	
織田 彩子	飛ぶ	1967	カンヴァス・油彩	
斎藤 正夫	トロワ・ガラス	1957	カンヴァス・油彩	
田淵 安一	豊饒の樹 未完の季節 No.1	1978	カンヴァス・油彩	
李 禹煥	遺跡地にて	1984	紙・リトグラフ(5点組)	
佐藤 辰治	古代の祈り	1962	カンヴァス・油彩	
松田 松雄	風景(川のほとり)	1975	カンヴァス・油彩	
玉川 信一	風の日	1992	カンヴァス・油彩	
工藤 哲巳	危機の中の芸術家の肖像	1976	ミクストメディア	
建畠 覚造	WAVING FIGURE 47(大)	1987	合板・ウレタン塗装	
土谷 武	風 I—d	1977	軟鋼、ケヤキ	

展示室 C

【20世紀のアメリカ絵画】				
清水 登之	十四番街の地下鉄駅	1918	カンヴァス・油彩	
野田 英夫	牛乳ワゴン	1936	カンヴァス・油彩	
石垣栄太郎	横すわりの裸婦	1930 頃	紙・木炭	

	横たわる裸婦	1950 頃	紙・コンテ	
ベン・シャーン	マルテの手記より	1968	紙・リトグラフ	24点組のうち5点
	農民にたずねよ	1941	ボード・グアッシュ	
	労働者より農民へ…感謝をこめて	1944	紙・オフセット	
	我々は平和を望んでいる	1946	紙・リトグラフ	
	ラッキードラゴン	1960	綿布・テンペラ	
	創造のアルファベット	1963	ボード・グアッシュ	
国吉 康雄	婦人と子供	1920	カンヴァス・油彩	
ジョン・スローン	五番街の批評家たち	1940	カンヴァス・油彩	
アンドリュー・ワイエス	松ぼっくり男爵	1976	ボード・テンペラ	
	ガニングロック	1966	紙・水彩	
【彫刻】				
ジャコモ・マンズー	車に乗った子供	1982	ブロンズ	

展示室 D

【木版画の表現】

日和崎尊夫	詩画集『卵』	1970	紙・木口木版 (10点組)	展示期間：10月3日 - 11月15日
斎藤 清	会津の冬 (47)	1981	紙・木版	展示期間：10月3日 - 11月15日
	会津の冬 (52)	1982	紙・木版	展示期間：10月3日 - 11月15日
	会津の冬 (56)	1982	紙・木版	展示期間：10月3日 - 11月15日
	会津の冬 (62) 三島町大石田	1986	紙・木版	展示期間：10月3日 - 11月15日
	会津の冬 (66) 喜多方南町	1986	紙・木版	展示期間：10月3日 - 11月15日
	会津の冬 (68) 猪苗代湖	1987	紙・木版	展示期間：10月3日 - 11月15日
	会津の冬 (71) 若松	1987	紙・木版	展示期間：10月3日 - 11月15日
	会津の冬 (78) 坂下	1988	紙・木版	展示期間：10月3日 - 11月15日
	会津の冬 (84) 西平	1989	紙・木版	展示期間：10月3日 - 11月15日
	会津の冬 (86) 大石田	1990	紙・木版	展示期間：10月3日 - 11月15日
	会津の冬 (92) 石神	1991	紙・木版	展示期間：10月3日 - 11月15日
	会津の冬 (96) 三島町・間方	1992	紙・木版	展示期間：10月3日 - 11月15日
畦地梅太郎	子供	1948	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
山口 源	能役者	1958	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
萩原 英雄	石の花 (青)	1960	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
清宮 質文	火屋の中	1966	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	虜囚の窓	1972	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	窓のカンテラ	1972	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	深夜の蠟燭	1974	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
日和崎尊夫	KALPA X	1970	紙・木口木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	KALPA 夜	1982	紙・木口木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	メルヘン	1982	紙・木口木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	海花	1983	紙・木口木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
斎藤 清	会津の冬 (48)	1981	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	会津の冬 (53)	1982	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	会津の冬 (58)	1982	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	会津の冬 (64) 坂下町宇内	1986	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	会津の冬 (67) 坂下立木観音	1987	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	会津の冬 (74) 喜多方	1987	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	会津の冬 (75) 喜多方	1988	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	会津の冬 (80) 柳津	1989	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	会津の冬 (85) 坂下町・宇内 (4)	1990	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	会津の冬 (87) 野沢 (1)	1991	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	会津の冬 (93) 金山町	1991	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日
	会津の冬 (100) 三島町・大石田	1992	紙・木版	展示期間：11月16日 - 12月27日

ホール、屋外展示

マリノ・マリーニ	騎手	1956-57	ブロンズ	
佐藤 忠良	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
エミリオ・グレコ	スケートをする女	1951	ブロンズ	
フェルナン・レジェ	歩く花	1952-53原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
井上 武吉	my sky hole 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	

第4期 2007年1月5日～3月25日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
村上 華岳	早春風景	1919 頃	絹本着色	

森田 恒友	葛飾野	1930	紙本着色	
松岡 映丘	沼川	1917 頃	絹本着色	
	入江	1917 頃	絹本着色	
	薄野	1917 頃	絹本着色	
	雪路	1917 頃	絹本着色	
酒井 三良	左義長	1920	絹本着色	
	災神を焼く残雪の夜	1920-21 頃	絹本着色	屏風二曲一隻 寄託作品
岩橋 英遠	土	1939	紙本着色	屏風二曲一隻 寄託作品
【大山忠作の絵画】				
大山 忠作	O 先生	1946	紙本着色	展示期間：1 月 31 日 - 3 月 25 日
	室内	1950	紙本着色	
	幼童曼陀羅	1967	紙本着色	
	岡潔先生像	1968	紙本着色	
	母子像	1969	紙本着色	
	京舞	1977	紙本着色	
	爽涼	1980	紙本着色	
【現代日本の陶芸】				
山田 光	作品	1966	陶器	
	白の間隙	1971	陶器	
	黒陶 陶面の中のパイプ	1981	陶器	
	黒陶と金彩の窓	1981	陶器	
	銀泥 陶壁	1991	陶器	
	銀泥 楕円のパイプ	1995	陶器	
鈴木 治	数の土面	1963	陶器	
	泥象	1965	陶器	
	掌上泥象三十八景	1987 原型制作	陶器	
	連歌	1991	陶器	
【現代彫刻】				
土谷 武	風 I - d	1977	軟鋼、ケヤキ	

展示室 B

【関根正二と大正・昭和期の洋画】				
関根 正二	牛舎	1915 頃	カンヴァス・油彩	
	風景	1916 頃	板・油彩	
	一本杉の風景	1918 頃	カンヴァス・油彩	
	自画像	1918	カンヴァス・油彩	
	男	1916	紙・インク	
	男の顔	1917	紙・インク	
	若い男	1919	紙・インク	
岸田 劉生	地	1915	紙・インク、水彩	
萬 鉄五郎	庫	1918	カンヴァス・油彩	
木村 荘八	浅草元旦	1945	カンヴァス・油彩	
長谷川利行	浅草の女	1935	カンヴァス・油彩	
松本 竣介	駅	1942	板・油彩	
麻生 三郎	家族	1959	カンヴァス・油彩	
吉井 忠	父と娘	1965	カンヴァス・油彩	
桂 ゆき	親亀の背中に小亀をのせて	1970	板・油彩、コラージュ	
脇田 和	窓	1966	カンヴァス・油彩	
村井 正誠	風の人	1968	カンヴァス・油彩	
田口 安男	季節を通り抜けて	1980	パネル・卵黄テンペラ	
菅井 汲	二つの箱	1966	合板・アクリル絵具	
【百瀬寿 (1944 年生れ) の絵画と版画】				
百瀬 寿	NE.Blue,Blue,Blue and Blue	1993	綿布、ネパール紙・岩絵具	
	S-Blue and Orange by Gold and Silver	1984	紙・シルクスクリーン	
	S-Blue by Silver and Gold	1985	紙・シルクスクリーン	
	S-Orange and Green by Gold and Silver	1985	紙・シルクスクリーン	
	S-Pink by Silver and Gold	1985	紙・シルクスクリーン	
	S-Reversible,Blues thru Pinks	1986	紙・シルクスクリーン	
	S-Silver and Gold by Silver and Gold	1986	紙・シルクスクリーン	
	S-Reversible,Metallic Green thru Metallic Red	1991	紙・シルクスクリーン	
	S-Reversible,Metallic Magenta thru Metallic Blue	1991	紙・シルクスクリーン	

展示室 C

ジョン・スローン	ジェファーソンマーケット、ナイト	1909	カンヴァス・油彩	
	ドーリス	1915	カンヴァス・油彩	
レジナルド・マーシュ	回転ブランコ	1931	板・テンペラ	
ベン・シャーン	トム・ムーニーの母親に挨拶するジミー・ウォーカー	1932-33	紙・グアッシュ	

W.P.A サンデー	1939	紙・グアッシュ	
農民にたずねよ	1941	ボード・グアッシュ	
スイミングプール	1945	ボード・テンペラ	
ハレルヤ	1970-71	紙・リトグラフ	
文字をめぐる愛と喜び	1963 出版		ゲロスマン社
ある絵の伝記	1966 出版		ゲロスマン社
アンドリュー・ワイエス ガニングロック	1966	紙・水彩	
農場にて	1989	紙・水彩	
ジャコモ・マンズー 車に乗った子供	1982	ブロンズ	

展示室 D

【斎藤 清 霊峰 会津の冬】

斎藤 清	霊峰 (1)	1980	紙・木版	展示期間：1月5日-2月15日
	霊峰 (5)	1980	紙・木版	展示期間：1月5日-2月15日
	霊峰 (8)	1980	紙・木版	展示期間：1月5日-2月15日
	霊峰 (12)、秋 (C)	1980	紙・木版	展示期間：1月5日-2月15日
	霊峰 (14)、唐松	1980	紙・木版	展示期間：1月5日-2月15日
	霊峰 (16)、牧場 (C)	1980	紙・木版	展示期間：1月5日-2月15日
	会津の冬 (81) 門・光明寺	1989	紙・木版	展示期間：1月5日-2月15日
	会津の冬 (83) 坂下・朝立	1989	紙・木版	展示期間：1月5日-2月15日
	会津の冬 (88) 三島町間方 (1)	1991	紙・木版	展示期間：1月5日-2月15日
	会津の冬 (91) 坂下北裏通り	1991	紙・木版	展示期間：1月5日-2月15日
	会津の冬 (95) 高田町・高橋	1992	紙・木版	展示期間：1月5日-2月15日
	会津の冬 (99) 若松・上三寄	1992	紙・木版	展示期間：1月5日-2月15日
	霊峰 (2)	1980	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	霊峰 (7)	1980	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	霊峰 (11)	1980	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	霊峰 (13)	1980	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	霊峰 (15)	1980	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	霊峰 (19)	1980	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	会津の冬 (79) 坂下町宇内 (3)	1989	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	会津の冬 (82) 柳津町	1989	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	会津の冬 (89) 大野	1991	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	会津の冬 (90) 野沢 (2)	1991	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	会津の冬 (97) 金山町・大志	1992	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	会津の冬 (98) 本郷町・馬越	1992	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日

【前川千帆の版画】

前川 千帆	野外小品	1933	紙・木版（10点組）		展示期間：1月5日-2月15日
	(1) 鳥	(2) 風	(3) テニス	(4) 蝶	(5) 旗
	(6) パラソル	(7) 蝸星座	(8) 犬	(9) 酒	(10) 望遠鏡
	本所工場地帯（新東京百景）	1929	紙・木版		展示期間：1月5日-2月15日
	新宿夜景（新東京百景）	1929-32頃	紙・木版		展示期間：1月5日-2月15日
	三角ずきん	1941以降	紙・木版		展示期間：1月5日-2月15日

【平川清蔵と渡辺光徳】

平川 清蔵	夜	1921	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	をんな	1924	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	失題	1924	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	山 (風景)	1925	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	或る彫刻家のアトリエ	1926	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	風景 (坂道)	1926	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	須賀川付近	1927	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	奈良風景	1927	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	失題 (草の中)	1931	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
	風景	1931	紙・木版	展示期間：2月16日-3月25日
渡辺 光徳	荒川	1931	紙・銅版	展示期間：2月16日-3月25日
	風景	不詳	紙・銅版	展示期間：2月16日-3月25日
	早川雪洲像	1931	紙・銅版	展示期間：2月16日-3月25日

ホール、屋外展示

ヘンリー・ムーア	母と子：腕	1980	ブロンズ	
マリノ・マリーニ	騎手	1956-57	ブロンズ	
エミリオ・グレコ	スケートをする女	1951	ブロンズ	
フェルナン・レジェ	歩く花	1952-53原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
佐藤 忠良	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
林 範親	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル	寄託作品
井上 武吉	MY SKY HOLE 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	

生誕100年 特集展示 渡部菊二展

会津若松市出身の渡部菊二（1907-1947）は、昭和の戦前期を代表する水彩画家のひとりである。ピンクや黄、紫、青など澄んだ明るい色彩、力強い筆触、大胆にデフォルメされた人物像、意表をつく斬新な画面構成など、新しい造形感覚と都会的な雰囲気満ちた水彩画を次々と生み出した。

日本水彩画会や白日会を中心に作品を発表し、1940（昭和15）年には友人の水彩画家、春日部たすくや小堀進らと水彩連盟を結成。新しい水彩画の方向性を模索したが、生来身体が弱かった彼は結核に冒され、終戦直後の1947（昭和22）年、40歳の若さでこの世を去った。

この特集展示では、渡部菊二の生誕100年を記念して、当館で収蔵する渡部菊二の作品20点を一堂に展示。その短くも充実した制作活動を振り返った。

会 期：2007年1月11日（木）～2月4日（日）

会 場：企画展示室B

休館日：毎週月曜日

担 当：吉村有子

展覧会リーフレット

規格／A3版二つ折り 図版／モノクロ21点

□関連記事

- ・「目見張る渡部菊二の世界 県立美術館で生誕100年特集展」
『福島民報』2007年1月12日
- ・「若松出身の渡部菊二 生誕100年で特集展示」
『福島民友』2007年1月14日
- ・「会津若松市出身の水彩画家 渡部菊二の記念展」
『毎日新聞（福島県版）』2007年1月30日

□出品リスト

No.	作品名	制作年	材質技法	サイズ（cm）
1	たそがれ	1923（大正12）	紙・水彩	33 × 25.4
2	裏町	1932（昭和7）	紙・水彩	49.9 × 61
3	新聞売り	1934（昭和9）	紙・水彩	74.7 × 58.5
4	人形売りの少女	1934（昭和9）	紙・水彩	75.5 × 58.1
5	奏でる女	1937（昭和12）	紙・水彩	59.2 × 59.2
6	夏の女	1938（昭和13）	紙・水彩	88.2 × 52.5
7	肩掛けの女	1938（昭和13）頃	紙・油彩（水彩も併用か？）	23 × 16.2
8	奈良植物園	1938（昭和13）頃	紙・水彩	19 × 30
9	手袋	1939（昭和14）	紙・水彩	65 × 51.8
10	勤労の娘たち	1940（昭和15）	紙・水彩	115.8 × 90.6
11	絵を描く人々	1941（昭和16）	紙・水彩	90.7 × 62.5
12	木瓜を持つ女	1941（昭和16）頃	紙・水彩	64.9 × 52.2
13	水辺	1941（昭和16）頃	紙・水彩	19.3 × 30
14	水辺微風	1941（昭和16）頃	紙・水彩	24.4 × 33.4
15	編物をする	1942（昭和17）	紙・水彩	90 × 64.9
16	正月と少女	1942（昭和17）	紙・水彩	58.4 × 36.8
17	スケッチする少女	1943（昭和18）	紙・水彩	53.2 × 45.4
18	夏の子	1943（昭和18）	紙・水彩	64 × 52.3
19	母と子	1943（昭和18）	紙・水彩	90 × 63
20	耕す家族	不詳	紙・水彩	65.8 × 89



展示風景

移動美術館

「近代の名品にみる人物像」展

いわき市立草野心平記念文学館での開催。美術に造詣の深い栗津則雄同館館長が作品選定の段階から関わり、「人物像」をテーマに、関根正二作品、ルオー作品など海外作品、洋画作品、版画作品、彫刻作品から37点を展観した。また、同館では所蔵の棟方志功「草野心平像」なども併設して展示した。

入館者は同館の通常時期より増え、2,000人近くにのぼった。また、当館所蔵品についての栗津館長の講座も好評であった。

いわき地区で多くの方に県立美術館の作品に親しんでいただくとともに、外部の視点で館蔵品をテーマ展示するという、当館にとっても新しい試みとなった。

会期：2006年10月7日(土)～11月5日(日)

開館時間：9:00～17:00

休館日：毎週月曜日、10月10日

主催：いわき市立草野心平記念文学館、福島県立美術館

会場：いわき市立草野心平記念文学館

(いわき市小川町高萩夕道1-39 電話0246-83-0005)

観覧料：無料

観覧者数：1,941人

担当：増渕鏡子

展覧会リーフレット

規格／A3版二つ折り カラー24点

内容／ごあいさつ(栗津則雄氏)、作家作品解説、展示作品リスト

□関連事業

・美術講座

10月8日(日) 栗津則雄氏(いわき市立草野心平記念文学館館長) 25名

・ギャラリートーク

11月28日(日) 増渕鏡子(当館主任学芸員) 7名



展示風景



鑑賞のてびき 表紙

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法
海外作品（版画・彫刻）				
1	ジョルジュ・ルオー	辱められるキリスト・・・（版画集「ミセレーレ」より）	1922	紙・銅版
2	ジョルジュ・ルオー	顔に皺を描かぬ者はいようか？（ 〃 ）	1923	紙・銅版
3	ジョルジュ・ルオー	生きるとは辛き業・・・（ 〃 ）	1922	紙・銅版
4	ジョルジュ・ルオー	山の手夫人は、天国に予約席ありと思う（ 〃 ）	1921	紙・銅版
5	ジョルジュ・ルオー	母たちに忌み嫌われる戦争（ 〃 ）	1927	紙・銅版
6	ジョルジュ・ルオー	法は過酷、されど法（ 〃 ）	1926	紙・銅版
7	ジョルジュ・ルオー	〈死に至るまで、そして十字架上の死に至るまで従順なる〉（ 〃 ）	1926	紙・銅版
8	ジョルジュ・ルオー	〈我らが癒されたるは、彼の打傷によりてなり〉（ 〃 ）	1922	紙・銅版
9	フェルナン・レジェ	版画集「サーカス」No.43	1950	紙・リトグラフ
10	フェルナン・レジェ	版画集「サーカス」No.45	1950	紙・リトグラフ
11	パブロ・ピカソ	版画集「二人の裸婦」No.5	1945-46	紙・リトグラフ
12	パブロ・ピカソ	版画集「二人の裸婦」No.17	1945-46	紙・リトグラフ
13	マルク・シャガール	肘掛け椅子の傍らのサバケーヴィチ（版画集「死せる魂」No.38）	1923-25	紙・銅版
14	マルク・シャガール	検事死す（版画集「死せる魂」No.84）	1923-25	紙・銅版
15	マルク・シャガール	版画集「少年時代の思い出」No.3	1958	紙・銅版
16	マルク・シャガール	版画集「少年時代の思い出」No.9	1958	紙・銅版
17	マックス・エルンスト	イヴ、我々に残された唯一の女（版画集「博物誌」NO.34）	1926	紙・コロタイプ
18	ヘンリー・ムーア	母と子：腕	1980	ブロンズ
洋画				
19	岸田劉生	自画像	1914	カンヴァス・油彩
20	恩地孝四郎	自画像D（白和服）	1919	カンヴァス・油彩
21	長谷川利行	浅草の女	1935	カンヴァス・油彩
22	木村荘八	自画像	1915	紙・インク、墨
23	前田寛治	裸婦	1925	カンヴァス・油彩
24	関根正二	自画像	1916 頃	紙・インク
25	吉井忠	老農夫	1964	カンヴァス・油彩
26	吉井忠	つむぐ女	1965	カンヴァス・油彩
版画				
27	岸田劉生	天地創造 欲望	1914	紙・銅版
28	岸田劉生	天地創造 怒れるアダム	1914	紙・銅版
29	岸田劉生	天地創造 石を噛む人	1914	紙・銅版
30	恩地孝四郎	母と子	1917	紙・木版
31	恩地孝四郎	母と子	1917	紙・木版
32	恩地孝四郎	「氷島」の作者 萩原朔太郎像	1943	紙・木版
33	川上澄生	女と洋燈（6）	1972	紙・木版
34	川上澄生	女と洋燈（8）	1972	紙・木版
35	斎藤清	鏡（自画像）	1938 頃	紙・木版
36	斎藤清	少女	1938	紙・木版
37	斎藤清	選炭	1942	紙・木版

企画展

1. 日本洋画の最高峰 須田国太郎展

会 期：2006年4月8日(土)～5月14日(日)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B

休館日：毎週月曜日

観覧料：一般・大学生 700(560) 円／高校生 400(320) 円／

小・中学生 300(240) 円 ※ () 内は 20 名以上の団体料金

観覧者数：6,369 名

担 当：増淵鏡子、久慈伸一

主 催：福島県立美術館、京都国立近代美術館、NHK 福島放送局、
福島民報社

後 援：福島市、福島市教育委員会

【内容】

須田国太郎 (1891-1961) は日本洋画史上の巨匠である。京都に生まれ、京都帝国大学で美学・美術史を学び、スペインに留学してプラド美術館でティツィアーノやエル・グレコらの技法を研究した。帰国後は独立美術協会会員として作品を発表し、1947（昭和 22）年には日本芸術院会員となる。須田は東西絵画の融合をめざし、西欧の写実的絵画の研究を基礎として日本的な幽玄の美を表現した。

本展は、『海亀』『犬』『鶴』『窪八幡』などの代表作や、彼が傾倒した能をテーマにした作品を交え、須田芸術の全容を紹介する企画であった。

【総括】

本展は京都国立近代美術館が中心となって企画し、東京国立近代美術館と当館に巡回した質の高い展覧会であったが、観覧者数は期待したほどではなかった。須田国太郎が京都を中心に活動した画家であって東北になじみが少なかったことと、その重厚な画風が受け入れられるのに時間がかかったことがあげられる。

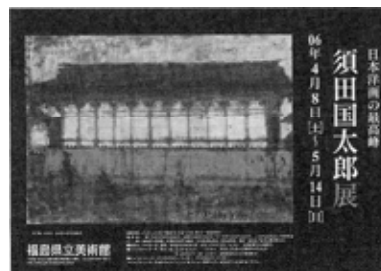
そのためギャラリートーク（学芸員による作品解説）のほかに、初めての試みとしてコレクターズトーク（須田作品を所有している人のお話）を企画し、須田の絵にひかれた理由や、須田の絵の魅力についてお話をいただいたが、この企画は好評であった。

□印刷物

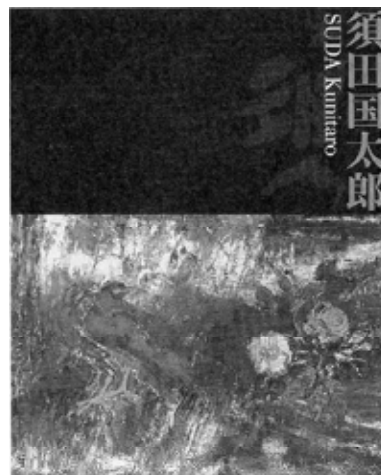
- ・ポスター（B2 B3）、チラシ（A4）、案内ハガキ
- ・展覧会図録『須田国太郎展』（2006 年 京都国立近代美術館発行）



B2 ポスター



B3 ポスター



カタログ表紙

□関連事業

・講演会「父の思い出」

講師：須田寛氏（須田国太郎長男）

日時：4月23日(日)

会場：美術館講堂（入場無料） 100名

・コレクターズトーク「私の一品」

① 4月 8日(土) 丹治孝子氏（当館友の会会長） 70人

② 4月29日(土) 河野保雄氏（百点美術館館主） 40人

・ギャラリートーク ＊各回とも 14:00-

① 4月15日(土) 増渕鏡子（当館学芸員） 20人

② 5月 6日(土) 久慈伸一（当館学芸員） 20人

・先生のための美術館入門

4月23日(日) 6人

□関連記事

・「須田国太郎展きょう開幕」『福島民報』2006年4月8日

・「日本最高峰の洋画鑑賞して 須田国太郎展が開幕」

『福島民友』4月9日

・「奥の深い近代洋画 須田国太郎展が開幕」

『福島民報』4月9日

・「福島県立美術館企画展『須田国太郎展』」

『河北新報』4月15日 増渕鏡子

・「画家須田国太郎の世界」

『福島民報』4月24日 増渕鏡子

・「『須田国太郎展』長男・寛氏が『思い出』講演」

『福島民友』4月25日

・「須田国太郎展 河野さん解説」『福島民報』5月2日

・「《あぶくま抄》」『福島民報』5月4日



展示風景



須田寛氏講演会（4/23）



丹治孝子氏コレクターズトーク（4/8）



ギャラリートーク（5/6）

出品リスト

No.	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
【Ⅰ. 1932 年 第一回個展】				
1	アーヴィラ	1920	油彩・画布	京都国立近代美術館
2	風景（ポンテヴェドゥラ）	1920	油彩・画布	愛知県美術館
3	カスティリヤの山村	1921	油彩・画布	財団法人駒形十吉記念美術館
4	モヘンテ	1922	油彩・画布	
5	ルイザ・バルバラ	1922	油彩・画布	
6	ダロカ古城	1922	油彩・画布	
7	自画像	1929	油彩・画布	
8	発掘	1930	油彩・画布	京都大学人文科学研究所
9	グレコ・イベリヤの首	1931	油彩・画布	
10	花山天文台遠望	1931	油彩・画布	蘭島閣美術館
11	蔬菜	1932	油彩・画布	東京国立近代美術館
12	ムセオの一隅	1932	油彩・画布	
13	法観寺塔婆	1932	油彩・画布	東京国立近代美術館
14	西班牙山間（ペーニャ・マウラ）	1932	油彩・画布	東京国立近代美術館
15	椿	1932	油彩・画布	姫路市立美術館
16	ティツィアーノ作「ヴィーナスとオルガン奏者」模写	1919	油彩・画布	京都市美術館
17	ティントレット作「耶蘇洗礼図」模写	1919	油彩・画布	
18	エル・グレコ作「復活」模写	1921	油彩・画布	京都市美術館
19	ティントレット作「水陸の戦（ヘレネの略奪）」模写	1922	油彩・画布	京都市美術館
【Ⅱ. 1933-1944 戦前】				
20	少女	1934	油彩・画布	京都国立近代美術館
21	水浴	1935	油彩・画布	福岡市美術館
22	修理師	1938	油彩・画布	京都国立近代美術館
23	自画像	1938 頃	油彩・画布	
24	唐招提寺礼堂	1933	油彩・画布	
25	城南の春	1933	油彩・画布	京都国立近代美術館
26	夏の朝	1933	油彩・画布	東京国立近代美術館
27	夏の午後	1933	油彩・画布	財団法人中野美術館
28	夏の夕	1933	油彩・画布	京都国立近代美術館
29	連山	1933	油彩・画布	京都国立近代美術館
30	早春	1934	油彩・画布	京都市美術館
31	東山トンネル	1934	油彩・画布	
32	上田平	1934	油彩・画布	
33	冬	1934 頃	油彩・画布	
34	雨後（水間村）	1935	油彩・画布	蘭島閣美術館
35	三輪の山なみ	1935-61	油彩・画布	京都市美術館
36	工場地帯	1936	油彩・画布	兵庫県立近代美術館
37	村	1937	油彩・画布	京都市美術館
38	冬の漁村	1937	油彩・画布	ふくやま美術館
39	時雨（筆石村）	1937-40	油彩・画布	
40	筆石村	1938	油彩・画布	静岡県立美術館

41	葛城山	1940-61 頃	油彩・画布	京都市美術館
42	夜桜	1941	油彩・画布	京都国立近代美術館
43	大和般若寺近郊	1941	油彩・画布	
44	夏	1942	油彩・画布	愛知県美術館
45	冬	1942	油彩・画布	
46	大同雲崗大佛寺第十九洞	1942	油彩・画布	
47	雲崗石窟大佛寺第二十洞	1942	油彩・画布	
48	校倉（甲）	1943	油彩・画布	京都国立近代美術館
49	校倉（乙）	1943	油彩・画布	京都国立近代美術館
50	石組習作（1）	1944	油彩・画布	京都市美術館
51	石組習作（2）	1944	油彩・画布	京都市美術館
52	石組（保国寺）	1944	油彩・画布	京都市美術館
53	ヴァイオリン	1933	油彩・画布	財団法人中野美術館
54	野薔薇	1934	油彩・画布	
55	黒豹	1937	油彩・画布	
56	書斎	1937	油彩・画布	東京国立近代美術館
57	水田	1938	油彩・画布	
58	秋草	1939	油彩・画布	
59	海亀	1940	油彩・画布	京都国立近代美術館
60	隼	1940	油彩・画布	京都市美術館
61	歩む鷺	1940	油彩・画布	東京国立近代美術館
62	波斯猫	1940	油彩・画布	東京国立近代美術館
63	静物（蔬菜）	1940	油彩・画布	蘭島閣美術館
64	卓上静物	1940	油彩・画布	
65	雑草	1940	油彩・画布	蘭島閣美術館
66	白猫	1941	油彩・画布	
67	牡丹	1941	油彩・画布	
68	戸外静物	1941	油彩・画布	京都府立総合資料館 （京都文化博物館管理）
69	冬の空	1942	油彩・画布	財団法人駒形十吉記念美術館
70	紅薔薇	1942	油彩・画布	蘭島閣美術館
71	黄豹	1944	油彩・画布	蘭島閣美術館

【Ⅲ. 1945-61 年 戦後】

72	婦人像（須田夫人）	1947	油彩・画布	
73	脱衣	1948	油彩・画布	
74	貝	1951	油彩・画布	
75	断崖と漁夫達	1951	油彩・画布	東京国立近代美術館
76	新緑	1945	油彩・画布	メナード美術館
77	叢	1947	油彩・画布	財団法人駒形十吉記念美術館
78	秋晴れの疏水	1948	油彩・画布	
79	岬（室戸）	1949	油彩・画布	
80	溜池	1950	油彩・画布	
81	八幡平	1954	油彩・画布	京都市美術館
82	八幡平（焼山）	1954	油彩・画布	
83	窪八幡	1955	油彩・画布	東京国立近代美術館

84	杉	1955	油彩・画布	愛媛県立美術館
85	ある建築家の肖像	1956	油彩・画布	
86	魚市場	1957	油彩・画布	財団法人駒形十吉記念美術館
87	鋤山	1959	油彩・画布	
88	雑草	1948	油彩・画布	
89	黒鶴	1948	油彩・画布	
90	犬	1950	油彩・画布	東京国立近代美術館
91	卓上	1950	油彩・画布	
92	鶉	1952	油彩・画布	京都国立近代美術館
93	静物	1952	油彩・画布	
94	棚上静物	1952	油彩・画布	
95	動物園	1953	油彩・画布	
96	山羊と木蓮	1953	油彩・画布	
97	走鳥	1953	油彩・画布	京都市立芸術大学芸術資料館
98	真名鶴	1953	油彩・画布	
99	豹（黒豹）	1954	油彩・画布	
100	禽舎	1954	油彩・画布	東京国立近代美術館
101	樹下	1954	油彩・画布	愛知県美術館
102	夏の花	1954	油彩・画布	
103	バラ	1955 頃	油彩・画布	
104	るりみつどり	1956	油彩・画布	広島県立美術館
105	偶感	1958	油彩・画布	
106	めろんと西瓜（絶筆）	1961	油彩・画布	

【IV. 珠玉の小品】

107	薔薇と小禽	1939	油彩・画布	
108	鳥の図	1939 頃	油彩・画布	財団法人駒形十吉記念美術館
109	ざくろ	1940	油彩・画布	蘭島閣美術館
110	花と鳥	1941-44 頃	油彩・画布	蘭島閣美術館
111	溪流の鷺	1942	油彩・画布	蘭島閣美術館
112	鳥	1942 頃	油彩・板	
113	水鳥	1943 頃	油彩・画布	
114	桃花（唐桃）	1947	油彩・画布	財団法人駒形十吉記念美術館
115	裸婦	1948	油彩・画布	
116	白鳩	1949-51 頃	油彩・画布	財団法人駒形十吉記念美術館
117	庭の花	1951	油彩・画布	財団法人駒形十吉記念美術館
118	栗林公園	1952	油彩・画布	高松市美術館
119	水禽	1954	油彩・画布	
120	鷺	不詳	油彩・板	
121	鷺	不詳	油彩・画布	

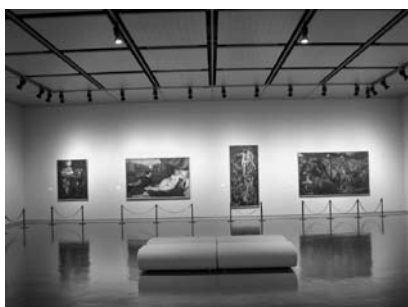
【V. 能・狂言】

122	舟弁慶前シテ	1922 頃	水彩・紙	
123	大原御幸	1942	油彩・画布	
124	山姥	1948	グワッシュ・紙	京都国立近代美術館
125	熊野	1949 頃	グワッシュ・紙	

126	野宮	1945 頃	油彩・画布	
127	仕舞（安宅 金剛永謹）	1956	紙本墨画着色	
128	大原御幸	1927	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
129	葵上	1932	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
130	熊野 花之留	1933	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
131	熊野	1937	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
132	野宮	1941	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
133	山姥	1942	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
134	邯鄲	1942	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
135	花月・名取川	1942	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
136	砧	1943	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
137	鞍馬天狗・弱法師	1944	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
138	景清	1944	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
139	野宮	1945	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
140	松風	1945	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
141	熊野 三段之舞	1949	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
142	道成寺（11 枚）	1949	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
143	邯鄲	1951	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
144	砧 梓之出	1951	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
145	邯鄲 盤渉・月之働	1953	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
146	鞍馬天狗	1954	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
147	小原御幸	不詳	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
148	熊野	不詳	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館
149	景清	不詳	鉛筆・紙	大阪大学附属図書館

【特別出品】

	華北大同善化寺	1945 頃	紙・墨	
--	---------	--------	-----	--



2. カミーユ・クローデル展 —愛と運命を刻んだ彫刻家—

会 期：2006年5月30日(火)～7月17日(月)(祝)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B

休館日：毎週月曜日（7月18日は開館）

観覧料：一般・大学生 900(720) 円／高校生 500(400) 円／

：小・中学生 300(240) 円 ※ () 内は 20 以上の団体料金

観覧者数：8,589 名

担 当：吉村有子、堀宜雄

主 催：福島県立美術館、NHK 福島放送局、NHK 東北プランニング、
読売新聞東京本社、美術館連絡協議会、
福島民友新聞社、福島中央テレビ

後 援：フランス大使館、福島市、福島市教育委員会

協 賛：花王株式会社

協 力：エールフランス航空

企画協力：アプトインターナショナル

【概 要】

フランスの彫刻家カミーユ・クローデル（1864-1943）は、ロダンの弟子として才能を開花させながら、独自の彫刻世界を追い求め、やがて師ロダンとの愛人関係にも疲れて精神を病んでいった。

本展では、弟ポール・クローデル（作家、外交官）をモデルにした『若きローマ人』などの写実的な肖像彫刻、『ワルツ』などの悲劇的な女性像、『炉端の夢』などの室内でくつろぐ女性をテーマにした独自の作品によってカミーユ・クローデルの芸術を回顧した。また、師ロダンやブーシェがカミーユをモデルに制作した作品や、書簡、写真等も展示し、カミーユと彼女を取り巻く世界との交流を紹介した。

【総 括】

彫刻の展覧会は、絵画と比較すると観覧者数が少ない。以前開催した展覧会のアンケートでも、「見方がわからない」「技法について知りたい」等の回答があったことから、本展では作品を前にして解説するギャラリートークを多く開催し、彫刻の技法を中心にした解説も行った。

また、アートキューブ（当館が郡山市立美術館と共同で開発した美術鑑賞教材）を使用して、小学生を対象としたワークショップも開催するなど、彫刻に親しんでもらうための工夫に力点を置いた。

□印刷物

・ポスター（B2・B3）、チラシ（A4）、案内ハガキ

・図録（規格／22.5×17.0cm 155 頁）

図版：カラー 345 点 モノクロ 14 点

本文：「カミーユの夢」レーヌ＝マリー・パレス

「未来のカミーユ—ロダンの彼方へ」

高橋幸次（日本大学芸術学部教授）

「カミーユ・クローデル—彫刻の空間をめぐる」

山村仁志（府中市美術館学芸課長）

作品解説／年譜／関連地図／参考文献／展覧会歴／出品目録



B2 ポスター



B3 ポスター



カタログ表紙

□関連事業

・イブニング・ミュージアム

会期中土曜日は 20:00 まで開館延長

・特別ギャラリートーク 会場：企画展示室

①「カミーユ・クローデル：ロダンと競い合う 19 世紀末彫刻の花」

講師：高橋幸次氏（日本大学教授 本展監修者）

日時：6 月 11 日(日) 14:00- 60 名

②「クローデルとロダンの技法」

講師：藤原徹氏（東北芸術工科大学教授、彫刻修復家）

日時：7 月 9 日(日) 14:00- 50 名

・ギャラリートーク 会場：企画展示室

6 月 2 日(金) 14:00- 吉村有子（当館学芸員） 10 名

・イブニング・ギャラリートーク 会場：企画展示室

6 月 17 日(土) 17:00- 吉村有子（当館学芸員） 20 名

・親子で楽しむ展覧会～カミーユ・クローデル物語～

会場：企画展示室

講師：真柴毅氏（福島県立本宮高校美術教諭）、
橋本淳也（当館学芸員）

日時：6 月 24 日(土) 14:00- 5 組 11 名

・映画会

「カミーユ・クローデル」（1988 年 フランス カラー 166 分）

会場：美術館講堂

日時：6 月 18 日(日)、25 日(日)、7 月 2 日(日)

各日 13:30- 計 365 名

□関連記事

・「カミーユ・クローデル展 県立美術館で 30 日に開幕」

『福島民友』2006 年 5 月 19 日

・「カミーユ・クローデル展」『読売新聞（福島県版）』5 月 19 日

・「カミーユ・クローデル展」『福島民友』5 月 24 日

・「クローデル展きょう開幕」『読売新聞（福島県版）』5 月 30 日

・『カミーユ・クローデル展』県立美術館、きょう開幕」

『福島民友』5 月 30 日

・『カミーユ・クローデル展』開幕 繊細な彫刻 来場者魅了」

『福島民友』5 月 31 日

・「愛と運命を刻んだ彫刻家 カミーユ・クローデル展」

『福島民友』吉村有子

①「黄金の才能」繊細な写実」 6 月 2 日

②「力強さと流麗な美しさ」 6 月 9 日

③「ロダンと決別 苦渋の思い」 6 月 16 日

④「繊細な感性で情景描写」 6 月 23 日

⑤「孤独、極貧の中で蝕まれた心」 6 月 30 日



高橋幸次氏ギャラリートーク（6/11）



藤原徹氏ギャラリートーク（7/9）



ギャラリートーク（6/2）



イブニング・ギャラリートーク（6/17）



親子で楽しむ展覧会（7/16）

- ・「劇的な人生彫刻に投影 福島・クローデル展」『河北新報』6月3日
- ・「『カミーユ・クローデル展』ギャラリートーク 人物像や作品解説」『福島民友』6月3日
- ・「フランスを代表する女性彫刻家 カミーユ・クローデル展」『毎日新聞（福島県版）』6月7日
- ・「愛と運命を刻んだ彫刻家 カミーユ・クローデル展」『福島民友』6月7日 森哲也（文化部）
- ・「ロダンとの人生感じ取る 60 作品 福島でカミーユ展」『朝日新聞（福島県版）』6月8日
- ・「福島県立美術館企画展『カミーユ・クローデル展』 日常の一部 演劇的に表現」
『河北新報』6月10日 吉村有子
- ・「好評カミーユ・クローデル展 高橋教授招きギャラリートーク」『福島民友』6月12日
- ・「クローデル展 24 日に体験型作品鑑賞会」『福島民友』6月13日
- ・「《あーとびっくす隣県版》解き放たれた彫刻群 福島県立美術館 カミーユ・クローデル展」
『新潟日報』6月23日 吉村有子
- ・「愛と運命の刻印 カミーユ・クローデル展」『読売新聞（福島県版）』 吉村有子
 - ㊤「骨太な写実で師を表現」 6月29日
 - ㊦「瞬間とらえる独自の作風」 6月30日
 - ㊧「苦渋や自嘲 作品に反映」 7月1日
- ・「17 日までカミーユ・クローデル展 写実的な彫刻人気」『福島民友』7月14日

出品リスト

No.	作品名	制作年	材質技法	サイズ (cm)	所蔵
1	男の肖像 あるいはビスマルク	1879頃	ブロンズ	37 × 24 × 23.5	個人
2	ダイアナ	1881	ブロンズ	18 × 10.5 × 7	個人
3	年輩いたエレヌ あるいは老女の肖像	1882	ブロンズ	27.5 × 20.5 × 23.5	個人
4	老女の胸像	1882-89	ブロンズ	60 × 28 × 23	個人
5	若きローマ人 あるいは 16 歳の私の弟	1884	ブロンズ	50 × 45.5 × 28.5	個人
6	ジーンズ先生	1886	木炭、チョーク、紙	57 × 40.5	個人
7	フローレンス・ジーンズ	1886	木炭、色鉛筆、チョーク、紙	57 × 40.5	個人
8	20 歳のポール・クローデル	1888	色鉛筆、紙	43 × 34	個人
9	《カレーの市民》のための習作	1885	ブロンズ	15 × 10 × 13	個人
10	腕を組む男	1885	ブロンズ	10 × 9.5 × 8	個人
11	奴隷の頭部	1885頃	ブロンズ	13 × 8.5 × 11.5	個人
12	手	1885頃	ブロンズ	4 × 10 × 4.5	個人
13	《食欲と色欲》のための習作	1885	ブロンズ	11.5 × 10 × 9.5	個人
14	うずくまる女	1884頃	ブロンズ	37 × 37 × 24	個人
15	眼を閉じた若い女	1885頃	ブロンズ	37 × 35 × 20	個人
16	ジガンティ あるいはならず者の頭部、筋肉労働者	1885	ブロンズ	32 × 26 × 27	個人
17	かがんだ男	1886	ブロンズ	42 × 19 × 28	個人
18	束を背負った若い娘	1887	ブロンズ	35 × 20 × 20	個人
19	フェルディナン・ド・マサリー	1888	ブロンズ	43 × 29 × 29.5	個人
20	巻き髪の若い娘、あるいは黒人女の頭部	1888頃	ブロンズ	17 × 9.5 × 14	個人
21	オーギュスト・ロダンの胸像	1888-89	ブロンズ	40.7 × 25.7 × 28	個人
22	シャクンタラー	1888	ブロンズ	188 × 108 × 59	個人

23	心からの信頼	1905	ブロンズ	43 × 36 × 19	個人	
24	ワルツ	1895頃	ブロンズ	42.5 × 39 × 18	個人	
25	ワルツ	1895頃	ブロンズ	43.7 × 37 × 17.5	個人	
26	ワルツ	1895頃	ブロンズ	45.5 × 36 × 21	個人	
27	ワルツ	1905	ブロンズ	46.4 × 35.7 × 19.7	個人	
28	ワルツ	1893	インク、紙	23 × 15	個人	
29	幼い女城主（曲がったおさげ髪）あるいは幼いジャンヌ、 リレットの少女、靈感を受けた少女、凝視	1893	ブロンズ	33 × 28 × 22	個人	
30	幼い女城主（まっすぐなおさげ髪）あるいは幼いジャンヌ、 リレットの少女、靈感を受けた少女、凝視	1893	ブロンズ	33 × 28 × 22	個人	
31	曙	1893?	ブロンズ	33.2 × 25.7 × 30.7	個人	
32	曙	1893?	ブロンズ	33.2 × 25.7 × 30.7	個人	
33	骨をしゃぶる雌犬 あるいは飢えた雌犬	1893頃	ブロンズ	15 × 25.5 × 11	個人	
34	猫	1893頃	ブロンズ	5.5 × 13.5 × 9	個人	
35	《クロト》のトルソ	1893	ブロンズ	41 × 20 × 15	個人	
36	飛び去った神	1894	ブロンズ	69 × 56 × 38	個人	
37	老婆の頭部 あるいは《分別盛り》のための習作、《クロト》の習作	1894	ブロンズ	11 × 7.5 × 10.5	個人	
38	老人の頭部 あるいは《分別盛り》のための習作（粗彫りの胸部付き）	1896	ブロンズ	18 × 9 × 9	個人	
39	老人の頭部 あるいは《分別盛り》のための習作（粗彫りの胸部なし）	1896	ブロンズ	11.5 × 8 × 12	個人	
40	嘆願する女（ひざまずいた少女）あるいは若さ、嘆願、哀願	1898頃	ブロンズ	28.3 × 25.5 × 16	個人	
41	嘆願する女（ひざまずいた少女）あるいは若さ、嘆願、哀願	1898頃	ブロンズ	65 × 65 × 37	個人	
42	分別盛り（第2バージョン）	1898	ブロンズ	61.5 × 85 × 37	個人	
43	おしゃべりな女たち（第1バージョン 衝立付き）	1893	ブロンズ、大理石	32 × 34 × 24	個人	
44	歌う盲目の老人	1894	ブロンズ	11 × 10 × 11.5	個人	
45	《ハマドリュアス》のための習作 あるいは子供の頭部（台座付き）	1895	ブロンズ	19.5 × 10 × 13	個人	
46	《ハマドリュアス》のための習作 あるいは子供の頭部（台座無し）	1895頃	ブロンズ	14 × 10 × 13	個人	
47	波 あるいは水浴する女たち	1897	ブロンズ	60 × 47 × 60	個人	
48	手紙を読む女 あるいは化粧する女	1897	ブロンズ	38 × 39 × 27.5	個人	
49	もの思い あるいは暖炉の前で跪く女、 ビュッシュ・ド・ノエル	1898	ブロンズ	23.7 × 22.4 × 19	個人	
50	炉端の夢 あるいは炉端にて、暖炉の前に座る女、シンデレラ	1899	大理石、ブロンズ	22 × 29.5 × 24.5	個人	
51	運命の女神	1900	ブロンズ	47.5 × 35 × 20.5	個人	
52	真理の女神 あるいは井戸から出現する真理の女神	1900	ブロンズ	48 × 32 × 19	個人	
53	フルートを吹く女 あるいはセイレン、小さなセイレン	1903-05	ブロンズ	53 × 26 × 34	個人	
54	子供の頭部	1904頃	ブロンズ	6.5 × 9 × 6.5	個人	
55	37歳のポール・クローデル	1905	ブロンズ	40 × 30 × 26	個人	
	作家名	作品名	制作年	材質技法	サイズ（cm）	所蔵
56	アルフレッド・ブーシェ	読書するカミーユ	1876	ブロンズ	51 × 18 × 30	個人
57	オーギュスト・ロダン	フランス	1904	ブロンズ	49 × 45 × 38	個人
	作家名	資料名	制作年	材質など	所蔵	
58		カミーユ・クローデルからアンリ・ティエリへの手紙	日付無し 〔1910?〕	複製	個人	
59		カミーユ・クローデルからアンリエット・ティエリへの手紙	日付無し 〔1912?〕	複製	個人	
60	ヴィクトル・パネリエ撮影〔18歳頃のカミーユ・クローデルと友人ジータ・トゥリエ〕		1882頃	紙焼き写真	個人	
61	撮影者不詳	〔30歳頃のカミーユ・クローデル〕	1894頃	紙焼き写真	個人	
62	撮影者不詳	〔《カレーの市民》のジャン・デール（ロダンのカミーユ・クローデルへの献辞付き）〕	撮影年不詳	紙焼き写真	個人	

3. ドキュメント福島展

日本に向けられたヨーロッパ人の眼／日本の視点、福島との対話

会 期：2006年7月29日(土)～8月27日(日)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B

休館日：毎週月曜日

観覧料：無料

観覧者数：4,734名

担 当：荒木康子、宮武弘

EU ジャパン展アーティスティック・ディレクター：菊田樹子

主 催：福島県立美術館、福島県、EU・ジャパンフェスト日本委員会

後 援：駐日フィンランド大使館、駐日ギリシャ大使館、

駐日ベルギー王国大使館、福島市、福島市教育委員会、

福島県写真連盟

特別協賛：日本郵船株式会社、武田薬品工業、NEC

その他：企業メセナ協議会認定、地域の魅力クローズアップ事業

【概要】

本展はヨーロッパと日本で活躍する写真家7名が撮り下ろした写真を、二部構成で展覧する企画である。

「日本に向けられたヨーロッパ人の眼・ジャパントウディ」は、ヨーロッパ人写真家が＜人間とくらし＞をテーマに日本の現在を撮影する写真のプロジェクトシリーズ。その8回目として2006年度はフィンランド、ギリシャ、ベルギーの4名の写真家が、福島県と佐賀県で撮影した作品を展示した。「日本の視点、福島との対話」は当館のオリジナル企画で、日本人3名の写真家がそれぞれの視点で福島県を撮影した写真を展示した。

二つの展示をとおして、身近な風景や日常を見つめ直そうという企画であった。

【総括】

本展の基本プランは、ヨーロッパの写真家が福島に来県して撮った写真を展示するというものだったが、そこに当館としての独自の企画を加えて、＜福島＞をテーマにヨーロッパと日本の写真家が競演するというユニークな展覧会として仕立て直したものである。

当館としては初の無料企画展であったが、無料だから観覧者が爆発的に増えるということにはなかった。

高校生を対象としたワークショップを開催し、ワークショップで撮影した高校生の写真をホールで展示したこともあって、観覧者数に占める高校生の割合が12%になった（通常は3%以下）。若い世代が「いま」の芸術に関心をもっていることを再認識する結果となった。

□印刷物

・ポスター（B2）、チラシ（A4）、案内ハガキ

・展覧会図録

『European Eyes on Japan : Japan Today vol.8』

規格：24×26.7cm 122頁

図版：カラー93点

本文：作家のこぼ／プロフィール／年譜

「日本に向けられたヨーロッパ人の眼・ジャパントウディ vol.8」

菊田樹子（アーティスティック・ディレクター）

「誰が水を発見しただろう。それは魚ではないだろう」

古木修治（EU・ジャパンフェスト日本委員会事務局長）

『ドキュメント福島 日本の視点、福島との対話』

規格：19×14.7cm（カタログ3分冊、解説1分冊）

図版：カラー57点

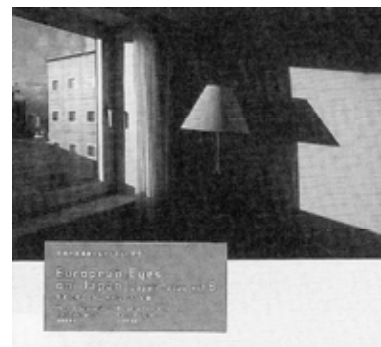
本文：作品リスト／作家略歴・活動歴／主要文献

「『ドキュメント福島』展に寄せて」酒井哲朗

「福島をめぐる三つのアプローチ」荒木康子



B2 ポスター



『European Eyes on Japan』カタログ表紙



『日本の視点、福島との対話』カタログ表紙

□関連事業

・オープニング・イベント

日時：7月29日(土) 14:00-16:00

①出品作家によるギャラリートーク

解説：エレニ・マリグラ 瀬戸正人 津田直

会場：企画展示室 80名

②ふくしまFM・吉田慶子「一枚の写真から」公開録音

会場：美術館講堂 250名

・出品作家によるワークショップ

①エレニ・マリグラ「My World」

日時：7月30日(日) 10:00-16:00

内容：「My World」をテーマに撮影した写真を持ち寄り、小さな
展示会を作る。

参加者：高校生15名（県立福島高校、県立福島西高校）

②瀬戸正人「モノクロプリント体験ワークショップ」

日時：8月6日(日) 10:00-15:00

内容：それぞれ持参のモノクロネガから新聞紙大の大きな作品を
プリントする。

参加者：一般10名

③津田直「スライドショー&トーク」

日時：8月20日(日) 14:00-16:00

内容：福島への旅、そして制作の合間に作家が出会い、触れあい、
見たこと、耳にしたことをスライドを交えながら語る。

参加者：50名

・映画会

①ギリシャ映画「アテネ／アクロポリスへの三度の帰還」

日時：8月5日(土) 11:00 / 13:00 / 15:00 計30名

②フィンランド映画「マッチ工場の少女」

日時：8月19日(土) 11:00 / 14:00 計70名

・県立美術館「ドキュメント福島」&花の写真館「うつくしま・宝発見 フォトコンテスト入賞作品巡回展」共同プロジェクト

期間：8月7日(日)～8月13日(日)

概要：広報活動の一環として、両館の展示会観覧者先着200名に
「ドキュメント福島」展カタログを進呈した。

□関連記事

・「欧州の写真家『会津の美 探したい』」

『河北新報』2005年11月13日

・「本県の魅力、写真で紹介 『ドキュメント福島』 きょう開幕」

『福島民友』2006年7月29日

・「日欧の写真家、本県を撮影 ドキュメント福島展開幕」

『福島民報』7月30日

・「欧州人が見た福島姿 県立美術館で写真展開幕」

『福島民友』7月30日

・「撮影技法アドバイス 写真家のマリグラさん」

『福島民友』7月31日

・「県立美術館で番組を公開録音」『福島民報』8月1日

・「出品の津田さんが講演」『福島民報』8月23日

・「写真展あすまで 県立美術館」『福島民報』8月26日

・「《論説》」写真家が見た『福島』の魅力『福島民報』8月24日



会場風景



ギャラリートーク (7/29)



エレニ・マリグラ氏ワークショップ (7/30)



瀬戸正人氏ワークショップ (8/6)



出品リスト

【日本に向けられたヨーロッパ人の眼】

ペンティ・サマラッティ

1	猪苗代湖、会津若松市	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
2	大沼郡	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
3	喜多方市	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
4	大沼郡	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
5	会津若松市	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
6	双葉郡	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
7	大沼郡	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
8	相馬郡	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
9	耶麻郡	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
10	沢沼湖、大沼郡	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
11	郡山市	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
12	河沼郡	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
13	南相馬市	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
14	南会津郡	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
15	耶麻郡	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
16	大沼郡	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm
17	会津若松市	2006 年	ゼラチンシルバークラウドプリント	42 × 52cm

エレニ・マリグラ「Japan Project - Reading II」2006 年 タイプCプリント 各 59.7 × 39.7cm (37 点組)

ストラトス・カラファティス「佐賀県」2006 年 タイプCプリント 各 32 × 32cm (43 点組)

カレン・ボルヒハウツ「佐賀県」2006 年 タイプCプリント 各 100 × 125cm (13 点組)

【日本の視点、福島との対話】

朝岡あかね「噂としての UFO 2006」2006 年 インスタレーション

壁面プロジェクション 1 点 作家蔵

ラムダプリント (バックライトフィルム)、ライトボックス 各 101.7 × 71.5cm (4 点) 作家蔵

バックライトフィルム、ライトボックス 71.5 × 101.7cm 作家蔵

瀬戸正人「HOME……故郷」

1	会津高原駅近く (南会津郡田島町)	2006 年	タイプCプリント	50.8 × 61cm	作家蔵
2	会津若松市	2006 年	タイプCプリント	50.8 × 61cm	作家蔵
3	伊南川 (南会津郡)	2006 年	タイプCプリント	50.8 × 61cm	作家蔵
4	岩瀬郡天栄村	2006 年	タイプCプリント	50.8 × 61cm	作家蔵
5	大沼郡金山町	2006 年	タイプCプリント	50.8 × 61cm	作家蔵
6	大沼郡金山町	2006 年	タイプCプリント	50.8 × 61cm	作家蔵
7	五色沼 (耶麻郡北塩原村)	2006 年	タイプCプリント	50.8 × 61cm	作家蔵
8	五色沼 (耶麻郡北塩原村)	2006 年	タイプCプリント	50.8 × 61cm	作家蔵
9	五色沼 (耶麻郡北塩原村)	2006 年	タイプCプリント	50.8 × 61cm	作家蔵
10	五色沼 (耶麻郡北塩原村)	2006 年	タイプCプリント	50.8 × 61cm	作家蔵
11	五色沼 (耶麻郡北塩原村)	2006 年	タイプCプリント	50.8 × 61cm	作家蔵
12	五色沼 (耶麻郡北塩原村)	2006 年	タイプCプリント	50.8 × 61cm	作家蔵

13	五色沼周辺（耶麻郡北塩原村）	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
14	五色沼周辺（耶麻郡北塩原村）	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
15	五色沼周辺（耶麻郡北塩原村）	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
16	五色沼周辺（耶麻郡北塩原村）	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
17	摺上川（福島市飯坂町茂庭）	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
18	只見川（南会津郡）	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
19	伊達郡国見町	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
20	伊達郡国見町	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
21	伊達郡桑折町	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
22	伊達郡梁川町	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
23	磐梯山麓（耶麻郡）	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
24	半田沼周辺（伊達郡桑折町）	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
25	檜原湖周辺（耶麻郡北塩原村）	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
26	福島市飯坂町茂庭	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
27	南会津郡舘岩村	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵
28	南会津郡南郷村	2006 年	タイプC プリント	50.8 × 61cm	作家蔵

津田直 「七曜」

1	七つ星	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
2	日（一）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
3	屋根（一）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
4	日（二）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
5	日（三）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
6	日（四）	2006 年	タイプC プリント	各 59 × 49cm（2 点組）	作家蔵
7	はくちょう座	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
8	日（五）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
9	日（六）	2006 年	タイプC プリント	各 59 × 49cm（2 点組）	作家蔵
10	屋根（二）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
11	月・火星	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
12	火 - 水（一）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
13	屋根（三）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
14	水 - 木（一）	2006 年	タイプC プリント	各 59 × 49cm（2 点組）	作家蔵
15	水 - 木（二）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
16	水 - 木（三）	2006 年	タイプC プリント	各 59 × 49cm（2 点組）	作家蔵
17	水 - 木（四）	2006 年	タイプC プリント	各 59 × 49cm（3 点組）	作家蔵
18	屋根（四）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
19	木（一）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
20	木星	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
21	木（二）	2006 年	タイプC プリント	各 59 × 49cm（2 点組）	作家蔵
22	屋根（五）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
23	金星	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
24	屋根（六）	2006 年	タイプC プリント	59 × 49cm	作家蔵
25	土（一）	2006 年	タイプC プリント	各 59 × 49cm（2 点組）	作家蔵

4. ハギレの日本文化誌展 ～時空をつなぐ布の力～

会 期：2006年9月9日(土)～10月15日(日)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B

休館日：9月11日(月)、19日(火)、25日(月)、10月2日(月)、10日(火)

観覧料：一般・大学生 800(640)円 高校生 500(400)円

小・中学生 300(240)円 * () 内は20名以上の団体料金

観覧者数：8,685名

担当学芸員：佐治ゆかり、橋本淳也

主 催：福島県立美術館

後 援：福島市、福島市教育委員会

【概要】

本展は布、とくにその断片であるハギレと人との関わりに焦点を当て、日本の染織文化、ひいては日本文化の深層を探ろうとする企画である。

＜ハギレと信仰＞＜ハギレと「もったいない」＞＜継ぎ接ぎの美＞＜ハギレの価値＞の4章で構成し、ハギレの意味や可能性を探った。

展示品は、平安時代の僧侶が着た糞掃衣（ふんぞうえ）から江戸時代の大名家伝来の名物裂（めいぶつぎれ）、庶民のこしらえた寄裂（よせぎれ）の子供着や下着、さらには現代の作家志村ふくみの切継（きりつぎ）着物や貼り交ぜ屏風など195件600点に及ぶ大規模なものであった。

【総括】

「布の文化」をこれまでにない視点から捉えた企画という評価を得た。工芸の展示会は特定のファン層に支えられて手堅いものの、広く一般受けしづらい。本展は「古裂」ブームや「もったいない」再評価の風潮も後押しをしてか、より広範囲の人々に関心をもたれたといえる。

アンケートからも、県外からの来館者が三分の一以上を占め、興味のある企画には遠方でも見に行くという傾向が顕著にみられた。

□印刷物

- ・ポスター（B2・B3）、チラシ（A4）、案内ハガキ
- ・展覧会図録（A4版変型 168頁）

図版：カラー195点

本文：出品目録／参考文献

「ハギレの日本文化誌」佐治ゆかり（当館学芸員）

「法隆寺と正倉院の染織品にみる人々と布との関係」

澤田むつ代（東京国立博物館文化財部上席研究員）

「清浄の中より来る—糞掃衣の世界—」

山川暁（京都国立博物館研究員）



B2 ポスター



B3 ポスター



カタログ表紙

□関連事業

・講演会 「時空をつなぐ布の力」

講師：小松和彦氏（国際日本文化研究センター教授）

日時：9月10日(日) 14:00-

場所：美術館講堂 入場無料 70名

・鑑賞講座

「法隆寺と正倉院にみる人々と布の関係」

講師：澤田むつ代氏（東京国立博物館文化財部上席研究員）

日時：9月24日(日) 14:00-

場所：美術館講義室 入場無料 70名

・特別ギャラリートーク

「方寸の世界の楽しみ～手描き更紗百五十種より」

講師：大谷みち子氏（奈良・古裂ギャラリーおおたに）

日時：10月8日(日) 14:00-

場所：エントランスホール 参加無料 150名

・ギャラリートーク

「展覧会見所紹介」

講師：佐治ゆかり（当館学芸員）

日時：①9月9日(土) ②9月23日(土) ③10月7日(土)

各回とも 14:00-

場所：企画展示室（要観覧券） 各回とも 30名

□関連記事

・「展覧会&コンペ 誰にも身近な布を通して日本文化を見る」

『日経デザイン』第231号 日経BP社 2006年8月24日発行

・「ハギレの日本文化誌～時空をつなぐ布の力～」

『ナショナル ジオグラフィック（日本版）』第12巻9号

日経ナショナルジオグラフィック社 2006年9月1日発行

・『「ハギレ展」きょう開幕 県立美術館で報道陣説明会」

『福島民報』2006年9月9日

・「ハギレの日本文化誌展 福島県立美術館で開催」

『河北新報』9月14日

・『「ハギレ」が織りなす美』『日本経済新聞』9月29日 佐治ゆかり

・「人と布の関係考える ハギレ展ギャラリートーク」

『福島民友』10月14日

・「ハギレの日本文化誌～時空をつなぐ布の力～展より」

『キルトジャパン』第114号 日本ヴォーグ社

2007月1月号 佐治ゆかり



展示風景



澤田むつ代氏鑑賞講座（9/24）



ギャラリートーク（9/9）

出品リスト

No.	作品名	製作年代・使用場所	規格 (cm) / 素材	所蔵
第1章 ハギレと信仰				
1	糞掃衣 (刺納衣) 断片	平安時代後期 10-12 世紀	最大縦 28.0 最大横 24.5 / 絹	滋賀・延暦寺
参考図版1	国宝 七条刺納袈裟	中国・唐時代 8 世紀	丈 132.0 幅 260.0 / 麻	滋賀・延暦寺
2	金襴、紅地九條袈裟	江戸後期	丈 142.5 幅 360.0 / 絹	大谷みちこ
3	錦地九條袈裟	江戸後期 (嘉永 2・1849 以前)	丈 116.5 幅 234.0 / 絹	大谷みちこ
4	紅地二十五條袈裟	幕末 (慶応 4 年・1868 以前)	丈 96.5 幅 148.0 / 絹	大谷みちこ
5	桃山裂袈裟 [掛絡]	江戸時代 (裂は桃山時代)	縦 37.5 横 58.3 / 絹・刺繍	大谷みちこ
6	立涌桐文様唐織打敷	裂は桃山時代 (17 世紀) 仕立て・奉納は慶長 12 年・1607 銘あり	縦 176.0 横 174.0 / 絹	京都・高台寺
7	紅紗綾地額雷文様絞打敷	江戸前期 (延宝 9 年・1681 以前)	縦 111.0 横 95.0 / 絹	国立歴史民俗博物館
8	染分縮緬地水葵文様衣襷染打敷	江戸中期 (享保 15 年・1730 以前)	縦 156.0 横 149.0 / 絹	国立歴史民俗博物館
9	紺紬地滝羽根文様染裂・ 紅平絹地鹿子絞裂接合打敷	江戸中期 (明和元年・1764 以前)	縦 158.0 横 130.0 / 絹	国立歴史民俗博物館
10	染分麻地巻物桜樹文様染打敷	江戸中期 (安永 6 年・1777 以前)	縦 144.0 横 120.0 / 絹	国立歴史民俗博物館
11	亀甲に六陵星文様寄裂打敷	明治 16 年・1883 8 月・大阪	縦 90.0 横 114.0 / 絹、木綿	大谷みちこ
12	瑞泉寺伝来表具裂 後西天皇綸旨	裂：桃山時代、慶長期 (16 世紀末～17 世紀初頭) 表装：元禄 15 年・1702	縦 122.0 横 62.4 / 絹	京都・瑞泉寺
13	瑞泉寺伝来表具裂 和歌懷紙 お阿子の方 (日比野下野守女)	裂：慶長期、江戸中期 (16 世紀末～18 世紀)	縦 112.5 横 59.3 / 絹	京都・瑞泉寺
14	鬱金綸子地松皮菱どり切付けの 紅縮緬地間着	天保 7 年・1836 以前	身丈 156.8 衿 66.8 / 絹	京都・壬生寺
15	紅縮緬地富士山に七宝繋ぎ文切付け長襦袢	天保 10 年・1839 以前	身丈 134.0 衿 64.2 / 絹	京都・壬生寺
16	洗朱地向い鳳凰の丸に桐文銀襴ほか寄裂着付	嘉永 3 年・1850 以前	身丈 104.0 衿 66.7 / 絹	京都・壬生寺
17	紅綸子地山道どり切付けの浅葱紙子間着	慶応元年・1865 以前	身丈 134.0 衿 59.2 / 絹、紙	京都・壬生寺
18	藍羽二重地釘抜文紋と織出し小裂の 接ぎ合わせ長襦袢	江戸後期	身丈 117.0 衿 60.9 / 絹	京都・壬生寺
19	百徳着物 [真成寺整理 No.115]	天保 10 年・1839 奉納 金沢	身丈 64.3 衿 40.0 / 絹	金沢・真成寺
20	百徳着物 [真成寺整理 No.127]	江戸後期 金沢	身丈 59.0 衿 36.5 / 絹、木綿	金沢・真成寺
21	百徳着物 [真成寺整理 No.134]	江戸後期 金沢	身丈 68.0 衿 36.2 / 絹	金沢・真成寺
22	雛形百徳着物 [真成寺整理 No.119]	江戸後期 金沢	身丈 37.0 幅 38.5 / 絹	金沢・真成寺
23	寄裂子供着	江戸後期～明治中期	身丈 75.7 幅 76.0 / 木綿、絹	古民芸もりた
24	寄裂子供着	江戸後期～明治中期 秋田・横手	身丈 90.0 衿 41.9 / 絹	秋乃宮博物館
25	寄裂子供着	明治後期～大正時代	身丈 93.3 幅 72.5 / 木綿、絹、毛	才本洋子
26	子供袖無羽織 (北三井家旧蔵)	明治後期	背身丈 54.0 肩幅 30.0 / 絹	文化学園服飾博物館
27	勢もん帳	慶応元年・1865	縦 15.2 横 20.4 / 和紙、木綿糸	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
28	せもん長	明治 5 年・1872 頃	縦 8.8 横 16.4 / 和紙・木綿糸	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
29	[紋帳]	明治後期～大正期	縦 8.0 横 10.0 / 和紙・木綿糸	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
30	接ぎ衣裳 [鼠縮緬小紋地袖付]	明治時代 秋田 西馬音内	身丈 148.0 衿 61.0 / 絹	個人
31	接ぎ衣裳 [紅に浅葱染分け絞り地身頃地]	明治～大正時代 秋田・西馬音内	身丈 152.0 衿 62.0 / 絹	個人
32	接ぎ衣裳 [百花文様身頃地]	明治～大正時代 秋田・西馬音内	身丈 149.5 衿 62.0 / 絹	個人
33	接ぎ衣裳 [男着]	明治～大正時代 秋田・西馬音内	身丈 145.5 衿 66.0 / 絹	個人
34	接ぎ衣裳 [紫板締め絞り布身頃地]	明治～大正時代 秋田・西馬音内	身丈 152.0 衿 62.0 / 絹	黒沢辰一
35	接ぎ衣裳 [縹地公孫樹文様小紋裾地]	明治～大正時代 秋田・西馬音内	身丈 144.5 衿 64.2 / 絹	黒沢辰一
36	接ぎ衣裳 [白綸子地裾廻し]	明治～大正時代 秋田・西馬音内	身丈 145.5 衿 62.0 / 絹	阿部九右衛門家
37	接ぎ衣裳 [濃緑紬身頃地]	明治～大正時代 秋田・西馬音内	身丈 140.0 衿 63.0 / 絹	阿部九右衛門家
38	接ぎ衣裳 [紫絞地衿]	明治～大正時代 秋田・西馬音内	身丈 141.0 衿 63.0 / 絹	阿部九右衛門家

コラム1 布と異界

参考図版2 オシラサマ（オコナイサマ）	寛文元年・1661 岩手県綾織町	左 29 cm 右 27 cm	岩手県綾織町・個人
参考図版3 ハブラドギン（胴衣）	鹿児島・奄美大島	身丈 66.0 肩幅 19.6 袖丈 46.5 / 絹ほか	鹿児島県・ 宇検村教育委員会

第2章 ハギレと「もったいない」

39	木綿継ぎ接ぎ布	明治～昭和前期	縦 167 横 154 / 木綿	額田晃作
40	木綿継ぎ接ぎ布	明治～昭和前期	縦 186 横 124 / 木綿	額田晃作
41	木綿継ぎ接ぎ布	明治～昭和前期	縦 164 横 164 / 木綿	額田晃作
42	木綿継ぎ接ぎ布 [農協印]	明治～昭和前期	縦 174 横 158 / 木綿	額田晃作
43	木綿中形染見本継ぎ接ぎ布	明治後期	縦 170 横 90 / 木綿	額田晃作
44	木綿継ぎ接ぎ布 [萌葱、藍染め]	明治～昭和前期	縦 182 横 130 / 木綿	額田晃作
45	木綿継ぎ接ぎ布 [白地]	明治～昭和前期	縦 165 横 122 / 木綿	額田晃作
46	源氏車紋入筒描馬飾り布裂	明治後期～昭和前期	縦 190 横 120 / 木綿	静岡市立芹沢銈介美術館
47	ドンジャ	明治～昭和前期 青森	身丈 174 衿 76 / 麻、木綿	田中忠三郎
48	サキオリ布団皮	明治～昭和前期 青森	縦 138 横 160 / 木綿、麻	田中忠三郎
49	サキオリ夜着	明治～昭和前期 青森	身丈 148.0 衿 70.5 / 麻、木綿	静岡市立芹沢銈介美術館
50	裂き織地に紺木綿重ね刺し子ハンテン	江戸後期～明治前期 山形・鶴岡	身丈 96 幅 122.6 / 木綿、麻	日本民藝館
51	常前アサ所持 ハギレ、裂き織用布	昭和初期～昭和 53 年頃まで蒐集 青森県三戸郡	木綿布、麻布など	田中忠三郎
52	仕事着	明治～昭和前期 青森	身丈 111.0 衿 59.0 / 木綿	田中忠三郎
53	綿入れ	明治～昭和前期 青森	身丈 127 衿 65 / 木綿、麻、毛	田中忠三郎
54	蕪文様絞り木綿布継ぎ接ぎ仕事着	明治～大正時代	身丈 131.5 衿 64.5 / 木綿	個人
55	木綿紺地刺し子ハンテン	江戸後期～大正時代 山形・鶴岡	身丈 87.0 幅 86.6 / 木綿	日本民藝館
56	ボロサンコ [長着]	幕末～明治 15 年・1882 頃まで 使用 福島・会津	身丈 133.0 衿 65.0 / 木綿、麻	会津民俗館
57	ボロサンコ	明治中期 福島・会津	身丈 89.5 衿 58.0 木綿、	会津民俗館
58	ボロサンコ [下着]	昭和 15 年・1940 頃 昭和 20 年・1945 頃まで使用 福島・会津	身丈 115.5 衿 63.0 / 木綿、麻	会津民俗館
59	木綿継ぎ接ぎ仕事着	明治時代	身丈 115.0 衿 55.5 / 木綿	古民芸もりた
60	綿継ぎ接ぎ腰巻	～昭和前期	身丈 62.5 幅 106.0 / 木綿	古民芸もりた
61	木綿継ぎ接ぎ前掛け	～昭和前期	縦 67.0 横 88.0 / 木綿	額田晃作
62	やたら織木綿布寄裂着物	明治～昭和前期 愛知・三河地方	身丈 131.3 衿 61.2 / 木綿	個人
63	寄裂胴着	明治前期	身丈 79.6 肩幅 36.0 / 絹、毛	個人
64	寄裂胴着 [亀甲文様接ぎ]	江戸後期～明治前期	身丈 53.5 肩幅 32.0 / 絹	大谷みちこ
65	絹地寄裂胴着 (桐生・書上家旧蔵)	明治～大正 群馬・桐生	身丈 56.0 背幅 27.0 / 絹	文化学園服飾博物館
66	赤木綿地草花文更紗ほか寄裂半襦袢	江戸後期	身丈 61.0 衿 61.5 / 絹、木綿	京都・壬生寺
67	紅縮緬地菊に梅・桜・桐・牡丹の 丸文板縮胴着	安政 6 年・1859 以前	身丈 56.5 衿 63.5 / 絹	京都・壬生寺
68	寄裂半襦袢 [赤地唐花文様更紗袖付]	江戸後期	身丈 55.5 衿 60.5 / 木綿、絹ほか	個人
69	寄裂下着 [鍾馗図]	江戸後期～明治前期	身丈 140.0 衿 61.5 / 絹	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
70	寄裂下着 [やたら接ぎ]	江戸後期～明治前期	身丈 149.0 衿 62.0 / 絹	大谷みちこ
71	寄裂下着 [六稜星文様接ぎ]	明治前期	身丈 103.2 衿 60.0 / 絹	大谷みちこ
72	寄裂下着 [亀甲文様接ぎ]	江戸後期～明治前期	身丈 125.0 衿 52.7 / 絹	個人
73	寄裂下着 [市松文様接ぎ]	江戸後期～明治前期	身丈 150.5 衿 63.5 / 絹	個人
74	濃鼠平絹地水辺に花樹・鳥文裂と 紅縮緬地寄裂間着	明治 11 年・1878 以前	身丈 149.0 衿 60.5 / 絹	京都・壬生寺
75	寄裂下着 [萌葱絹地身頃]	明治前期 秋田・横手	身丈 142.3 衿 63.0 / 絹	秋乃宮博物館
76	寄裂下着 [茶絹地]	明治前期 秋田・横手	身丈 140.3 衿 61.5 / 絹	秋乃宮博物館
77	寄裂袷紗	明治時代	縦 50.0 横 42.5 / 絹、毛、木綿ほか	個人
78	錦地等寄裂袷紗 四種	江戸後期	縦 43.5 横 43.0 など / 絹、毛ほか	個人

第3章 継ぎ接ぎの美

参考図版4 重要文化財 金銀欄緞子等縫合胴服 桃山末?江戸初期(16~17世紀)		身丈 125.0	衿 59.0 / 絹	米沢・上杉神社
79	紅浅葱紫縮緬地寄裂振袖	江戸後期	身丈 167.0	衿 63.0 / 絹 丸紅株式会社
80	織地切継帯	江戸後期	身丈 274.0	幅 24.5 / 絹 東京国立博物館
81	唐棧接ぎ合わせ道中着	明治期	身丈 116.0	衿 65.5 / 木綿 日本民藝館
82	古渡唐棧縹刈合男羽織	大正13年・1924	身丈 107.0	衿 66.6 / 木綿 東京国立博物館
参考図版5 紬地に杜若文様・古渡り更紗切継小袖(三井家旧蔵)		江戸後期	身丈 170.0	衿 60.0 / 絹、木綿 文化学園服飾博物館
83	更紗寄裂下着	裂地:17-19世紀 仕立て:明治~大正	身丈 114.0	衿 64.0 / 木綿 神戸市立博物館
84	亀甲に六稜星文様更紗寄裂下着	裂地:19世紀前半 仕立て:明治~大正	身丈 139.0	衿 65.0 神戸市立博物館
85	更紗寄裂下着	裂地:19世紀前半 仕立て:明治~大正	身丈 131.7	衿 60.5 / 木綿 個人
86	吉祥文様寄裂子供着	江戸後期	身丈 100.0	幅 76.0 / 絹 個人
87	「上」字入刺子半纏	江戸後期	身丈 121.0	衿 51.0 / 木綿 静岡市立芹沢鉦介美術館
88	白木綿地吉祥文様刺子着物	明治~昭和前期	身丈 146.0	衿 61.0 / 木綿 静岡市立芹沢鉦介美術館
89	白木綿地刺子子供着	明治~昭和前期	身丈 85.0	幅 76.0 / 木綿 静岡市立芹沢鉦介美術館
90	手拭寄裂下着	明治~大正時代	身丈 133.0	衿 60.0 / 絹、木綿 京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
91	縮緬切継胴着(三井苞子所用)	明治後期	背身丈 54.5	肩幅 37.0 / 絹 文化学園服飾博物館
92	木綿緋裂亀甲接ぎ合わせ胴着	~昭和前期	身丈 61.0	幅 50.0 / 木綿 静岡市立芹沢鉦介美術館
93	アットウシ	江戸後期 北海道	身丈 116.0	幅 125.0 青森市教育委員会・ 旧稽古館蔵
94	アットウシ	江戸後期	身丈 120.0	幅 113.5 静岡市立芹沢鉦介美術館
95	アットウシ [縹地に黒木綿切り伏せ]	江戸後期	身丈 140.0	幅 110.0 静岡市立芹沢鉦介美術館
96	テタラペ	江戸後期	身丈 130.0	幅 126.0 青森市教育委員会・ 旧稽古館蔵
97	チカラカラベ [藍地に浅葱木綿切り伏せ]	江戸後期~明治前期	身丈 125.0	幅 126.0 静岡市立芹沢鉦介美術館
98	ルウンペ	江戸後期~明治前期 北海道	身丈 136.0	幅 130.0 / 木綿、絹 青森市教育委員会・ 旧稽古館蔵
99	ルウンペ [格子に縹木綿地に白木綿切り伏せ]	江戸後期~明治前期	身丈 125.0	幅 115.0 / 木綿 静岡市立芹沢鉦介美術館
100	カバラミブ	明治以降 青森・上磯地方	縦 124.0	横 128.0 / 木綿 青森市教育委員会・ 旧稽古館蔵
101	カバラミブ [紅地に流水紅葉文様裂付]	明治以降	身丈 125.0	衿 124.0 / 木綿 静岡市立芹沢鉦介美術館
102	こぎん着物(東こぎん)	江戸末~明治 青森・津軽地方	身丈 104.0	衿 58.0 / 麻 田中忠三郎
103	こぎん着物(東こぎん)	江戸末~明治 青森・津軽地方	身丈 94.2	衿 58.5 / 麻 青森市教育委員会・ 旧稽古館蔵
104	こぎん袖ナシ(東こぎん)	江戸末~明治	身丈 80.0	幅 35.0 / 麻 田中忠三郎
105	こぎん着物(西こぎん)	江戸末~明治 青森・岩木地方	身丈 105.2	幅 115.0 / 苧麻 青森市教育委員会・ 旧稽古館蔵
106	こぎん着物(三編こぎん)	江戸末~明治 青森・金木地方	身丈 101.0	幅 104.5 / 麻 青森市教育委員会・ 旧稽古館蔵
107	菱刺しマカナイ	明治	身丈 93.0	幅 131.0 / 大麻、木綿 日本民藝館
108	菱刺し長着	明治後期~大正	身丈 92.0	衿 64.0 / 木綿 田中忠三郎
109	菱刺しタツツケ 仕立て前	明治後期~大正	縦 81.5	幅 30.0 / 木綿 田中忠三郎
110	ツツレ	江戸末~明治	身丈 95.0	衿 54.0 / 麻、木綿 田中忠三郎
111	ツツレハンテン	明治末~大正	身丈 88.0	衿 58.0 / 木綿 田中忠三郎
112	紋りに縹木綿地ツツレ	明治末~大正	身丈 123.0	幅 110.0 / 木綿 青森市教育委員会・ 旧稽古館蔵
113	紋り地寄裂ツツレ	明治末~大正 青森・五戸地方	身丈 121.0	幅 98.0 / 木綿 青森市教育委員会・ 旧稽古館蔵
114	サシコバンテン	江戸後期~明治中期	身丈 85.3	衿 61.0 / 木綿 会津民俗館
115	サシコバンテン [襟裏に文字刺し]	明治初期	身丈 81.0	衿 59.5 / 木綿 会津民俗館

116	モッコサシコ	大正8年・1919頃	身丈 93.5 衿 61.0 / 木綿	会津民俗館
117	ハギトージン (トージンギモン)	明治後期～昭和前期	身丈 112.0 衿 59.5 / 木綿	個人
118	ハギトージン (トージンギモン)	明治後期～昭和前期	身丈 115.0 衿 65.0 / 木綿	文化学園服飾博物館
119	ハギトージン (トージンギモン)	明治後期～昭和前期	身丈 102.4 衿 58.5 / 木綿	文化学園服飾博物館
120	首里木綿緋あわせ着物 沖縄	20世紀前半	身丈 121.0 幅 116.0 / 木綿	日本民藝館
121	朱あや継ぎ接ぎ衣裳 沖縄	19世紀	身丈 104.0 幅 112.0 / 絹、木綿	日本民藝館

第4章 ハギレの価値

122	前田家伝来名物裂帖 古幾礼	裂：中国・明～清代 (16～17世紀)	22.9 × 21.0	東京国立博物館
123-1	前田家伝来名物裂：双鳳丸文様金襴 (二人静金襴)	中国・宋代 12世紀	16.2 × 13.5	東京国立博物館
123-2	前田家伝来名物裂：丹地霊芝雲文様金襴 (大燈金襴)	中国・元代 13～14世紀	29.4 × 21.2	東京国立博物館
123-3	前田家伝来名物裂：騎羊人物椿梅折枝 (太子綿羊) 文様金襴	中国・明代 17世紀	68.0 × 40.6	京都国立博物館
123-4	前田家伝来名物裂：白地草花獅子蛇文様金更紗	17世紀	29.2 × 86.0	京都国立博物館
123-5	前田家伝来名物裂：花七宝入り石畳文様緞子 (遠州緞子)	中国・明代 17世紀		東京国立博物館
123-6	前田家伝来名物裂：縞地八宝文様金襴 (金春金襴)	中国・明代 16～17世紀	30.5 × 15.0	東京国立博物館
123-7	前田家伝来名物裂：流水魚文緞子 (荒磯緞子)	中国・明代	13.5 × 27.3	東京国立博物館
123-8	前田家伝来名物裂：縹地花兎文様金襴 (角倉金襴)	中国・明代 15世紀	15.0 × 18.5	東京国立博物館
123-9	前田家伝来名物裂：縞文様間道 (八色間道)	中国・明代	21.0 × 21.3	東京国立博物館
124	きぬ嘉ゝ見	江戸後期	裂帖寸法：40.2 × 24.5	大谷みちこ
125	古裂手鑑帖	江戸後期～明治前期	裂帖寸法：27.8 × 21.2	大谷みちこ
126-1	井伊家伝来彦根更紗：白地人物文様更紗 (馬に乗る男)	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-2	井伊家伝来彦根更紗：黄地唐人物文様更紗	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-3	井伊家伝来彦根更紗：浅葱地蓮水禽文様更紗	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-4	井伊家伝来彦根更紗：赤紫地松鳥文様更紗	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-5	井伊家伝来彦根更紗：白地縞花唐草文様更紗 (段更紗)	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-6	井伊家伝来彦根更紗：縞文様更紗	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-7	井伊家伝来彦根更紗：赤地段花文様更紗	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-8	井伊家伝来彦根更紗：紺地花文様金更紗	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-9	井伊家伝来彦根更紗：縞花唐草文様更紗 (段更紗)	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-10	井伊家伝来彦根更紗：紺地格子丸文様更紗 (胡麻手)	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-11	井伊家伝来彦根更紗：白地花唐草文様更紗 (大唐花手)	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-12	井伊家伝来彦根更紗：白地花文様金更紗	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-13	井伊家伝来彦根更紗：格子織地金糸入更紗	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-14	井伊家伝来彦根更紗：藍地扇文様更紗 (扇手)	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-15	井伊家伝来彦根更紗：花入格子文様更紗 (和風)	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-16	井伊家伝来彦根更紗：茶地銭文様更紗 (銭手)	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-17	井伊家伝来彦根更紗：浅葱地丸文様更紗 (紋づくし手)	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-18	井伊家伝来彦根更紗：白地花卉文様更紗 (鶏頭手)	17-18世紀	木綿	東京国立博物館
126-19	井伊家伝来彦根更紗：白地栗鼠文様更紗	17-18世紀	木綿	東京国立博物館

126-20	井伊家伝来彦根更紗：浅葱地小花丸文様更紗 (イチゴ手)	17-18 世紀	木綿	東京国立博物館
127	書更紗 百五拾種〔裂帖〕	江戸後期	裂帖寸法：34.8 × 48.3	大谷みちこ
128	稀華布鑑〔裂帖〕	江戸後期	裂帖寸法：39.0 × 55.0	大谷みちこ
129	更紗尽し掛物	江戸後期（更紗は17-18 世紀）	縦 132.5 横 64.8	神戸市立博物館
130	紅紬地波頭網模様絞縫小袖	江戸前期	縦 168.0 横 185.0	国立歴史民俗博物館
131	鬱金紬地菊水仙模様絞縫小袖	江戸前期	縦 168.0 横 185.0	国立歴史民俗博物館
132	黄縮緬地桜樹短冊模様友禪染縫切付小袖	享保 9 年・1724 以前	縦 168.0 横 185.0	国立歴史民俗博物館
133	染分縮緬地流水紅葉秋草模様友禪染小袖／ 染分綾地秋草千鳥模様友禪染小袖	元文 5 年・1740 以前	縦 168.0 横 185.0	国立歴史民俗博物館
134	白縮子地蘇鉄笹模様縫小袖	宝暦 10 年・1760 以前	縦 168.0 横 185.0	国立歴史民俗博物館
135	白縮子地菊籬模様絞縫小袖／紅縮緬地朝顔 模様絞染小袖	江戸中期、後期	縦 168.0 横 185.0	国立歴史民俗博物館
136	小袖裂・黒縮子地花流水模様絞縫箔小袖	江戸前期	縦 58.0 横 27.5	国立歴史民俗博物館
137	小袖裂・白縮子地大花模様絞縫小袖	江戸前期	縦 58.0 横 27.5	国立歴史民俗博物館
138	小袖裂・染分絞縮緬地蛇籠杭模様友禪染小袖	江戸中期	縦 74.0 横 27.5	国立歴史民俗博物館
139	小袖裂・白縮緬地流水秋草模様友禪染小袖	江戸中期	縦 74.0 横 27.5	国立歴史民俗博物館
140	文化十一 戌歳紅毛船持渡端物切本帖 戊七月	文化 11 年・1814	縦 37.5 横 17.5	東京国立博物館
141	紅毛方品持渡反物切本帳	嘉永 7 年・1854	縦 13.8 横 39.0	神戸市立博物館
142	辰種（秋）新渡り反物類切手本帳	安政 3 年・1856	縦 16.4 横 44.5	神戸市立博物館
143	御召嶋縮緬 御嶋本	天保 15 年・1844	縦 15.0 横 21.0	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
144	旧幕府御召越後縮見本帖	明治 18 年頃作成 明和～慶応（1764～1868）の裂貼附	縦 25.2 横 19.3	東京国立博物館
145	朝日印 御召御熨斗目腰本帳	幕末	縦 31.2 横 21.6	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
146	鶴印 御袴寫本	幕末	縦 15.0 横 21.4	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
147	嶋本帳 木むら	幕末～明治前期	縦 15.8 横 21.0	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
148	福印当世百色	幕末～明治前期	縦 17.4 横 24.3	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
149	改良斬新 染色標本	明治前期	縦 17.3 横 23.8	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
150	明治五壬申年 新調之 沢嶋治左衛門	明治 5 年・1872	縦 24.2 横 17.6	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
151	升印 色本帳	明治 6 年・1873	縦 18.1 横 25.3	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
152	無地色手本	明治 12 年・1879	縦 17.8 横 24.0	京都府立総合資料館蔵 (京都府京都文化博物館管理)
153	志満でほん、	天保 11 年・1840	縦 22.0 横 16.0 / 木綿、和紙	日本民藝館
154	〔縞帖〕	文久 3 年 7 月・1863 山形・長井	縦 22.0 横 16.0	個人
155	志満ほん	江戸後期 三重	縦 24.2 横 16.5	個人
156	縞見本	明治 22 年 7 月・1889 福島・会津	縦 19.2 横 14.7	個人
157	誂縮雛形手本切	江戸末期	箱寸：縦 36.5 横 21.0 高 18.0	藤本巧
158	木綿型染見本帳（杵築真紺屋）二種	江戸末期 島根・杵築	縦 34.0 横 18.0	藤本巧
159	木綿中形見本染半襦袢	明治時代	身丈 62.0 衿 60.0 / 木綿	個人
160	裂の筥 志村ふくみ	昭和 59 年・1984	台紙寸法：縦 20.9 横 19.3 50 枚	滋賀県立近代美術館
161	裂帖 志村ふくみ	平成 11 年・1999	内箱寸法：縦 30.3 横 29.2 高 8.0	滋賀県立近代美術館
162	切継「さふらん」 志村ふくみ	平成 2 年・1990	身丈 162.5 衿 68.0 / 絹	個人
163	切継「熨斗目拾遺」 志村ふくみ	平成 6 年・1994	身丈 172.0 衿 69.0 / 絹	滋賀県立近代美術館
164	切継「風露」 志村ふくみ	平成 12 年・2000	絹	個人
165	切継「青嵐」 志村ふくみ	平成 14 年・2002	絹	個人

166	「小按」「雪輪」屏風 志村ふくみ	平成 15 年・2003	六曲一雙屏風 (一面：縦 167.7 横 62.0 12 面)	滋賀県立近代美術館
167	「かたそめちょう」 芹沢銈介	昭和 14 年・1939	縦 29.4 横 12.5	静岡市立芹沢銈介美術館
168	木綿絞染裂貼交屏風 芹沢銈介	仕立て：昭和 50 年・1975 頃	六曲一雙屏風 縦 171.5 横 384.0	静岡市立芹沢銈介美術館
169	木綿型染裂貼交屏風 芹沢銈介	仕立て：昭和 50 年・1975 頃	六曲一雙屏風 縦 171.5 横 384.0	静岡市立芹沢銈介美術館
170	紅型裂貼交屏風 芹沢銈介	仕立て：昭和 53 年・1978	六曲一雙屏風 縦 182.3 横 243.0	静岡市立芹沢銈介美術館
171	木綿緋裂寄裂子供着 森山よしみ	昭和後期	身丈 84.0 衿 41.0 / 木綿	藤本巧
172	木綿緋裂寄裂子供着 森山よしみ	昭和後期	身丈 84.0 衿 40.0 / 木綿	藤本巧
173	寄裂幼子はじき「草笛」	平成 10 年・1998 以降	身丈 41.5 幅 60.0 / 麻他	三瓶清子
174	寄裂幼子はじき「想」 三瓶清子	平成 10 年・1998 以降 裂は江戸末～大正期	身丈 36.0 幅 58.0 / 麻他	三瓶清子
175	寄裂一つ身「雪晴るる」 三瓶清子	平成 10 年・1998 以降 裂は明治～大正期	身丈 72.5 幅 80.0 / 木綿	三瓶清子
176	寄裂一つ身「秋篠」 三瓶清子	平成 10 年・1998 以降 裂は明治～昭和	身丈 72.5 幅 80.0 / 絹	三瓶清子
177	寄裂一つ身「春まだき」 三瓶清子	平成 10 年・1998 以降 裂は明治～大正期	身丈 85.0 幅 61.5 / 木綿	三瓶清子
178	寄裂一つ身「寒椿」 三瓶清子	平成 10 年・1998 以降 裂は昭和 30 年頃	身丈 68.0 幅 70.0 / 絹	三瓶清子
179	御召し裂寄裂一つ身「ひとひら」 三瓶清子	平成 10 年・1998 以降 裂は昭和 30 年頃	身丈 71.6 幅 70.5 / 絹	三瓶清子
180	小裂見本 三瓶清子	平成 10 年・1998 以降		三瓶清子
181	『古ぎれ行脚 付資料四一六種』(上・下) 堀切辰一監修 庶民時代裂研究会出版部	1991 年出版	縦 35.3 横 26.3	三瓶清子
コラム 2 「継ぎ接ぎ」の魅力				
182	京更紗染分鑑下	江戸後期	身丈 76.5 衿 55.0 / 木綿、絹	大谷みちこ
コラム 3 袋～接ぎの可能性				
参考図版 6 上差袋(石帯袋) (国宝)		室町時代 14 世紀末	絹	京都国立博物館
183	絹・木綿等寄裂袋 四種	江戸後期～明治前期	(上から 2 点目：更紗寄裂袋) 底辺 19.5 × 19.0 高 27.0	古民芸もりた、個人
184	絹寄裂袋 二種	江戸後期 福岡・久留米	(左) 底辺 25.5 × 27.0 高 31.0	個人
185	絹寄裂袋(米袋、小豆袋) 六種	江戸後期～大正 山形・庄内など	(後列左) 底辺 23.5 × 24.0 高 27.0 (前列右から 2 点目) 底辺 10.0 × 10.0 高 9.0	個人
186	麻・木綿継ぎ接ぎ振り袋 三種	明治～昭和前期 青森	(左) 底径 36.0 高 140.0	田中忠三郎
187	麻寄裂袋 三種	江戸後期～明治前期 滋賀県周辺	(左奥) 底辺 19.5 × 19.5 高 37.0	藤本巧
188	麻寄裂袋 五種	江戸後期～昭和前期 滋賀県周辺	(下段左) 底辺 20.5 × 20.5 高 20.5	古民芸もりた、個人
189	麻寄裂袋 五種(下は底面)	江戸後期～昭和前期 滋賀、奈良県周辺	(右端) 底辺 21.0 × 22.0 高 27.5	古民芸もりた、個人
190	木綿寄裂袋各種	江戸後期～昭和前期 島根・大社町など	(上段左) 口径 93.0 高 87.0	古民芸もりた、個人
191	木綿寄裂袋 二種	江戸後期～明治前期 秋田・六郷	(上段) 底辺 22.0 × 22.0 高 19.0	秋乃宮博物館
192	木綿寄裂袋	江戸後期～明治前期	口径 86.0 高 47.0	静岡市立芹沢銈介美術館
193	木綿寄裂袋 五種	江戸後期～明治前期 山形・庄内各地	(下段左) 底辺 39.0 × 36.5 高 60.5	個人
194	木綿寄裂袋 二種	明治～大正・鳥取 倉吉地方	(左) 口径 36.0 高 41.0	個人
195	木綿寄裂袋 三種	明治～昭和前期 鳥取・因幡地方	(下段) 口径 58.0 高 31.0	個人

5. 風景読本～絵の旅・東北～展

会 期：2006年10月28日(土)～12月10日(日)

休館日：毎週月曜日、11月24日(木)

観覧料：一般・大学生 700(560) 円／高校生 400(320) 円

／小・中学生 300(240) 円 * () 内は 20 名以上の団体料金

観覧者数：5,265 名

担 当：伊藤匡、宮武弘

主 催：福島県立美術館

後 援：福島市、福島市教育委員会

【概 要】

本展は、東北地方の風景を描いた絵画、資料等を展示し、＜実用の風景一絵図と地誌一＞＜風景を選ぶ一名所絵から百選まで一＞＜風景の変貌一変わる景観と移る視点一＞＜風景に託する心一人と地域のアイデンティティ一＞の4つの章立てにより、なじみ深い画題である風景画の意味を再考する企画であった。

【総 括】

展示した作品のなかには、棟方志功、川端龍子、林武らも含まれていたが、全体としては著名な作家が少なく、地味な印象はぬぐえない。また、比較的高齢の鑑賞者は郷愁を感じて好印象であったが、若い鑑賞者は少なかった。

通常のギャラリートークではなく、展示室の一画を区切って臨時のレクチャールームを設け、椅子に座って話を聴いた後に作品を実見する＜ギャラリーレクチャー＞の形式は、参加者の肉体的疲労が少なく効果的だった。

□印刷物：ポスター（B2・B3）、チラシ（A4）、案内状

展覧会図録（23×19cm 80頁）

図版：カラー 168点

本文：『風景画への視点』伊藤匡（当館学芸課長）

出品リスト／関連年表



B2 ポスター



B3 ポスター



カタログ表紙

□関連事業

- ・ギャラリーレクチャー いずれも 14:00- 企画展示室にて開催

①「風景学入門」

講師：佐藤健二氏（東京大学大学院教授）

日時：10月28日(木) 15名

②「絵図の楽しみ」

講師：阿部俊夫氏（福島県歴史資料館歴史資料課長）

日時：11月4日(木) 10名

③「岩手の風土と画家」

講師：吉田尊子氏（岩手県立美術館学芸員）

日時：11月11日(木) 10名

④「文学者の見た福島の風景～宮澤賢治を中心として～」

講師：菅野俊之氏（福島県立図書館総括司書）

日時：11月18日(木) 30名

⑤「秋田の風土と画家」

講師：山本文志氏（秋田県立近代美術館学芸員）

日時：11月25日(木) 30名

⑥「変わる風景 磐梯山の秘密」

講師：佐藤 公氏（磐梯山噴火記念館副館長）

日時：12月2日(木) 40名

⑦「展覧会見所紹介」

講師：伊藤 匡（当館学芸課長）

日時：12月9日(木) 20名

- ・コンサート「音で聴く風景／生誕 250 年モーツァルトを歌う」

日時：11月5日(土) 100名

出演：福島楽友協会合唱団

・映画会

①「1000 年刻みの日時計 牧野村物語」（1971 年／カラー 173 分）

日時：11月13日(日) 10:00- 40名

場所：美術館講堂（入場無料）

②「警察日記」（1956 年／カラー 87 分）

日時：11月23日(木) 10:00- / 14:00- 120名（2回合計）

場所：美術館講堂（入場無料）

□関連記事

- ・「絵で巡る東北の風景 県立美術館できょう開幕」

『福島民報』2006 年 10 月 28 日

- ・「風景画に見る作者の思い 県立美術館展覧会開幕」

『福島民友』10 月 30 日

- ・「清らかな歌声響く 県立美術館でコンサート」

『福島民友』11 月 9 日

- ・「福島県立美術館企画展『風景読本 絵の旅・東北』」

『河北新報』11 月 18 日 伊藤 匡

- ・「26 年間作品入れ違い 県立美術館所蔵の『福島八景十勝』」

『福島民友』12 月 2 日



佐藤健二氏レクチャー（10/28）



阿部俊夫氏レクチャー（11/4）



山本文志氏レクチャー（11/25）



佐藤公氏レクチャー（12/2）



コンサート（11/5）

出品リスト

No	作品名	作家名	制作年	寸法	材質・技法	所蔵
1	米沢福嶋ニテ三拾万石之御絵図		1702(元禄 15)	163 × 246	紙・着色	米沢市上杉博物館
2	陸奥出羽国郡行程全図	橋本貞秀	1868(慶応 4)	93 × 142	紙・木版	青森県立郷土館
3	津軽図譜	百川学庵	江戸後期	縦 31.3	紙・着色	青森県立郷土館
4	東津軽山里海観図	清白閑人	1864(元治元)		紙・着色	青森県立郷土館
5	合浦山水観	平尾魯仙原画	山形岳泉写 1908(明治 41)	16 × 36	紙・着色	青森県立郷土館
6	閼門山水観	平尾魯仙原画	山形岳泉写 1908(明治 41)	17.5 × 36.5	紙・着色	青森県立郷土館
7	菅江真澄遊覧記(写本)	菅江真澄原画	明治期写	23.7 × 17	紙・着色	秋田県立博物館
8	蓑虫山人畫紀行	蓑虫山人	1891(明治 24)・1894(明治 27)	31 × 65.4	紙・着色	秋田県立博物館
9	三山総絵図	宮下正勝	1879(明治 12)	46 × 63	紙・木版	秋之宮博物館
10	湯殿月山羽黒三山一枚絵図	錦江斎春艸	不詳	53.9 × 66.2	紙・木版	秋之宮博物館
11	松嶋塩釜真景全図		1904(明治 37)	35 × 53.4	紙・石版	秋之宮博物館
12	国幣小杜岩木山神社参詣往返之図		1895(明治 28)	28.3 × 38	紙・石版	秋之宮博物館
13	陸奥国下北郡田名部恐山之絵図		明治初年	60 × 45	紙・木版	青森県立郷土館
14	岩手縣観光鳥瞰図原画	吉田初三郎	1936(昭和 11)	72 × 400.8	紙・着色	岩手県立博物館
15	鏡池春景之図	百川学庵	1846(弘化 3)	43.5 × 57.8	紙・着色	弘前市立博物館
16	盛岡八景	柴田是真	江戸末期	62.8 × 85.4	絹・着色	盛岡市中央公民館
17	象潟之図		1704-16(宝永・正徳年間)	54.2 × 129.9	紙・着色	本間美術館
18	酒田小屋之浜・袖之浦之図		1704-16(宝永・正徳年間)	54.2 × 129.9	紙・着色	本間美術館
19	松島図巻	谷文晁	1787(天明 7)	縦 27	紙・木版	郡山市立美術館
20	大日本十二勝景	松田緑山	明治時代	8.5 × 12.1	紙・銅版	郡山市立美術館
21	松島図	床次正精	明治時代	59.6 × 90	麻布・油彩	宮城県美術館
22	秋田十二景	勝平得之	1929-39(昭和 4-14)	22.6 × 29.6	紙・木版	秋田県立近代美術館
23	日本風景版画第二集 会津之部	森田恒友	1917(大正 6)	34.4 × 27.7(タトウ)	紙・木版	郡山市立美術館
24	日本風景版画第三集 東北之部	平福百穂	1917(大正 6)	34.2 × 28(タトウ)	紙・木版	郡山市立美術館
25	桜の弘前城	棟方志功	1956(昭和 31)	101 × 73	紙・着色	弘前市立博物館
26	弘前春景図	棟方志功	1959(昭和 34)	43 × 35	紙・着色	弘前市立博物館
27	福島八景十勝	角田磐谷	1948(昭和 23)頃	50.8 × 56.8	絹・着色	福島県立美術館
28	福島県観光絵はがき原画	川端龍子	1951-52(昭和 26-27)	各 53 × 39	絹・着色	福島県
29	十和田湖	林武	1953(昭和 28)	65.2 × 80.3	カンヴァス・油彩	国立公園協会
30	月山	木下義謙	1953(昭和 28)	65.2 × 80.3	カンヴァス・油彩	国立公園協会
31	尾瀬沼	中村善策	1953(昭和 28)	65.2 × 80.3	カンヴァス・油彩	国立公園協会
32	裏磐梯	斎藤与里	1953(昭和 28)	65.2 × 80.3	カンヴァス・油彩	国立公園協会
33	裏磐梯	斎藤与里	1953(昭和 28)	65.5 × 80.5	カンヴァス・油彩	福島県立美術館
34	栗子山昔時景	高橋由一	1881(明治 14)頃	36.1 × 60.9	カンヴァス・油彩	福島県立美術館
35	風景・鳥海山	高橋由一	1880 年代	36.7 × 45.8	麻布・油彩	郡山市立美術館
36	福島県道路風景画帖	高橋由一	1885(明治 18)	17.6 × 23.6	絹・石版、着色	福島県立図書館
37	栗子隧道十二景	菅原白龍	1881(明治 14)	縦 31	紙・着色	福島県立図書館
38	福米間鉄道工事之図	鈴木蘭崖	1901(明治 34)頃	16.8 × 24.1	紙・石版	米沢市上杉博物館
39	日本鉄道陸奥地方画譜	川口月村	1891(明治 24)以降	26 × 37	絹・着色	青森県立郷土館
40	窮玄掌覧(河内紀行画冊)	白雲	1801-04(享和年間)	26 × 33	紙・着色	
41	峡谷真趣(三巻)	大滝雨山	1933(昭和 8)	縦 32.6	紙・着色	福島県立博物館
42	岩木山	奈良岡正夫	昭和後期	89.4 × 130.3	カンヴァス・油彩	弘前市立博物館

43	岩手山	橋本八百二	1945(昭和20)頃	50×60	カンヴァス・油彩	盛岡市
44	岩手山朝暘	橋本八百二	1972(昭和47)	61×73	カンヴァス・油彩	盛岡市
45	岩手山	萬鉄五郎	1904(明治37)	24.5×34.5	紙・水彩	岩手県立美術館
46	岩手山	松本竣介	1934(昭和9)	11×16.8	紙・水彩	岩手県立美術館
47	盛岡風景	松本竣介	1941(昭和16)	53.2×72.8	カンヴァス・油彩	岩手県立美術館
48	春を待つ鳥海山	小泉淳作	1995(平成7)	155×271	紙・墨画淡彩	秋田県立近代美術館
49	象潟の初夏	伊藤弥太	1969(昭和44)	130.3×162.1	カンヴァス・油彩	秋田県立近代美術館
50	雪の鳥海山	齋藤長三	1939(昭和14)	45.5×53	カンヴァス・油彩	酒田市美術館
51	白雪月山	今井繁三郎	1981(昭和56)	130.3×162.1	カンヴァス・油彩	鶴岡市
52	霽雲(蔵王)	今野忠一	2001(平成13)	212×273	紙・着色	天童市美術館
53	吾妻山遠望	井出宣通	1950(昭和25)	65.7×80.3	カンヴァス・油彩	福島県立美術館
54	雪の安達太良山	吉井忠	1960(昭和35)	72.7×90.4	カンヴァス・油彩	福島県立美術館
55	裏磐梯	吉井忠	1942(昭和17)	60.8×72.8	カンヴァス・油彩	福島県立美術館
56	磐梯山	岩城照夫	1930(昭和5)頃	140.8×177.4	絹・着色	宮城県美術館
57	磐梯山	小泉淳作	1991(平成3)	106×273	紙・墨画淡彩	
58	春の磐梯図	猪巻清明	1942(昭和17)	50.2×60.8	絹・着色	喜多方市美術館
59	裏磐梯	石井柏亭	1953(昭和28)	45.4×56.1	紙・水彩	福島県立美術館
60	裏磐梯	阿部七郎	1966(昭和41)	72.9×100.2	カンヴァス・油彩	福島県立美術館
61	風景Ⅱ	渡部周三	不詳	38.1×45.4	カンヴァス・油彩	喜多方市美術館
62	磐梯山	井出宣通	1950(昭和25)	53.2×65.4	カンヴァス・油彩	福島県立美術館
63	山河	桜庭藤二郎	1983(昭和58)	164.3×208.8	紙・着色	秋田県立近代美術館
64	春の最上川	小松均	1974(昭和49)	各94×368	紙・墨画淡彩	秋田県立近代美術館
65	秋の只見	斎藤清	1980(昭和55)	97×375.5	紙・着色	福島県立美術館
66	尾瀬	大下藤次郎	1909(明治42)	35.3×67.3	紙・水彩	
67	雪の河畔	山川忠義	1976(昭和51)	112.9×162.2	カンヴァス・油彩	福島県立美術館
68	雪景(冬の最上川)	真下慶治	1946(昭和21)	65.2×91	カンヴァス・油彩	本間美術館
69	川瀬	真下慶治	1960(昭和35)	97×145.5	カンヴァス・油彩	本間美術館
70	風と砂の村	向井潤吉	1964(昭和39)	80.7×99.7	カンヴァス・油彩	世田谷美術館
71	野分のあと	向井潤吉	1983(昭和58)	45.5×53	カンヴァス・油彩	世田谷美術館
72	みちのくの冬	福井良之助	1946(昭和21)	130×162	カンヴァス・油彩	岩手県立美術館
73	狭布の里	柴田春光	1928(昭和3)	160.4×226.8	絹・着色	秋田県立近代美術館
74	雪の一日	福田豊四郎	1928(昭和3)	各59.5×184	紙・着色	秋田県立近代美術館



6. 名画の散歩道 山形美術館名品展

会 期：2007年2月17日(土)～3月25日(日)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B

休館日：毎週月曜日、3月22日

観覧料：一般・大学生 700(560) 円／高校生 400(320) 円／

小・中学生 300(240) 円 * () 内は 20 名以上の団体料金

観覧者数：15,014 名

担 当：堀 宜雄、久慈伸一

主 催：福島県立美術館、(財) 山形美術館

後 援：福島市、福島市教育委員会

【概要】

山形美術館は、重要文化財の与謝蕪村『奥の細道図屏風』をはじめとする古画の名品、吉野石膏コレクションの 19～20 世紀西欧の名作、さらには高橋由一から始まる近代の洋画など、古今東西の名品を擁する屈指のコレクションを誇っている。本展では、同館の幅広い分野にわたるコレクションから代表作約 80 点を選んで紹介した。

当館では 2003 年 2 月に新潟県立近代美術館と収蔵作品の交換展を開催し、約 9,000 人が観覧している。本展は当館としては 2 回目の交換展である。なお、山形美術館での当館収蔵作品展は 2007 年 4 月 7 日から 5 月 6 日まで開催され、好評を博した。

【総括】

比較的廉価に名画が鑑賞できるとあって、予想を大きく上回る 15,000 人超の来館者がつめかけた。無料で配布した鑑賞のしおりや、音声ガイド(有料)、さらに山形美術館からの講師を含めたギャラリートークなどにより、若年層から高齢者まで幅広い支持を得た。

テレビ主体の広報、親しみやすい展覧会名、展覧会ロゴなども効果を高めた一因であろう。

□印刷物

- ・ポスター (B2・B3)、チラシ (A4)、案内ハガキ
- ・鑑賞のしおり (29.0 × 21.3cm 16 頁)
図版：カラー 59 点
本文：作品解説



B2 ポスター



B3 ポスター



鑑賞のしおり

□関連事業

- ・ギャラリートーク（各回とも 14:00-）

① 2月11日(土) 加藤千明氏（山形美術館館長）	70名
② 2月19日(日) 堀宜雄（当館学芸員）	50名
③ 3月26日(日) 我妻寿彦氏（山形美術館学芸員）	60名
④ 3月 5日(日) 岡部信幸氏（山形美術館学芸課長）	60名
⑤ 3月19日(日) 久慈伸一（当館学芸員）	60名
- ・コンサート（友の会主催）

出演：ベルク木管五重奏団（山形交響楽団メンバー）

日時：3月18日(日) 350名

会場：美術館エントランスホール
- ・先生のための美術館入門

3月10日(日) 11人
- ・「美術館交流・近代絵画のアンソロジー 福島県立美術館名品展」

会期：4月6日(金)～5月6日(日) 開催日数 27日間 4,066人

会場：山形美術館

□関連記事

- ・「山形美術館の収蔵作品紹介 県立美術館きょうから企画展」

『読売新聞（福島県版）』2007年2月17日
- ・「山形美術館の逸品 80点 県立美術館きょうから初の交換展」

『福島民報』2月17日
- ・「名画の背景、作風理解 加藤山形美術館長が解説」

『福島民友』2月19日
- ・「《お薦め》モネ、蕪村など珠玉の80点」

『読売新聞（福島県版）』2月23日
- ・「県境超え名画一堂に 山形美術館と交換展」『河北新報』2月22日
- ・「山形美術館の名品公開する企画展」

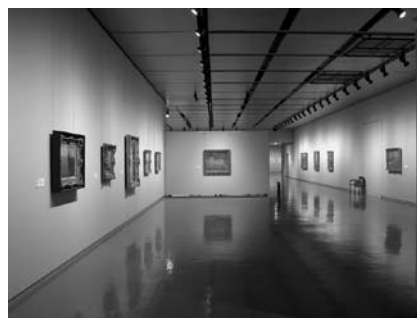
『毎日新聞（福島県版）』2月28日
- ・「内外の名画オンパレード 県立美術館、25日まで」

『読売新聞（福島県版）』3月6日
- ・「交換展で魅力再発見『名画の散歩道—山形美術館名品展』」

『河北新報』堀宜雄 3月10日
- ・「展覧会に花添える 県立美術館でコンサート」『福島民友』3月20日
- ・「福島県立美術館名品展 みどころ紹介」

『山形新聞』我妻寿彦氏（山形美術館学芸員）

 - ①「関根正二『姉弟』」4月5日
 - ②「速水御舟『女二題』」4月6日
 - ③「岸田劉生『自画像』」4月8日
 - ④「ゴッゲン『ブルターニュの子供』」4月9日
 - ⑤「国吉康雄『婦人と子供』」4月10日
 - ⑥「恩地孝四郎『母と子』」4月11日



展示風景



加藤千明氏ギャラリートーク（2/11）



我妻寿彦氏ギャラリートーク（3/26）



コンサート（3/18）

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質技法	備考
1	ジャン＝フランソワ・ミレー	農場へ帰る羊飼い	1860-65	46.5 × 56	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
2	カミユー・コロー	牧場の休息地	1870-75	46 × 38	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
3	ポール・セザンヌ	サンタンリ村から見たマルセイユ湾	1877-79頃	64.5 × 80.2	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
4	エドゥアール・マネ	イザベル・ルモニエールの肖像	1879 頃	101 × 81	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
5	ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ	雪原で薪を集める人びと	1884	67 × 126	油彩・カンヴァス、パネル	吉野石膏コレクション
6	アルフレッド・シスレー	モレのボプラ並木	1888	54 × 73	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
7	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	幼年期	1891	64 × 50.3	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
8	カミユー・ピサロ	キューガーデンの大温室前	1892	54 × 65	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
9	エドガー・ドガ	踊り子たち、ピンクと緑	1894	66 × 47	パステル・紙 (ボード裏打ち)	吉野石膏コレクション
10	クロード・モネ	睡蓮	1906	81 × 92	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
11	ピエール・ボナール	靴をはく若い女	1908-10頃	53 × 63	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
12	マリー・ローランサン	犬を抱く婦人	1921	81 × 65	油彩・カンヴァス	服部コレクション
13	アンリ・マティス	花とコーヒーカップ	1924	61.6 × 50.8	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
14	ヴァシリー・カンディンスキー	緑色の結合	1926	84.5 × 57.5	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
15	アンドレ・ボーシャン	滝	1928	59 × 79	油彩・カンヴァス	服部コレクション
16	モイーズ・キスリング	ジョゼット	1934	103 × 78	油彩・カンヴァス	服部コレクション
17	パブロ・ピカソ	マリ＝テレーズの肖像	1937	46 × 38	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
18	パブロ・ピカソ	青い背景の婦人像	1963	91 × 61.5	油彩・カンヴァス	服部コレクション
19	マルク・シャガール	恋人たちと花束	1935-36	55 × 38	油彩・カンヴァス	吉野石膏コレクション
20	ジョルジュ・ルオー	告発されたピエロ	1953-56	59 × 79	油彩・カンヴァス	服部コレクション
21	ジョアン・ミロ	ひとりごと (21点組)	1948-50	38 × 28	リトグラフ・紙	詩：トリスタン・ツアラ
22	マルク・シャガール	ポエム (24点組)	1962-68	32.5 × 25	木版・紙	
23	池 大雅	飲中八僊図巻	不詳	32 × 258	紙本墨画淡彩、卷子	長谷川(㊦)コレクション
24◎	与謝 蕪村	奥の細道図屏風	1779	139.3 × 349	紙本墨画淡彩、屏風六曲一隻	長谷川(㊦)コレクション
25	円山 応挙	雪中竹梅狗子之図	不詳	各 114.5 × 38.4	紙本墨画淡彩、双幅	長谷川(㊦)コレクション
26○	長澤 蘆雪	富士見西行図	不詳	129.8 × 27.7	紙本墨画淡彩、軸	長谷川(㊦)コレクション
27	木村 兼葭堂	松林楼閣山水図	不詳	222 × 60	紙本墨画淡彩、軸	長谷川(㊦)コレクション
28○	谷 文晁	熊野舟行図巻	1804	38×451.6/38×333.2	絹本着色、卷子二巻	長谷川(㊦)コレクション
29	中林 竹洞	浅絳山水図	1819	113 × 41.4	絹本墨画淡彩、軸	長谷川(㊦)コレクション
30○	横山 華山	紅花屏風	1823/25	各 154.3 × 357	紙本着色、屏風六曲一双	長谷川(㊦)コレクション
31	高久 霽崖	青緑山水図	1825	144.5 × 56	絹本着色、軸	長谷川(㊦)コレクション
32○	田能村 竹田	浅絳山水図	1827	52.7 × 90.7	紙本墨画淡彩、軸	長谷川(㊦)コレクション
33○	渡辺 崋山	溪澗野雉図	1837	142 × 86	絹本着色、軸	長谷川(㊦)コレクション
34	浦上 春琴	雪景山水図	不詳	110.3 × 35.8	絹本墨画淡彩、軸	長谷川(㊦)コレクション
35	河鍋 曉斎	美人納涼図	不詳	117 × 40.3	絹本着色、軸	長谷川(㊦)コレクション
36	菅原 白龍	山水図	1885	各 165 × 82.7	絹本墨画淡彩、軸双幅	長谷川(㊦)コレクション
37	菅原 白龍	老梅之図	明治期	143.5 × 92.5	紙本墨画、軸	
38	富岡 鉄斎	鉄道人墨戯冊	1903	各 24.6 × 16.9	紙本墨画着色、画帖一冊	
39	富岡 鉄斎	月夜梅花図	1909	125.5 × 50	絹本墨画淡彩、軸	
40	菊地 華秋	弁天の井	1921	172 × 58	絹本着色、軸	
41	山口 将吉郎	夕景図	1923	100.7 × 57.2	絹本着色、軸	
42	根上 富治	ネックレスを持つ少女	1935	109.8 × 87	絹本着色	
43	椿 貞雄	百果図屏風	1955 頃	71.2 × 170	紙本墨画淡彩、屏風二曲一隻	
44	小松 均	青山遠望図	不詳	123.5 × 41.8	絹本着色	

45	小松 均	最上川源流図	1970	94 × 370	紙本着色	
46	高橋 由一	鮭	1878 頃	129 × 37	油彩・カンヴァス	寄託作品
47	高橋 由一	寒河江市陰像	1884	62.5 × 51	油彩・カンヴァス	寄託作品
48 ○	高橋 由一	山形県景観画集 53 点のうち 6 点	1884	16.6 × 24.2	水彩・紙	
49	黒田 清輝	女の顔	1896 頃	34.5 × 25	油彩・カンヴァス	寄託作品
50	浅井 忠	人物風景習作	不詳	25 × 36	水彩・紙	寄託作品
51	浅井 忠	モンケール風景	1901	25 × 35	水彩・紙	寄託作品
52	藤島 武二	うつつ	1913	24.5 × 32.5	水彩・紙	寄託作品
53	椿 貞雄	落日(代々木附近)	1914	37.8 × 45	油彩・カンヴァス	
54	椿 貞雄	菊子座像	1921	50.8 × 34.8	水彩・紙	
55	椿 貞雄	冬瓜茄子之図	1942	45.5 × 78.8	油彩・カンヴァス	
56	萬 鉄五郎	かなきり声の風景	1918	50.5 × 60.5	油彩・カンヴァス	寄託作品
57	岸田 劉生	麗子坐像	1920	50.7 × 33.3	水彩・紙	吉野石膏コレクション
58	小野 幸吉	パレットを持つ自画像	1928 頃	65.3 × 53.2	油彩・カンヴァス	寄託作品
59	斎藤 長三	雪(市井風景)	1940	162 × 194	油彩・カンヴァス	
60	金山 平三	山仕事の帰り	1942	40.9 × 60.6	油彩・カンヴァス	
61	安井 曾太郎	蝦	1952	33 × 41	油彩・カンヴァス	寄託作品
62	児島 善三郎	椿	1953	33.5 × 24.5	油彩・カンヴァス	寄託作品
63	北川 民次	太陽の花	1971	73 × 63	油彩・カンヴァス	寄託作品
64	太田 三郎	Bottle Caps 29 September 1989. Yumigahama, Tottori.	1989	25.2 × 15.8	コピー・紙	
65	太田 三郎	Post War 47 村田弘道	1992	28.6 × 15.6	コピー・再生紙	
66	太田 三郎	Post War 47 松山孝次	1992	28.6 × 15.6	コピー・再生紙	
67	太田 三郎	Seed Project -4 チカラシバ 1993 年 10 月 31 日 東京都練馬区光が丘	1995	21 × 11.8	種子, コピー・和紙	
68	太田 三郎	Seed Project -8 シロバナタンポポ 1994 年 4 月 24 日 岡山県津山市北園町	1995	21 × 11.8	種子, コピー・和紙	
69	太田 三郎	Post War 50 「私は誰ですか」 第一次 聞喜鳳	1995	29.1 × 15.6	プリント・再生紙	
70	太田 三郎	Post War 50 「私は誰ですか」 第一次 田 富	1995	29.1 × 15.6	プリント・再生紙	
71	太田 三郎	奥の細道 1997	1997	139.3 × 34.9	ミクストメディア、屏風状六面パネル	
72	細江 英公	二十世紀末の証人たち	1992	45.4 × 35.2	ゼラチンシルバープリント	
73	細江 英公	黒い睡蓮 #2	1992	43.5 × 35.4	ゼラチンシルバープリント	
74	細江 英公	夜明けの舞踏	1992	42.3 × 36.2	ゼラチンシルバープリント	
75	細江 英公	「曾我蕭白」に入我我入する大野一雄 II	1997	151 × 100	RP プリント、パネル	
76	佐藤 時啓	Fennel	1995	90 × 288.5 × 15	ミクストメディア	

* No.9 のみ 展示期間：2 月 17 日～3 月 11 日

*◎：重要文化財／○：山形県指定有形文化財

普及事業

◆館内解説

当館では、随時要請に応じて、以下のような館内解説を行っている。また、常設展における解説シートの作成、サンデートーク、ギャラリートークなどとの連携により、効果的な美術館ガイダンスをめざしている。

<団体解説>

学校教育や学習センター等の社会教育活動の活発化に伴い、団体で美術館を訪れる機会も増えている。そのほとんどが展覧会や館内の案内・解説を希望するため、学芸員が交替で対応している。通常は他の展覧会鑑賞者への配慮から、展示室外での解説を行っている。

内容は当館の概要、および代表的な収蔵品の解説、コレクション展ならびに企画展の解説案内が中心である。

4月8日～3月25日の開館期間での団体総数は73件、のべ3,105人。そのうち、解説を行った団体数は52件、のべ2,496人であった。

<質問電話>

当館では、展示室の各所に「質問電話」を設置し、展示品や美術全般についての観覧者からの質問に答えている。学芸員が直接応答するユニークなホットライン・サービスである。

◆鑑賞講座

国内外のさまざまな時代の美術について、多様な視点から作家・作品を解説し、楽しみながら美術への関心を高める講座である。2005年度に引き続き、館長・酒井哲朗による近代日本美術史講座を開講した。

○館長講座「近代の日本美術を語る」（事前申込制・49名参加）

	開催日時	テーマ		開催日時	テーマ
第13回	4月15日	生命主義と個性主義 8	第19回	10月21日	芸術・都市・大衆 4
第14回	5月20日	生命主義と個性主義 9	第20回	11月18日	芸術・都市・大衆 5
第15回	6月17日	生命主義と個性主義 10	第21回	12月16日	芸術・都市・大衆 6
第16回	7月15日	芸術・都市・大衆 1	第22回	1月20日	芸術・都市・大衆 7
第17回	8月19日	芸術・都市・大衆 2	第23回	2月17日	芸術・都市・大衆 8
第18回	9月16日	芸術・都市・大衆 3	第24回	3月17日	近代美術の成熟 1

◆映画会

当館では開館以来、質の高い映像作品を紹介するために、映画会を開催している。会場は美術館講堂にて、16mmフィルムまたはDVDによる上映を行っている。なお、入場は無料である。

今年度は、企画展およびイベントとの連携を軸にした作品選定を行い、下記の5回を開催した。

開催日	上映作品	上映回数	入場者数
8月5日(土)	「アテネ／アクロポリスからの三度の帰還」	2回	20名
8月19日(土)	「マッチ工場の少女」	1回	70名
10月22日(日)	「第五福竜丸」	2回	80名
11月12日(日)	「1000年刻みの日時計 牧野村物語」	2回	20名
11月26日(日)	「警察日記」	2回	50名
			計240名

◆博物館実習の受け入れ

博物館学芸員資格取得に必要な「博物館実習」について、当館での受講希望の学年を毎年受け入れている。下記のカリキュラムに基づき、当館学芸員が講義・指導を行った。

○2006年度博物館実習 日程：2006年7月25日～30日（計6日間）
実習生：12大学 計14名受講

◆実技教室

実技教室は、実制作の体験を通して、表現の喜びを味わい、鑑賞の一助とする目的で実施されている。子供から大人まで、それぞれの対象に応じたテーマを設け、広く美術に親しみ、美術の創作活動における多様な要求に応えることをねらいとしている。

講座は以下の5種類を行っている。一般初心者を対象に、じっくりと作品制作にとり組める「実技講座」、美術のさまざまな技法を紹介・体験する「技法講座」、親子で美術に親しむことを目的とした「親と子の美術教室」、小学生を対象とした「わんぱくミュージアム」、中学生から一般まで気軽に創作を体験できる「一日創作教室」である。

＜実技講座＞	
①「人体をモチーフにつくる」	受講者数 10 名
講師：湯川隆氏（彫刻家） 日程：5月28日・6月4日・11日・18日・25日（日曜5回連続） 概要：裸婦をモデルに彫塑用の粘土を使って心材にモデリングしながら、人体の自然な立ち姿をとらえることを目標に、人体の構造、力学を踏まえて全身像（50～100cm程度）を制作し、各自の作品を写真撮影して記録した後、解体して終了した。	
②「フレスコ画を描く」	受講者数 15 名
講師：森敏美氏（東北生活文化大学生活美術学科教授） 日程：9月2日・3日・10日・16日・17日（土曜・日曜5回連続） 概要：生乾きの漆喰の壁に彩色する西洋の古典的壁画技法・フレスコでF6号（40.9×31.8cm）の模写による作品およびF4号（33.4×24.3cm）の写真に基づいた自画像、さらにF4号の自由制作による作品を描いた。	
③「岩絵の具で描く顔や身体」	受講者数 10 名
講師：内田あぐり氏（日本画家、武蔵野美術大学教授） 日程：10月28日・29日・11月4日・5日・11日・12日（土曜・日曜6回連続） 概要：日本画の岩絵の具を使って麻紙のボード（ドーサ引き、53×45cm程度）に自画像を描いた。次に、裸婦モデルをクロッキーした後、男性舞踊家の動きを見ながら岩絵の具で和紙（90×60cm程度）に人間の身体をドローイング感覚で描いた。	
④「リトグラフ～平版による表現技法」	受講者数 9 名
講師：松村誠一氏（版画家、桐生短期大学アート・デザイン学科専任講師） 日程：2月17日・18日・24日・25日・3月3日・4日（土曜・日曜6回連続） 概要：水と油の反発作用といった化学的な性質を利用して、直接版に描いたものを再現できる版画技法リトグラフ（平版画または石版画）。その仕組みと多様な表現技法を学びアルミ製の柙板（45.4×60.6cm）の版材で色刷りの作品を作った。	

＜技法講座＞		
①「大理石で作るペーパーウエイト～石彫素材に触れる」		受講者数 20 名
講師：前田耕成氏（彫刻家、東北芸術工科大学芸術学部教授） 日程：7 月 8 日(土)・9 日(日) 概要：石彫素材の大理石（300 ～ 500g）をダイヤモンドカッター等で削ってペーパーウエイトの原型を作り、砥石と耐水のサンドペーパーで形を整え表面をなめらかにし、仕上げにつやだしの行程をへて完成した。		
②「草木で染めるカラーパレット」		受講者数 12 名
講師：清水繭子氏（染織家、着物作家）、 坂倉杏介氏（慶應義塾大学デジタルメディアコンテンツ研究機構助手） 日程：10 月 7 日(土)・8 日(日) 概要：土地や気候、季節により様々な特色を持つ植物。草木を使った染色も、その土地特有の植物の色の違いとなって現れる。福島の身近な草木で布や和紙を染め、色の標本箱を作った。		
③「銀筆の技法（西洋古典絵画のデッサン技法）」		受講者数 17 名
講師：三浦明範氏（女子美術短期大学部教授） 日程：12 月 2 日(土)・3 日(日) 概要：西洋古典絵画に用いられた銀筆の歴史と技法について講義した後、特別な下地を施したボード（27 × 22 cm 程度）を作り、銀筆で静物をモチーフに描いた。		
＜親と子の美術教室＞		
①「自分流の不思議な昆虫や生き物を作ろう」		受講者数 9 組 18 名
講師：加茂博氏（造形作家） 日程：5 月 5 日(金) 概要：木の枝や葉、木の実、小石など自然素材を主に、ボタンや布、紙、麻ひもなども使って、昆虫や動物など、小さなものから大きなものまで自分だけの愉快で不思議な生き物を作った。		
②「『家族の旗』をつくろう！」		受講者数 8 組 19 名
講師：橋本圭也氏（東京藝術大学工芸科染織専攻講師） 日程：7 月 23 日(日) 概要：美術館の池の脇の芝生で大きな白布（140 × 180cm 程度）に、染料で自由に描いてオリジナルの旗を各家族で一枚作り、エントランス脇の芝生に組み立てた竹竿に結んで完成した。		
③「AJIN と創ろう！ペーパーアート～立体いのしし君カレンダー 2007～」		受講者数 36 組 75 名
講師：野田亜人氏（ペーパーアート作家） 日程：12 月 17 日(日)（午前と午後の 2 回） 概要：「ペーパークラフト王」としてテレビで話題になった野田氏を講師に、今回特別に用意したマーメイド紙を素材とするオリジナルキット「立体いのしし君カレンダー」を、紙の素材を扱う技術を学びながら組立てて完成させた。		

<わんぱくミュージアム>		
①「石膏でレリーフを作ろう！」		受講者数 14 名
講師：久慈伸一（当館学芸員） 日程：7 月 2 日(日) 概要：粘土を成形しながら様々な物を押しつけて、凹凸をつけたり、また、厚紙などで壁状の輪郭を自由に作って、顔や仮面、動物や昆虫などの形をした型を作り、水に混ぜると固まる石膏を流してレリーフや壁飾りを作った。		
②「粘土で作る立体絵画」		受講者数 4 名
講師：久慈伸一（当館学芸員） 日程：10 月 22 日(日) 概要：合成紙粘土で身のまわりの出来事や風景、顔、動物などをボリュームや厚みを考えながら自由に作り、板のパネル（25.7 × 36.4 cm）にボンドで貼り付け、アクリル絵の具で彩色して立体絵画を作った。		
③「空飛ぶ自分をつくろう！」		受講者数 5 名
講師：橋本淳也（当館学芸員） 日程：3 月 11 日(日) 概要：割り竹と障子紙、たこ糸を素材に、自分の等身大のシルエットの輪郭をなぞった図柄にアクリル絵の具等で彩色して、空飛ぶ自分の形をイメージした凧を作った。		

<一日創作教室>		
①「粘土で絵画を模写する～アイデア・もの・変換～」		受講者数 6 名
講師：久慈伸一（当館学芸員） 日程：8 月 20 日(日) 概要：絵画やイラスト等を粘土でレリーフ状に模写したり立体作品に起こすなど、形・色・質感を粘土という素材に変換、再構成する体験を通じて、作品に込められた意図・感覚を読むことを探り、作ることと鑑賞することを双方から体験した。		
②「2つの『版』で描く」		受講者数 10 名
講師：橋本淳也（当館学芸員） 日程：1 月 28 日(日) 概要：透明な A4 サイズ（29.7 × 21cm）の PET 樹脂板を版材に、ドライポイント（針で引っ掻いた溝にインクをつめて刷り取る技法）とモノプリント（筆などで描いて載せたインクをそのまま刷り取る技法）を使って、描画する感覚で色刷りの版画を作った。		

◆学校連携事業

□美術館・学校教育連携協議会

県内小・中学校、高等学校の教師と直接話し合う場を設け、学校・美術館をとりまく現状や問題点を情報交換する中で、相互の現状理解を深めながら継続的な連携活動が展開できる密接な関係を築く目的で以下の事業を継続して実施している。

■先生のための美術館入門（事前申込み制）

美術鑑賞教育の新たな展開を模索する目的で、先生を対象に広く参加者を募り、より実践的な普及・研究活動を目指して開催している。教師用手引き書『教師のためのやさしい美術館ガイドブック「美術館を楽しもう！」』をもとに美術館の利用方法・状況を紹介。また鑑賞用補助教材「アート・キューブ」やワークシートなどを使用した鑑賞活動例を報告し、その効果を検証している。そして開催中の企画展を鑑賞し、ギャラリートークや講演会を通して内容と見所を解説した。

本事業は、学校の窓口である先生を通じて、こども達の鑑賞活動を啓発するとともに、学校・美術館における美術や美術教育に関する幅広い情報交換を行う貴重な機会となっている。さらに、団体見学や学校連携共同ワークショップなど当館の他の事業・活動への新規参加を促す役割も大きい。

日 時：企画展開催期間中の土曜または日曜 2 時間程度

場 所：美術館講義室および展示室

定 員：小・中・高校教師 20 名程度（申し込み多数の場合は抽選）

内 容：教師用手引き書による美術館利用方法の紹介及び鑑賞用教材の使用実践報告と検証。

企画展（ギャラリートークまたは講演会）鑑賞。

講 師：企画展担当学芸員、学校連携担当学芸員

経 費：交通費は参加者の自己負担とする（ただし企画展の観覧料を免除する）。

教師用手引き書と「アート・キューブ」ガイドブック、パンフレットを無償配布。

【開催日程】

2006 年 4 月 23 日(日) 「須田国太郎展」

参加人数：6 名

2007 年 3 月 10 日(土) 「名画の散歩道～山形美術館名品展」

参加人数：11 名



□学校連携共同ワークショップ

現在活躍中の作家を講師に招き、美術館学芸員と学校を訪問して創作活動を行なう出張ワークショップである。こども達が作家との交流や作品制作を通して「美術」を肌で感じ、美術や美術館により親しんでもらうことを目的に開催している。学校における通常の1～2時間単位の授業とは異なり、こども達が作家と交流しながら制作・鑑賞などの活動に集中する十分な時間と環境を確保できるように、半日～1日の時間を学年単位や全校生でも創作活動を行なえるように設定している。また、学校ではあまり取りあげられていない素材や技法を紹介し、新鮮な体験を通してこども達の美術に対する関心を高めるよう配慮している。

ワークショップで制作したこども達の作品のうち移送可能なものは館に移送して紹介展示し、児童・生徒の美術館への来館を促すとともに、地理的に美術館を利用しづらい学校へも事業の還元・普及をはかる。

日 程：4月～6月：広報・参加校募集期間

7月：受講通知発送・日程調整

8月～9月：美術館・学校教育連携協議会（講師・担当教諭各校1名・担当学芸員） 当館実習室 1日
内容調整・準備

10月～11月：ワークショップ開催 各学校 半日～1日

12月～1月：紹介展示 当館エントランスホール

場 所：各学校（教室・多目的ホール・美術室・体育館など）

対 象：県内小・中・高校3校 各40名程度（申込み多数の場合は抽選）

経 費：材料等は講師の助言のもと各学校で準備。旅費・謝金は美術館で負担する。

■2006年度学校連携共同ワークショップ「仮面の向こうにみえるもの」概要

「仮面」を主題に精力的に制作活動が続ける塩野氏を講師に迎えて仮面（マスク）の制作を中心に据えたワークショップを設定した。目に見えない自分の心の中（願いや思い）を形＝仮面（マスク）にする。

小学1年生から中学3年生までのこども達を対象に、年齢に応じて「ウルトラマン」から「伎楽面」まで登場する興味深い「仮面の造形」にまつわる話を聞く。金属製の8mmメッシュにマジックペンで下書きし、金切りバサミで切り込みを入れ、手で曲げたり、伸ばしたりしてマスクの原型を成形する。軽量粘土を裏表両面から押さえて薄く伸ばして造形していく。粘土を盛りつけ、毛糸など他の素材やパーツを組み合わせ、表面のマチエールも工夫して表情をつけ、イメージする「仮面」に近づけていく。ジェットヒーターやドライヤーで粘土を乾燥させ、水彩・アクリル絵具で彩色をほどこす。視界が得られるように高さを調整して、毛糸の面ひもを通して完成とする。

作品制作を楽しむばかりでなく、それぞれの生徒が自分で作った仮面をかぶってお互いの作品を鑑賞し、ポーズを取るなどのパフォーマンスをした。仮面の持つ力や仮面をつける意味について感じ、考える事が出来る体感型のワークショップとなった。

講 師：塩野麻理氏（彫刻家、明星大学造形芸術部助教授）

■開催校一覧

10月11日(木)

「マスクで変身！私の好きな〇〇に変身しちゃおう！」
郡山市立御館小学校下枝分校1～3年生 14名
担当教諭：木村景子先生



11月8日(木)

「大切な気持ちを伝えたい メッセージャーに変身！」
二本松市立下川崎小学校5・6年生 14名
担当教諭：佐久間敏男先生



11月22日(木)

「マスクで変身！思い出パフォーマンス」
南会津郡下郷町立下郷中学校3年生選択 7名
担当教諭：矢畑靖子先生



◆美術館への年賀状展

福島県立美術館の新春恒例の事業として、県内の小中学生から寄せられた手作り年賀状をすべて当館エントランスホールに展示した。

干支の「亥」をモチーフにしたものが大勢を占めたが、技法・表現は、紙版画・木版画などの版画作品、色鉛筆・墨・ペンなどの様々な描画材を使用した作品、折り紙や布や綿などを貼り込んだ貼り絵・コラージュ作品、パソコンの作画ソフトで描いた作品などバラエティーに富んでいた。絵柄だけでなく「新年の抱負」や「友達へのメッセージ」などが書かれており、作品に込めたこども達の気持ちが率直に感じられた。また、授業などで作った作品をまとめて送付する学校が数多く見られた。

会 期：2007 年 1 月 11 日(木)～ 31 日(水)

応募数：小学生 676 通／中学生 110 通／学年不明その他 5 通 総計 791 通

学 年	枚 数
小学校 1 年	122 通
小学校 2 年	107 通
小学校 3 年	220 通
小学校 4 年	192 通
小学校 5 年	14 通
小学校 6 年	21 通
中学校 1 年	89 通
中学校 2 年	4 通
中学校 3 年	8 通

◆館外での活動

講演／講義／委員等

- 「猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト」審査員 堀宜雄 2006 年 11 月 1 日
 - 福島市写真美術館運営委員 久慈伸一（2006 年度～）
 - 小平市平櫛田中美術館ほか「甦る近代彫刻の鬼才 佐藤朝山展」図録原稿執筆 増渕鏡子 2006 年 9 月 15 日発行
 - 全国美術館会議保存研究部会幹事 堀宜雄（2005 年度より継続）
 - 福島県立博物館＜木曜の広場＞講座「高橋由一の描いたふくしま」講師 伊藤匡 2006 年 9 月 6 日
 - 福島民友新聞社「ふるさとふくしまフォト・コンテスト」審査委員長 伊藤匡
 - 「名取洋之助と日本工房展」展示指導およびギャラリートーク講師 堀宜雄
- 川崎市民ミュージアム：2006 年 7 月 8 日、8 月 6 日／足利市美術館：11 月 19 日／長崎県美術館：11 月 28 日

◆その他の事業

1) 福島県立図書館との連携事業

■「アートなおはなし会」

日時：8 月 5 日(土) 午前と午後の 2 回

対象：小学生とその保護者 計 44 名参加

概要：県立図書館での絵本の読み聞かせと美術館常設展示室での「アート・キューブ」を使った鑑賞を組み合わせた事業で、図書館との連携は初めての試みであった。



2) コレクション・クローズアップ

当館所蔵のベン・シャーン「ラッキードラゴン」を中心とした小特集展示に併せてイベントを開催した。

日時：10 月 22 日(土) 計 80 名参加

協賛：福島県立美術館協力会

概要：映画会 新藤兼人監督作品「第五福竜丸」上映

講演会「石に刻む線ーベン・シャーンの第五福竜丸をめぐるー」

講師：アーサー・ビナード氏（詩人）



3) ミュージアム・ショップ

■ミュージアム・ショップの改装

絵はがきラックを新造し、陳列棚を改装してコーナー全体のリニューアルを図った。

■ミュージアム・グッズの開発

- ・一筆箋 4 種類（モネ、ベン・シャーン、酒井三良、斎藤清）
- ・メモ帳 3 種類（すべてベン・シャーン）
- ・クリアファイル 2 種類（モネ、斎藤清）



◆広報活動

- ・美術館案内、展覧会スケジュール、チラシ等を館内で配布
- ・企画展ごとにポスター、チラシ、割引券等を配布
- ・県発行の広報誌に事業案内を掲載
- ・その他、随時広報活動を行った。

□美術館紹介記事

- ・「親子で学ぼう 来月 5 日教室」『福島民報』2006 年 4 月 21 日
- ・「23 日に先生対象美術館入門教室」『福島民報』2006 年 4 月 21 日
- ・「あす県立美術館サンデートーク」『福島民報』2006 年 5 月 13 日
- ・「楽しく絵の世界理解 県立美術館サンデートーク」『福島民報』2006 年 5 月 16 日
- ・「本と絵一緒に楽しもう 県立図書館・県立美術館 5 日に初の連携事業」『福島民報』2006 年 7 月 26 日
- ・「絵画鑑賞し芸術親しむ アートなおはなしかい」『福島民報』2006 年 8 月 12 日
- ・「イラスト→オブジェ 粘土作品づくりに挑戦」『福島民友』2006 年 8 月 24 日
- ・「フレスコ画教室」『毎日新聞（福島県版）』2006 年 9 月 16 日
- ・「知性のタッグで集客もアップ！ 県内文化施設で共同企画続々」『読売新聞（福島県版）』2006 年 9 月 25 日
- ・「ベン・シャーンと第五福竜丸 あす映画上映と講演会」『福島民報』2006 年 10 月 21 日
- ・「第五福竜丸事件を紹介 県立美術館であすイベント」『毎日新聞（福島県版）』2006 年 10 月 21 日
- ・「親子でペーパーアート カレンダー作る」『福島民報』2006 年 12 月 19 日
- ・「かわいい年賀状一堂に 31 日まで県立美術館で展示」『福島民友』2007 年 1 月 12 日
- ・「子どもらのメッセージ 791 通 県立美術館の年賀状展」『朝日新聞（福島県版）』2007 年 1 月 12 日
- ・「大山忠作氏の作品公開 文化勲章受章記念 所蔵の 7 点を展示」『福島民友』2007 年 1 月 14 日
- ・「鍋島焼の全容紹介 新年度このほか 4 企画」『朝日新聞（福島県版）』2007 年 1 月 24 日
- ・「大山忠作さん 思い出の作品と再会」『福島民報』2007 年 2 月 1 日
- ・「和と洋の融合鮮やか 文化勲章の受章記念展」『河北新報（福島県版）』2007 年 2 月 5 日
- ・「上村松園展など 5 本 県立美術館新年度企画展固まる」『福島民報』2007 年 2 月 23 日
- ・「街づくり成功例に学べ 北東北の学芸員らきょう講演会」『朝日新聞（福島県版）』2007 年 3 月 3 日

◆出版発刊

2006 年度刊行物一覧

	出版物名	規格	配布方法	内容
1	ミュージアム・カレンダー	B5 版・三つ折り	無償	年間事業計画
2	美術館ニュース（年 6 回発行）	A4 版・三つ折り	無償	2 か月ごとの事業紹介
3	2005 年度年報	A4 版・88 頁	無償	事業活動報告
4	企画展図録	企画展ごと 6 種	有償	企画展の記録
5	移動展リーフレット	A3 版・二つ折り	無償	出品作品紹介

◆ホームページ

展覧会や各種事業の紹介のほか、所蔵品の解説等を掲載し、ウェブ上で利用者に提供している。

アクセス件数：152,381 件（2007 年 3 月 31 日現在）

調査研究

◆調査研究事項

- | | | | |
|---------------|--------------|----------|------------|
| (1)作家調査 | (2)作品調査 | (3)技法調査 | (4)美術史調査 |
| (5)保存関係調査 | (6)教育普及調査 | (7)展覧会調査 | (8)美術館運営調査 |
| (9)県内外の展示施設調査 | (10)美術館利用者動向 | | |

◆重点調査事項

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。当館では県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

今年度は特に、版画家斎藤清の関連資料調査（書簡、下絵等）を重点的に行った。

◆企画展アンケート結果

アンケート記入方式：会期中毎日、展示室内に置かれたアンケートに観覧者が任意に記入。
数値は％で示し、1％未満は四捨五入した。

展覧会名	須田国太郎展	カミーユ・クローデル展	ドキュメント 福島展	ハギレの 日本文化誌展	風景読本展	渡部菊二展	山形美術館 名品展
会 期 (開催日数)	4/8-5/14 (38日間)	5/30-7/17 (27日間)	7/29-9/4 (31日間)	9/9-10/15 (36日間)	10/28-12/10 (35日間)	1/11-2/4 (22日間)	2/17-3/25 (37日間)

1- 性別

女性	58.2	64.3	47.1	86.1	41.4	44.0	64.5
男性	41.8	35.8	52.9	13.9	58.6	56.0	35.5

2- 年齢

10歳未満	4.0	2.6	7.3	0.6	3.4	0	4.8
10歳代	6.3	8.1	35.4	2.3	21.2	10.8	10.9
20歳代	9.5	9.4	8.3	5.5	5.4	0	8.8
30歳代	6.3	15.0	9.9	5.6	6.4	9.2	8.5
40歳代	12.0	14.8	10.9	9.8	10.4	9.2	7.1
50歳代	19.3	20.5	13.0	29.6	23.9	9.2	22.4
60歳代	30.0	20.9	11.5	31.6	18.2	32.3	22.6
70歳以上	12.6	8.7	3.6	15.1	11.1	29.2	15.0

3- 居住地

県北	41.4	47.8	73.5	46.4	55.3	61.5	57.6
県中・県南	18.0	12.9	3.7	13.2	9.6	12.3	23.7
会津	4.7	6.6	2.1	3.1	5.5	3.1	4.7
浜通り	4.0	6.3	2.1	5.5	3.8	1.5	5.2
県外	31.9	26.4	18.5	31.7	25.8	21.5	8.9

4- 仕事

勤めている	31.2	43.0	28.6	23.9	38.6	21.5	31.6
自営	7.9	8.5	6.9	8.0	5.7	3.1	6.2
主婦・主夫	23.2	18.9	6.3	43.0	12.8	20.0	23.9
学生・生徒・児童	12.6	13.4	44.4	5.2	24.2	10.8	17.2
就労はしていない	16.7	9.4	10.1	12.6	14.4	30.8	15.4
その他	8.4	6.8	5.7	7.2	4.4	13.8	5.7

5- 来館交通手段

公共交通機関	26.7	26.4	19.9	31.0	16.0	13.4	18.5
観光バス・レンタカー	0.6	0.8	1.6	1.3	2.0	0	0.1
タクシー	2.5	1.9	1.6	3.6	2.0	1.5	0.2
自家用車・バイク	60.8	60.3	56.0	56.0	55.9	64.2	68.9
自転車・徒歩	9.4	9.3	20.9	7.4	23.2	17.9	0.1
その他	0	1.3	0	4.7	1.0	3.0	0

展覧会名	須田国太郎展	カミュー・クロード展	ドキュメント 福島展	ハギレの 日本文化誌展	風景読本展	渡部菊二展	山形美術館 名品展
6- 来館人数							
1 人	35.6	40.9	29.5	39.3	28.2	51.5	26.0
2 人	41.0	37.6	40.4	39.9	36.2	33.3	45.0
3～5 人	18.4	18.5	19.7	17.6	14.1	12.1	22.4
6～9 人	2.9	0.4	6.2	0.6	2.7	3.0	3.1
10 人以上	2.1	2.6	4.1	2.6	18.8	0	3.4
7- 展覧会情報入手方法							
ポスター	17.3	22.5	14.7	14.3	12.2	8.6	15.0
美術館ニュース	12.1	8.5	3.9	6.7	8.5	18.6	6.5
美術館に来て	7.5	5.8	13.2	2.5	19.1	15.7	4.3
県政番組・県の情報誌	2.2	3.2	3.4	3.5	1.8	1.4	3.8
テレビの番組	17.3	11.3	4.9	11.6	2.4	10.0	14.0
テレビ CM	3.7	6.9	2.0	4.3	1.5	5.7	12.9
ラジオ	0.8	0.5	1.5	1.0	0	2.9	0.5
新聞・地域情報誌	14.9	15.2	12.7	24.9	17.6	12.9	19.1
美術雑誌・全国情報誌	3.0	1.8	1.0	1.4	0.3	0	0.7
当館のホームページ	2.4	2.8	3.9	0.8	2.4	4.3	1.5
インターネット	2.7	2.7	2.5	1.5	2.1	1.4	2.0
友人・知人に聞いて	9.4	10.4	16.7	17.6	17.9	8.6	13.7
その他	5.4	8.3	19.1	5.3	11.9	10.0	4.4
8- 展覧会情報入手場所							
この美術館で	19.3	19.1	16.8	11.5	29.6	48.3	13.7
他の美術館・博物館で	9.4	6.8	4.3	5.1	5.0	3.4	3.2
学校で	5.0	7.3	20.0	2.3	14.6	1.7	6.2
職場で	4.2	7.3	5.4	4.9	8.6	1.7	6.4
街頭で	5.7	8.2	7.0	5.3	4.6	1.7	5.8
銀行や病院で	0.4	0	0.5	0.6	0.4	0	0.2
役所や公民館で	7.5	4.5	3.2	6.8	3.2	0	5.2
家で	35.5	34.3	30.3	45.9	19.3	34.5	46.8
その他	12.9	12.5	12.4	17.5	14.6	8.6	12.4
9- 展覧会の評価							
たいへんよい	55.2	48.7	27.9	68.7	46.1	44.6	53.3
よい	32.2	42.1	35.5	19.4	35.9	38.5	37.3
普通	10.7	8.1	29.0	3.9	15.4	15.4	8.5
あまりよくない	1.7	0.9	3.8	0.3	1.6	1.5	0.8
悪い	0.2	0.2	3.8	0	1.0	0	0.1
10- 来館回数							
はじめて	17.2	23.5	30.5	24.5	27.4	10.6	14.3
数年に 1 回	11.4	13.6	24.7	18.8	11.4	12.1	17.7
年 1 - 2 回程度	25.2	30.0	15.3	29.0	23.1	21.2	32.8
年 3 - 5 回程度	35.0	24.6	19.5	19.0	28.1	33.3	27.2
年 6 - 9 回程度	8.7	6.4	5.3	6.7	6.0	13.6	5.9
年 10 回以上	2.5	2.0	4.7	2.0	3.9	9.1	2.1
11- 企画展・常設展以外での当館の利用							
講演会	14.7	12.1	14.3	13.8	12.2	13.7	12.1
美術鑑賞講座	10.2	9.4	17.3	16.8	11.7	15.7	14.6
ギャラリートーク	14.1	12.5	11.2	11.1	14.4	23.5	10.9
映画会	10.5	11.3	13.3	8.4	13.9	9.8	9.0
実技講座	7.3	6.4	9.2	4.0	3.9	7.8	4.9
レストラン	34.5	38.1	33.7	34.9	35.6	23.5	39.6
その他	8.8	10.2	12.2	11.1	8.3	5.9	8.8
記入枚数							
記入枚数	481	467	193	549	304	66	911

収 集

◆美術作品および美術資料の収集

□収集方針

収集の対象は、明治（近代）以降の優れた美術作品とし、美術史の流れを知る上で欠かせない優れた古美術も対象としている。具体的な方針としては、以下の4つを掲げている。

- (a) 福島県の出身もしくはゆかりのある作家、作品
- (b) 日本美術の流れを展望するにふさわしい作品
- (c) 海外の優れた美術
- (d) その他当館の収蔵作品としてふさわしい作品や美術資料

□収蔵作品数一覧（2007年3月31日現在）

種 別	購入点数	受贈点数	移管点数	合 計
海 外（絵画・版画・彫刻）	376	10	0	386
日 本 画	68	92	115	275
洋 画	99	148	98	345
版 画	199	442	40	681
立 体	7	13	48	68
工 芸	74	37	33	144
書	0	1	36	37
素描・下絵	34	17	11	62
美術資料	0	17	0	17
合 計	857 点	777 点	381 点	2,015 点

□2006年度収蔵作品

分野	作家名	点数
日本画	上野 泰郎	4 点
"	菊地養之助	11 点
洋 画	大下藤次郎	1 点
"	須田国太郎	2 点
"	野地 正記	20 点
"	三宅 克己	1 点
素描・下絵	菊地養之助	3 点
版 画	柄澤 齊	20 点
"	田辺 至	1 点
"	秀島由己男	9 点
立 体	林 範親	1 点
"	保田 春彦	8 点
工 芸	川崎プッペ	1 点
美術資料	上野 泰郎	22 点
"	菊地養之助	3 点
"	木村 莊八	8 冊
"	佐藤 多持	3 冊
"	野地 正記	137 点
合 計		73 件 255 点

□新収蔵作品一覧

1. 上野泰郎 (1926-2005)

地にある人たち

1969 年
紙・岩絵の具など
162 × 130cm

寄贈



2. 上野泰郎 (1926-2005)

きのう・きょう・あす

1988 年
紙・岩絵の具など
173 × 334cm

寄贈



3. 上野泰郎 (1926-2005)

つきぬいのち

1991 年
紙・岩絵の具など
176 × 130cm

寄贈



4. 上野泰郎 (1926-2005)

心おこれる者

2001 年
紙・岩絵の具など
193.5 × 239cm

寄贈



5. 菊地養之助 (1908-2003)

子守の少女

1948 年
紙・岩絵の具など
85 × 75cm

寄贈



6. 菊地養之助 (1908-2003)

自画像

1950 年
紙・岩絵の具など
86.1 × 75.8cm

寄贈



7. 菊地養之助 (1908-2003)

階段の人

1951 年
紙・岩絵の具など
97.8 × 76.6cm

寄贈



8. 菊地養之助 (1908-2003)

人物A

1952 年
紙・岩絵の具など
102.5 × 78.6cm

寄贈



9. 菊地養之助 (1908-2003)

粉をひく老婆

1955 年
紙・岩絵の具など
162 × 112cm

寄贈



10. 菊地養之助 (1908-2003)

縄をなう人

1955 年
紙・岩絵の具など
111 × 159cm

寄贈



11. 菊地養之助 (1908-2003)

お化け煙突

1956 年
紙・岩絵の具など
60.5 × 72.7cm

寄贈

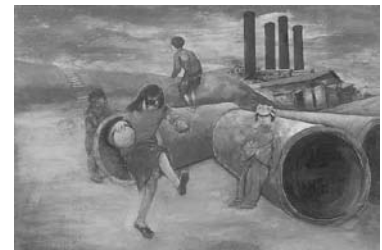


12. 菊地養之助 (1908-2003)

煙突の下の子供達

1956 年
紙・岩絵の具など
112 × 162.1cm

寄贈



13. 菊地養之助（1908-2003）

親子

1950 年代
紙・岩絵の具など
71.8 × 102.2cm

寄贈



14. 菊地養之助（1908-2003）

戯画 A

1962 年
紙・岩絵の具など
112 × 145cm

寄贈



15. 菊地養之助（1908-2003）

戯画 B

1962 年
紙・岩絵の具など
112 × 145cm

寄贈



16. 大下藤次郎（1870-1911）

風景

制作年不詳
紙・水彩
10.8 × 17cm

寄贈



17. 須田国太郎（1891-1961）

棚上静物

1952 年
カンヴァス・油彩
72 × 90cm

寄贈



18. 須田国太郎（1891-1961）

白浜風景習作

1955 年
カンヴァス・油彩
50 × 60.6cm

購入



19. 野地正記（1914-1997）

青の自画像

1936-43 年
カンヴァス・油彩
60.4 × 50.6cm

寄贈



20. 野地正記（1914-1997）

スダマティ（みな死んでしまった）

1948 年
紙・水彩 軸装
265 × 563.5cm

寄贈



21. 野地正記（1914-1997）

試作 4

1956 年
紙・鉛筆、パステル
54 × 38cm

寄贈



22. 野地正記（1914-1997）

天使達の砦

1962-65 年
紙・水彩、インク
37.6 × 27cm

寄贈



23. 野地正記（1914-1997）

みどり・天使

1963-65 年
紙・水彩、インク
54.5 × 38.6cm

寄贈



24. 野地正記（1914-1997）

飾り帽子の女

1963-78 年
紙・水彩
53.5 × 37.8cm

寄贈



25. 野地正記（1914-1997）

核

1964-67 年
紙・水彩
18.8 × 13.3cm

寄贈

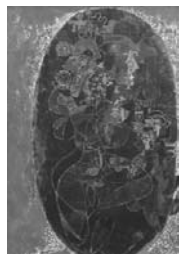


26. 野地正記（1914-1997）

母と子達

1965 年
紙・水彩
54.2 × 37.7cm

寄贈



27. 野地正記（1914-1997）

無題（かお）

1965-67 年
紙・水彩
54 × 37.9cm

寄贈



28. 野地正記（1914-1997）

みどりの中の愛たち（乳房のある）

1965-69 年
紙・水彩
54.5 × 38.6cm

寄贈



29. 野地正記（1914-1997）

女の砦

1965-77 年
紙・水彩
19.8 × 13.5cm

寄贈



30. 野地正記（1914-1997）

被爆

1965-77 年
紙・水彩
19.2 × 13.7cm

寄贈



31. 野地正記（1914-1997）

六月の青の愛達

1966-67 年
紙・水彩
37.8 × 54cm

寄贈



32. 野地正記（1914-1997）

無題（褐色）

1966-70 年
紙・水彩
54.8 × 38.8cm

寄贈



33. 野地正記（1914-1997）

葉の記憶

1967 年
紙・インク
18 × 13cm

寄贈

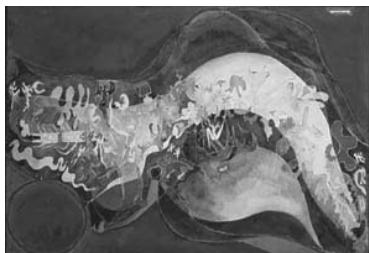


34. 野地正記（1914-1997）

愛の中の愛たち

1960 年代
紙・水彩
39 × 55cm

寄贈



35. 野地正記（1914-1997）

無題（赤）

1960 年代
紙・水彩
19.7 × 13.7cm

寄贈



36. 野地正記（1914-1997）

散歩

1960 年代 -78 年
紙・水彩
37.6 × 53.3cm

寄贈



37. 野地正記（1914-1997）

無題（街）

1970 年代
紙・パステル、水彩
59.5 × 45cm

寄贈



38. 野地正記（1914-1997）

ひと

1994-96 年
紙・クレパス
54 × 47cm

寄贈



39. 三宅克己（1874-1954）

信濃路の春

制作年不詳
紙・水彩
37.8 × 51.8cm

購入



40. 菊地養之助（1908-2003）

子供のいる群像

1940-50 年代
紙・墨など
91 × 71cm

寄贈



41. 菊地養之助（1908-2003）

悪夢

1950-60 年代
紙・墨など
71 × 90cm

寄贈



42. 菊地養之助（1908-2003）

悪夢（枯れ木）

1950-60 年代
紙・墨など
70.5 × 90.5cm

寄贈



43. 柄澤 齊（1950- ）

迷宮の潭

1980-81 年
紙・木口木版（10 点組）4/70

購入

43-1

I
15.8 × 10.8cm



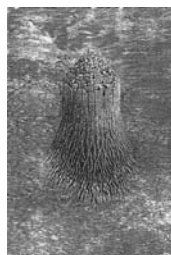
43-2

II
19.6 × 13cm



43-3

III
19.8 × 13cm



43-4

IV
17.5 × 16cm



43-5

V
19 × 11cm



43-6

VI

18.8 × 13.5cm



43-7

VII

17.4 × 18.7cm



43-8

VIII

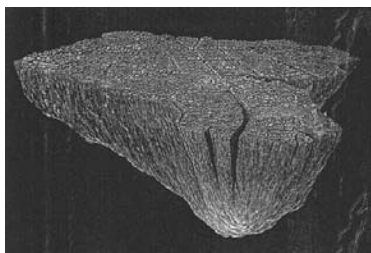
17 × 9.9cm



43-9

IX

13.4 × 19.4cm



43-10

X

10 × 15cm



44. 柄澤 齊 (1950-)

肖像画 IV アルチュール・ランボー

1982 年

紙・木口木版

19.4 × 14.6cm 23/70

購入



45. 柄澤 齊 (1950-)

肖像画 VI マルセル・ブルースト

1983 年

紙・木口木版

10.1 × 15.2cm 28/70

購入



46. 柄澤 齊 (1950-)

肖像画 VII シャルル・ボードレール

1983 年

紙・木口木版

17.7 × 16cm 60/70

購入



47. 柄澤 齊 (1950-)

肖像画 XIII エドガー・アラン・ポー

1983 年

紙・木口木版

22.3 × 6.2cm 51/70

購入



48. 柄澤 齊 (1950-)

肖像画 XVI マティアス・グリューネバルト

1983 年

紙・木口木版

9.9 × 17cm 47/70

購入



49. 柄澤 齊 (1950-)

肖像画 XXVII オディロン・ルドン

1985 年

紙・木口木版

21.5 × 15.6cm 58/70

購入



50. 柄澤 齊 (1950-)

肖像画 XXIX 亜欧堂田善

1985 年

紙・木口木版

16.3 × 11cm 12/70

購入



51. 柄澤 齊 (1950-)

肖像画 XXX ミケランジェロ・ブオナローティ

1985 年

紙・木口木版

21.8 × 15.7cm 63/70

購入



52. 柄澤 齊 (1950-)

肖像画 XXXV 泉鏡花

1985 年

紙・木口木版

9.5 × 15cm 31/70

購入



53. 柄澤 齊 (1950-)

肖像画 XXXVI ジュゼッペ・アルチンボルト

ト

1985 年



54. 田辺 至 (1886-1968)

ポートレート

1950 年

紙・エッチング

16.2 × 10.2cm

寄贈



55. 秀島由己男 (1934-)

わらべ唄

1972 年 (1974 年出版)

(6 点組) 21/60

購入

55-1

1 風景

紙・エッチング

36.6 × 30.4cm

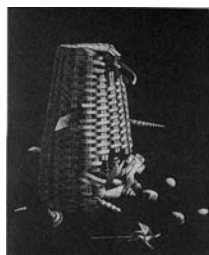


55-2

2 静物

紙・メゾチント

35.6 × 30.4cm



55-3

3 コマと太郎

紙・メゾチント

35.8 × 30.4cm



55-4

4 かたつむりと花子

紙・メゾチント

36.6 × 30.4cm



55-5

5 太郎

紙・メゾチント

36.6 × 30.4cm



55-6

6 樹

紙・エッチング

36.2 × 31cm



56. 秀島由己男 (1934-)

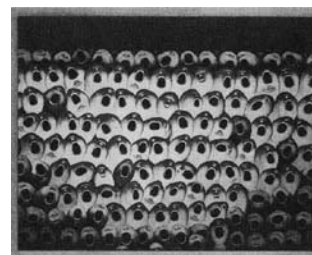
霊歌 A

1989 年

紙・エッチング、アクアチント

29.2 × 36.4cm 9/60

寄贈



57. 秀島由己男 (1934-)

鳥 (影の飛来)

1991 年
紙・フォトグラヴィール、エッチング
11.7 × 21.2cm 2/50 寄贈



58. 秀島由己男 (1934-)

鳥 (聖堂の鳥影)

1991 年
紙・エッチング
33 × 10.4cm 8/41 寄贈



59. 林 範親 (1948-)

路地裏

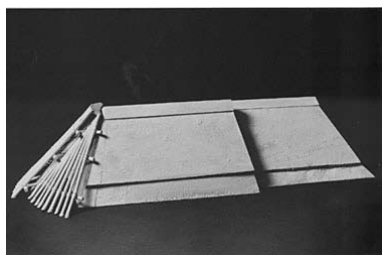
1994 年
ナラ、ヒバ、古材・アクリル絵具
高197.5 × 幅200.5 × 奥行111.5cm 寄贈



60. 保田春彦 (1930-)

季節の残像 1

2005 年
木・竹・アクリル絵具
高 24 × 幅 103 × 奥行 44cm 寄贈



61. 保田春彦 (1930-)

季節の残像 2

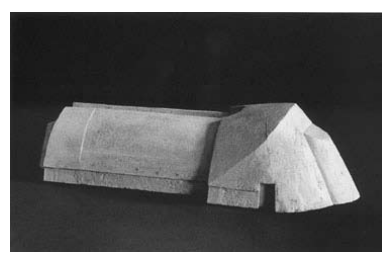
2005 年
木・アクリル絵具
高 98 × 幅 37 × 奥行 36cm 購入



62. 保田春彦 (1930-)

季節の残像 4

2006 年
木・アクリル絵具
高 20.5 × 幅 79.5 × 奥行 32cm 寄贈



63. 保田春彦 (1930-)

季節の残像 5

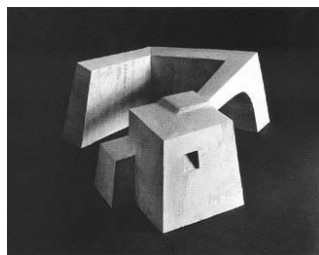
2006 年
木・アクリル絵具
高 58.5 × 幅 39 × 奥行 22.5cm 寄贈



64. 保田春彦 (1930-)

季節の残像 6

2006 年
木・アクリル絵具
高 25.5 × 幅 70.5 × 奥行 68.5cm 寄贈



65. 保田春彦 (1930-)

季節の残像 7

2006 年
木・アクリル絵具
高 56 × 幅 39.5 × 奥行 31cm 寄贈



66. 保田春彦 (1930-)

季節の残像 8

2006 年
木・アクリル絵具
高 39 × 幅 62 × 奥行 58cm 寄贈



67. 保田春彦 (1930-)

季節の残像 9

2006 年
木・竹・アクリル絵具
高 19.5 × 幅 102 × 奥行 19.5cm 寄贈



68. 川崎プッペ (1905-1978)

誕生

1966 年
石膏・金彩
高 16.5 × 幅 9 × 奥行 10cm 寄贈



69. 上野泰郎 (1926-2005)

スケッチ (22 点)

1984-2005 年
紙・油性ペン
40.2 × 29.4cm など

寄贈



70. 菊地養之助 (1908-2003)

スケッチ帳 1

制作年不詳
紙・インクなど
46.2 × 38.5cm (20 面、断簡 1 枚)

寄贈



71. 菊地養之助 (1908-2003)

スケッチ帳 2

制作年不詳
紙・鉛筆など
42.2 × 33.4cm (6 面、断簡 11 枚)

寄贈



72. 菊地養之助 (1908-2003)

母子 (習作)

1950 年頃
絹・岩絵具など
59 × 44cm

寄贈

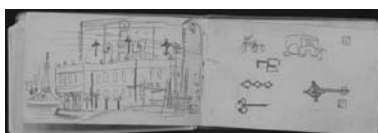


73. 木村荘八 (1893-1958)

スケッチ帳 1

制作年不詳
紙・鉛筆など
11.1 × 18.3cm (42 ページ)

寄贈



74. 木村荘八 (1893-1958)

スケッチ帳 2

制作年不詳
紙・鉛筆など
9 × 15.5cm (10 ページ)

寄贈

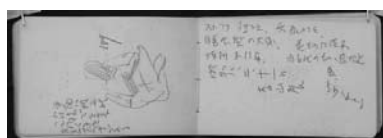


75. 木村荘八 (1893-1958)

スケッチ帳 3

制作年不詳
紙・鉛筆など
9 × 14cm (56 ページ)

寄贈



76. 木村荘八 (1893-1958)

スケッチ帳 4

制作年不詳
紙・鉛筆など
15 × 27cm (24 ページ)

寄贈



77. 木村荘八 (1893-1958)

スケッチ帳 5

制作年不詳
紙・鉛筆など
17.6 × 28cm (26 ページ)

寄贈



78. 木村荘八 (1893-1958)

スケッチ帳 6

制作年不詳
紙・鉛筆など
27 × 18.3cm (20 ページ+3 葉)

寄贈



79. 木村荘八 (1893-1958)

スケッチ帳 残欠 (大)

制作年不詳
紙・鉛筆など
10.7 × 17.9cm (12 ページ)

寄贈



80. 木村荘八 (1893-1958)

スケッチ帳 残欠 (小)

制作年不詳
紙・鉛筆など
10.2 × 14.3cm (18 ページ)

寄贈



81. 佐藤多持（1919-2004）

スケッチ帳 1

1950 年代
紙・鉛筆など
12 × 18.5cm

寄贈

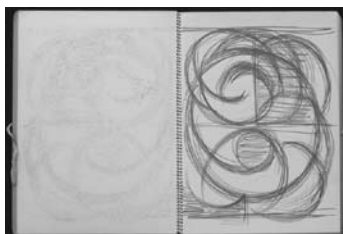


82. 佐藤多持（1919-2004）

スケッチ帳 2

1970 年代
紙・鉛筆など
33.8 × 25cm

寄贈

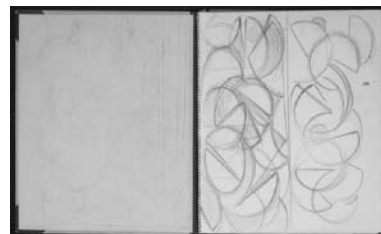


83. 佐藤多持（1919-2004）

スケッチ帳 3

1970 年代
紙・鉛筆など
45.9 × 38.5cm

寄贈



84. 野地正記（1914-1997）

関係資料一式

手記等 4 点
書簡等 10 点
展覧会資料 16 点
写真資料 107 点

寄贈



◆二次資料の収集

□図書資料（2007 年 3 月 31 日現在）

分類	和書（冊）	洋書（冊）
辞書・事典・年鑑・図書目録	1,016	92
画集・美術全集・所蔵品図録	4,240	387
展覧会図録	14,250	315
研究書・技法書	5,161	272
年報・紀要・報告書	3,937	32
美術雑誌	11,383	1,116
その他（美術教科書など）	1,180	20
小計	41,167	2,234
	総計	43,401 冊

□映像資料（2007 年 3 月 31 日現在）

分類	点数
自主制作ビデオテープ	42 本
購入・受贈ビデオテープ	66 本
購入・受贈スライドフィルム	11 セット
購入・受贈 CD-ROM / DVD	21 点
16mm 映画フィルム	4 本

保 存

◆保存環境調査の実施

□虫菌害モニタリングと環境測定の実施

時 期：2006年6月5日～21日、同年9月19日～10月8日

場 所：収蔵庫、搬入口、展示室およびその他の館内

調査者：関東港業（株）／立会・記録：堀宜雄（当館学芸員）

仕様概要：2003年度より現行の仕様で行っている。詳細は2003、4年度年報参照。

- ・展示室、収蔵庫、および荷解き室、さらに一般来館者スペースにいたる 5842.7m² について、虫菌害、塵埃、酸アルカリ度、温湿度、紫外線、風速等 9 項目にわたり調査し、展示保存環境が清浄に保たれているかを確認する。
- ・とくに虫菌害については、2002 年度を最後にガス燻蒸を行っていないため、総合的虫害管理（Integrated Pest Management）の考え方にに基づき、トラップなどをもちいて入念に行い、被害の有無を調べている。

調査項目	調査場所・機材・方法等	1 回目 6/5-21	2 回目 9/19-10/3	備 考
1. 昆虫生息調査	収蔵部門 B33/G5/P5/C5/F5 企画展示室 B28/G4/P4/C4/F0 常設展示室 B17/G4/P4/C4/F0 搬入口等 B22/G3/P3/C3/F2 研究一般部門 B15/G4/P4/C4/F0 B- バグトラップ、G- ガチョン、P- パセニウム、C- ニューセリコ、F- フライモニター	捕獲されたもの チャタテムシ…収 46/ 常 23/ 他 3 ハエ目…収 5/ 企 15/ 常 8/ 搬 149/ 他 24 ガ…収 0/ 企 4/ 常 9/ 他 12 タカラダニ…常 4 ゴミムシ…企 2/ 常 6/ 他 4 など	捕獲されたもの チャタテムシ…収 5/ 他 6 ハエ目…収 9/ 企 10/ 常 10/ 搬 156/ 他 75 ガ…収 1/ 他 14 タカラダニ…0 ゴミムシ…企 1/ 他 6 など	チャタテムシが相変わらず多い。 ハエ目は力が多く、全体の 8 割程度を占める。 文化財への具体的な加害はみられなかった。
2. 浮遊菌調査	収蔵展示部門 -13 カ所 研究一般部門 -9 カ所 館外 -4 カ所 機材：RCS エアサンプラー（ガンゼ産業）	1 立米あたり浮遊菌数 収蔵展示部門…平均 21.0 研究一般部門…平均 9.1 館外 …平均 125.3	1 立米あたり浮遊菌数 収蔵展示部門…平均 21.8 研究一般部門…平均 150.3 館外 …平均 312.5	収蔵庫、展示室とも浮遊菌は少なく、清浄環境といえる。
3. 塵埃調査	収蔵展示部門 -29 カ所 研究一般部門 -7 カ所／館外 -4 カ所 機材：カノマックスデジタルモニター 3421、Indoor Gas Monitor Model 2331（日本科学工業）	1 立米あたり粉塵量 (mg) 収蔵展示部門…0.000-0.001 研究一般部門…0.000-0.007 館外 …0.008-0.010	1 立米あたり粉塵量 (mg) 収蔵展示部門…0.000-0.002 研究一般部門…0.000-0.005 館外 …0.005-0.007	CO…後期に 4.0ppm（企） CO ² …収蔵庫で高い値 300-350ppm
4. 温湿度調査	収蔵庫 -各 1 カ所 展示室 -各 1 カ所 機材：データロガー 3631（日置電機）	収蔵庫 B …21.2 ～ 22.8℃ 収蔵庫 B …54.5 ～ 60.1% 企画 A-2…22.3 ～ 24.6℃ 企画 A-2…56.5 ～ 69.5% 常設 A …23.7 ～ 26.0℃ 常設 A …52.8 ～ 59.2%	収蔵庫 B …20.5 ～ 24.4℃ 収蔵庫 B …55.7 ～ 63.6% 企画 A-2…23.2 ～ 26.0℃ 企画 A-2…57.1 ～ 64.6% 常設 A …23.7 ～ 25.5℃ 常設 A …52.6 ～ 62.0%	設定値と実測値では隔たりがあり、計測地点の設定でも数値のばらつきが生じたものと考えられる。
5. 空調風速調査	収蔵部門 -11 カ所／展示部門 -21 カ所 研究一般部門 -5 カ所／館外 -4 カ所 機材：クリモマスター 6511（日本カノマックス）	収蔵部門…0.04 ～ 0.17 m 展示部門…0.01 ～ 0.49 研究一般…0.02 ～ 0.08 館外 …0.58 ～ 2.35	収蔵部門…0.05 ～ 0.54 m 展示部門…0.01 ～ 0.14 研究一般…0.01 ～ 0.10 館外 …0.50 ～ 1.99	収蔵庫、展示室ともほとんどの場所で 0.1m 以下に抑えられている。
6. アルカリ性物質調査	収蔵展示部門 -各 10 カ所 研究一般部門 -各 3 カ所／館外 -4 カ所 機材：環境モニター（文化財虫害研究所） 2.0未満は酸性、上回るとアルカリ性	収蔵部門…1.0 ～ 1.5 展示部門…2.0 ～ 2.5 研究一般…1.0 ～ 2.0 館外 …1.0	収蔵部門…1.0 ～ 2.0 展示部門…2.0 ～ 2.5 研究一般…2.0 ～ 2.5 館外 …1.0	収蔵庫の酸性環境の改善はなされていない。
7. 褪色調査	収蔵展示部門 -5 カ所 館指定 機材：色彩色差計（ミノルタ製）	—	企画 A-1/ 一時保管庫…0.23 常設 A,B,C…0.30, 0.35, 0.46	褪色の徴候はみられない。
8. 照度調査	収蔵部門 -11 カ所／展示部門 -21 カ所 研究一般部門 -2 カ所／館外 -4 カ所 機材：照度計 HIOKI3423（日置電機） 相対分光応答度波長域 450 ～ 700nm	収蔵部門…110 ～ 860 lx 展示部門…9.9 ～ 280 研究一般…357 ～ 1195 館外 …84,600 ～ 100,800	収蔵部門…105 ～ 294 lx 展示部門…12.8 ～ 284 研究一般…210 ～ 2,590 館外 …2,610 ～ 99,500	照度計を水平にして計測している。 壁面照度ではない。
9. 紫外線調査	測定場所は照度調査に同じ 機材：紫外線強度計 UM-1（ミノルタ製） 測定波長域 220 ～ 390nm	収蔵部門…0.000 mW/cm ² 展示部門…0.000 研究一般…0.000 ～ 0.049 館外…3.000 ～ 4.060	収蔵部門…0.000 mW/cm ² 展示部門…0.000 研究一般…0.000 ～ 0.088 館外 …0.347 ～ 4.120	収蔵、展示部門とも紫外線は計測されなかった。

考 察：

例年に比べ、タカラダニの発生が少なかった。5 ～ 6 月の一時期、外構の芝生に面したところから迷い込み、さかんに動き回る。動物性の食物を食すが、人間に直接的に加害はなく、また文化財への加害はない。しかし、つぶすと赤い色素が付着してなかなか取れないので、その被害がもっともおおきいこと、また観客に不快な印象を与えることが問題である。対応策を考えねばならない。

収蔵庫の酸性環境、チャタテムシの生息など、例年の懸案は解決されていない。

◆美術作品等の修復

当館では長期的な計画に基づき、毎年定期的な収蔵作品の修復を行い、より良好な状態を維持できるようつとめている。2006年度は、2007年11月開催予定の「斎藤清展」をにらみ、かねてから懸案であった斎藤清版画作品の修復、額装を行った。

修復・額装者の選定にあたっては、美術作品の修復・額装が高度な専門性と技術を要するため、識者の意見や他館での実績を加味して選考した者各2名ずつによる見積合わせとした。見積価格の多寡とともに、当館提出の仕様書に即して、具体的にどのような修復・額装を行うつもりであるかを意見交換して実施者を選定した。作業は当館で行い、その記録を報告書に反映した。本稿はそれによる。

- ・修復者：小林嘉樹（小林絵画保存修復工房）
- ・額装者：飯塚深（額縁工房並木）
- ・記録：堀宜雄（当館学芸員）

□修復作品と概要

現状の問題点：

1. 額が脆弱で、ねじれに弱く、作品保護となっていない。
2. 作品の固定方法は、窓マットにコーナー留め。このため作品にしわが入ったり、損傷している。マットも中性紙かどうか不明。
3. 1点ごとの額装がなされている。このため作品保管場所がかさばり、探すのに苦労している。額同士が当たって額に傷をつけている。
4. グレージングは板ガラスまたはアクリルガラス。映り込みがあり、鑑賞の妨げとなる。作品輸送の際にガラスは割れて作品を傷つける恐れがある。
5. 額が個々に画面寸に応じて制作されたため、寸法がまちまちでブックマットでの収蔵が困難である。額の深さも不足していて、現状ではいかんともしがたい。

修復仕様概要：

1. 古い額から作品をはずし、状態を写真記録する。順光線、側光線、表裏と撮影する。紙のすかしなども調べる。
2. 作品状態において問題のあるものについて特記する。マット焼けや裏面ボードの酸性物質による変化が認められるものは、古いマットのpHを測定する。
3. 作品のフラットニングを行う。ただし、水分を与えて強く行うことは、作品のもつマチエールを損なうことになるので、ドライ状態でのフラットニングとする。
4. 新調した中性紙ブックマット（特種製紙ピュアマット）5mm厚に和紙ヒンジどめを行う。糊は生麩のりとする。
5. マット装後の写真を撮影し、記録する。報告書を作成する。

額仕様概要：

1. 額タイプを4-5種類とし、オーダーメイドする。
2. 以前のこげ茶塗りのイメージを踏襲し、額幅を数mm広げ、額厚みを出して強度をもたせる。
3. 低反射ガラスまたは低反射アクリルとする。厚みは3mmとする。
4. 裏はトンボまたはビス留めとし、入れ替えが容易であること。

作業：

2006年12月から6月まで、修復家に来館してもらい、作業。堀立ち会い。（予算は2カ年分で実施）



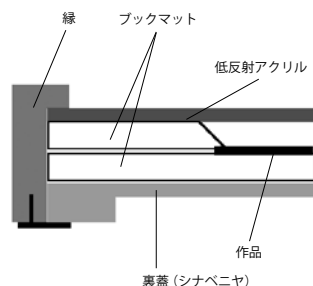
紙のすかしを調査する。



ブックマット装。
和紙ヒンジを固定しているところ。

- | | |
|-------------|----------------|
| Aタイプ（マット外寸 | 730 × 580mm） |
| Bタイプ（マット外寸 | 830 × 660mm） |
| B'タイプ（マット外寸 | 870 × 700mm） |
| Cタイプ（マット外寸 | 960 × 660mm） |
| Dタイプ（マット外寸 | 1,100 × 660mm） |

〔額断面〕



管 理

◆美術品の貸出

□ 2006 年度貸出作品一覧

貸出先	会 期	展覧会名	作家・作品名
フィラデルフィア美術館	2006.3.25-6.16	アンドリュー・ワイエス展	ワイエス「松ぼっくり男爵」
岡山県立美術館	2006.3.10-5.7	国吉康雄展	国吉康雄「婦人と子供」
神奈川県立近代美術館 葉山	2006.3.29-5.7	田淵安一展	田淵安一「コケティッシュなものたち」 田淵安一「春No.1」
シュツタガルト州立美術館	2006.5.20-9.24	クロード・モネ展	モネ「ジヴェルニーの草原」
喜多方市美術館	2006.6.17-7.17	菊地養之助展	菊地養之助「仮面の塔」 菊地養之助「鍾馗面の母子」
茨城県近代美術館	2006.7.22-9.3	近代日本の水彩画	古賀春江「赤い風景」 丸山晚霞「溪流」 渡部菊二「夏の女」 渡部菊二「勤労の娘たち」
府中市美術館	2006.8.26-10.9	浅井忠と関西美術院展	安井曾太郎「テーブルの上」
京都市美術館	2006.10.17-12.3	同上	同上
東京藝術大学大学美術館	2006.9.9-10.15	NHK 日曜美術館 30 年展	関根正二「神の祈り」
京都府京都文化博物館	2006.12.13-2007.1.21	同上	同上
茨城県近代美術館	2006.9.16-11.5	家族の情景展	酒井三良「雪に埋もれつつ正月はゆく」 麻生三郎「家族」
群馬県立館林美術館	2006.9.16-11.26	夢の中の自然	吉井忠「赤い風景」
平塚市美術館	2006.10.14-11.26	山本丘人展	山本丘人「月夜の噴煙」
神奈川県立近代美術館 葉山	2007.1.13-3.25	時代と美術の多面体	関根正二「死を思う日」(寄託作品)
南相馬市博物館	2007.1.27-3.18	描かれた相馬野馬追	門馬小二郎「騎馬図」
福島民報社(会場:ホテル辰巳屋)	2007.1.31	大山忠作画伯文化勲章受章記念祝賀会	大山忠作「O 先生」
郡山市立美術館	2007.2.10-3.25	佐藤静司彫刻展	佐藤静司「ひとり」 佐藤静司「孤影」
式年遷宮神宮美術館	2007.2.21-3.25	月-歌会始御題によせて-展	福王寺法林「バドガオンの月」

運営・組織

◆観覧者数一覧（2007年3月31日現在）

展 覧 会 名		開 期 催 間	有 料												無 料		観覧者 総 計
			個 人				団 体				年間観覧券				有料 合計	無料・ 招待等	
			一般・ 大学生	高校生	小・ 中学生	小計	一般・ 大学生	高校生	小・ 中学生	小 計	一般・ 大学生	高校生	小・ 中学生	小 計			
常 設 展	第1期～第4期	4.8～3.31 (294日間)	5,961			5,961	451			451				6,412	4,202	10,614	
	夜間開館 ※内数	5.30～7.17 (7日間)												5	18	23	
	特集展示「渡部菊二展」※内数	1.11～2.4 (22日間)												994	221	1,212	
	移動美術館 (いわき市草野心平記念文学館)	10.7～11.5 (26日間)														1,941	
	企画観覧券で常設展を観覧	通 年													13,347	13,347	
	免除者(50/100) 県又は市町村主催	通 年					87			87				87		87	
	無料入館	5.5(こどもの日)													292	292	
	〃	8.21(県民の日)													105	105	
	〃	9.20(敬老の日)													145	145	
	〃	11.3(文化の日)													143	143	
	小中高無料入館(小学生)	通 年													2,367	2,367	
	小中高無料入館(中学生)	通 年													459	459	
	小中高無料入館(高校生)	通 年													1,164	1,164	
	小中高無料入館(準じる者)	通 年													42	42	
小 計			5,961			5,961	538			538				6,499	22,266	28,765	
企 画 展	1 須田国太郎展	4.8～5.14 (33日間)	4,057	55	122	4,234	82			82	315	2	4	321	4,637	1,732	6,269
	2 カミュー・クローデル展	5.30～7.17 (43日間)	4,823	60	150	5,033	883	56	124	1,063	323	1	3	327	6,423	2,166	8,589
	3 ドキュメント福島展 ※1	7.29～8.27 (27日間)													4,734	4,734	
	4 ハギレの日本文化誌展	9.9～10.15 (32日間)	5,959	25	89	6,073	475		32	507	220		3	223	6,803	1,882	8,685
	5 風景読本展	10.28～12.10 (37日間)	2,264	8	62	2,334	313	337	310	960	206		3	209	3,503	1,762	5,265
	6 山形美術館名品展	2.17～3.25 (31日間)	10,088	183	506	10,777	468	278	141	887	334	1	5	340	12,004	3,010	15,014
	小 計			27,191	331	929	28,451	2,221	671	607	3,499	1,398	4	18	1,420	33,370	15,286
合 計			33,152	331	929	34,412	2,759	671	607	4,037	1,398	4	18	1,420	39,869	37,552	77,421

※1 「ドキュメント福島展」は無料のため、すべての人数を《無料・招待等》に含めている。

◆ 2006 年度決算内訳

歳入

科目（款・項・目・節）	予算額（千円）
使用料及び手数料	26,371
└ 使用料	26,371
└ 行政財産使用料	1,079
└ 土地使用料	46
└ 建物使用料	1,033
└ 教育使用料	25,293
└ 美術館使用料	25,293
財産収入	7,181
└ 財産売払収入	7,181
└ 物品売払収入	7,181
諸収入	1,787
└ 雑入	1,787
計	35,338

科目（款・項・目・節）	最終予算額（円）
総務費	8,786,171
└ 企画費	8,786,171
└ 地域振興費	8,786,171
└ 報償費	180,000
└ 旅費	472,500
└ 需用費	1,820,214
└ 食糧費	8,600
└ 役務費	1,696,457
└ 委託料	1,617,000
└ 使用料及び賃借料	3,000,000

歳出

科目（款・項・目・節）	最終予算額（千円）
教育費	253,598
└ 教育総務費	9,887
└ 事務局費	9,835
└ 報酬	7,344
└ 職員手当（児童手当）	170
└ 共済費	553
└ 賃金	1,768
└ 財務管理費	52
└ 交際費	48
└ 使用料及び賃借料	5
└ 社会教育費	243,712
└ 美術館費	243,712
└ 報酬	73
└ 報償費	2,488
└ 旅費	5,607
└ 需用費	86,693
└ 食糧費	244
└ 役務費	27,427
└ 委託料	104,298
└ 使用料及び賃借料	15,526
└ 備品購入費	1,516
└ 負担金・補助及び交付金	87
└ 公課費	0
労働費	2,149
└ 雇用対策費	2,149
└ 緊急対策費	2,149
└ 共済費	220
└ 賃金	1,929
└ 委託料	—
計	264,532

科目（款・項・目・節）	最終予算額（円）
総務費	8,786,171
└ 企画費	8,786,171
└ 地域振興費	8,786,171
└ 報償費	180,000
└ 旅費	472,500
└ 需用費	1,820,214
└ 食糧費	8,600
└ 役務費	1,696,457
└ 委託料	1,617,000
└ 使用料及び賃借料	3,000,000

◆関係法規

A 福島県立美術館条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の美術に対する知識及び教養の向上を図るため、福島県立美術館(以下「美術館」という。)を設置する。

(位置)

第2条 美術館は、福島市森合字西養山1番地に置く。

(業務)

第3条 美術館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 美術館及び美術に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 美術に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 美術に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。
- 4 前3号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 美術館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 美術館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙および飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項。

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するものに対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者。
- 2 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、または汚損するおそれのある者。
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者。

(職員)

第9条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所用の職員を置く。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

附則 (平成11年12月24日条例第92号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附則 (平成15年3月24日条例第52号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

区 分	普通観覧料の額 (一人あたり)		特別観覧料の額	年間観覧料の額 (同一人が有効期間内に利用する場合)
	個 人	団 体		
一般(大学生を含む)	260円	210円	その都度知事が定める額	3,600円の範囲内で知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	—	—	その都度知事が定める額	2,160円の範囲内で知事が定める額
中学生及び小学生	—	—	その都度知事が定める額	1,440円の範囲内で知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは特別の企画による展示品を観覧する場合(常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。)の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、二十人以上の団体をいう。

B 福島県立美術館運営協議会条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立美術館(以下「美術館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員会の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

C 福島県立美術館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

福島県立美術館条例(昭和59年福島県条例第33号)第5条、第6条ただし書及び別表の規定による知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附則 この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

D 福島県立美術館条例施行規則

(休館日)

第1条 福島県立美術館（以下「美術館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 1月1日から同月4日まで。

四 12月28日から同月31日まで。

2 美術館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 美術館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があるとみとめるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立美術館条例（昭和59年福島県条例第33号。以下「条例」という。）第4条の規定により観覧料を納入した者（年間観覧料を納入した者（以下「年間観覧者」という。）を除く。）に対し、観覧券（第1号様式）を公布するものとする。

(年間観覧者に係る入館手続)

第3条の2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券（第1号様式の2）を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券を交付した日から最初に到来する3月31日までとする。

2 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。

3 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
一 大学生、（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
二 県又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の百分の五十に相当する額（引率者にあつては全額）
三 国民の祝日に関する法律第二条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
四 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき	条例別表に定める普通観覧料の額の全額

五 その他免除することが公益上
適当と認めるとき。

教育長が別に定める金額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の前の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書（第2号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（第3号様式）を交付するものとする。（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

一 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。（観覧しようとする者が年間観覧者であるときを除く。）全額

二 その他やむを得ない理由があると認めるとき。 教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（第4号様式）に観覧料を添えて、館長に提出しなければならない。

(美術品等の特別利用)

第6条 美術館が所蔵し、又は寄託を受けている美術品等を学術上の研究その他のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

(教育長への委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附則 この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

附則（平成14年3月26日 教育委員会規則第13号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附則（平成15年3月24日 教育委員会規則第2号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

第1号様式（第3条関係）

観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立美術館	観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立美術館
------------------------------------	------------------------------------

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

第1号様式の2（第3条の2関係）

年間観覧券	(交付番号) (有効期間) ご利用に際して 1 福島県立美術館が主催する展覧会のみ有効です。 2 下記に署名されたご本人以外の方は使用できません。 3 後購入後の紛失などによる再発行はいたしません。 (氏 名) (学校名) (学年) 福島県立美術館
-------	--

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

E 福島県立美術館における美術品等の貸出し及び写真撮影に関する取扱要領

1 趣旨

(1) この要領は、財産の交換・譲与・無償貸付等に関する条例（昭和 39 年福島県条例第 22 号）第 7 条、福島県財務規則（昭和 39 年福島県条例第 17 号。以下「財務規則」という。）第 156 条、福島県立美術館条例（昭和 59 年福島県条例第 33 号）第 7 条及び福島県立美術館条例施行規則（昭和 59 年福島県教育委員会規則第 12 号）第 7 条の規定により、福島県立美術館（以下「館」という。）が所蔵し、又は寄託を受けている美術品及び美術資料（以下「美術品等」という。）の貸出し及び写真撮影等（以下「撮影」という。）の取り扱いに関する基準及び手続きを定めるものとする。

(2) 美術品等が福島県美術品等取得基金（以下「基金」という。）所有のものであるときは、昭和 59 年 12 月 28 日付 59 教財第 513 号、福島県教育庁財務課長通知により、美術品等の貸出しの手続きは館長の依頼により基金管理者が行うものとするが、美術品等の貸出しの基準及び撮影については、この要領を準用するものとする。

2 美術品の貸出し

(1) 貸出しの基準

ア 美術品等の貸出しは、国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、その他館長が特に必要と認めたものに対して行うものとする。

イ 美術品等の貸出期間は、1 年を超えてはならない。

ウ 美術品等の利用目的及び管理上の理由から貸出しをすることが適当でないと認めるときは、貸出しを行わないものとする。

(2) 貸出しの手続き

ア 学芸課は、美術品等の貸出しをする場合には、貸出しを受けようとする者（以下「借受者」という。）から物品借受申請書（財務規則第 102 号様式。以下「申請書」という。）を提出させるものとする。ただし、借受者の利用目的が展覧会の展示である場合には、次の書類を提出させなければならない。

(ア) 展覧会の趣旨及び企画内容を明記した書類

(イ) 美術品等が寄託を受けているものである場合には、寄託者の貸出しを承認する旨の書類

(ウ) その他必要と認める書類

イ 学芸課は、借受者から申請書の提出を受けたときは、美術品等の利用目的、利用期間及び利用場所等について十分に検討を加え、貸出しの適否を審査するものとする。

ウ 学芸課は、この要領 2 の (2) のイの審査の結果、美術品等の貸出しをすることが適当と認めたときは、物品貸付調書（財務規則第 10 号様式）により当該貸出しについて館長の決裁を受けるとともに、総務課に関係書類を送付するものとする。

エ 総務課は、この要領 2 の (2) のウの書類の送付を受けたときは、速やかに福島県教育庁生涯学習領域（以下「生涯学習領域」という。）に対し美術品等の貸出しについて必要な措置の請求（別紙様式第 1 号）をしなければならない。

オ この要領 2 の (2) のアからエまでの規定は、美術品等が基金所有のものである場合に準用する。

(3) 貸出しの決定

ア 総務課は、生涯学習領域から美術品等の貸出しについて必要な措置が完了した旨の通知を受けたときは速やかに学芸課に対して、その旨連絡するとともに関係書類を送付するものとする。

イ 学芸課は、この要領 2 の (3) のアの通知を受けたと

きは借受者に対して、貸出し承認の通知（別紙様式第 2 号）をするものとする。

ウ 美術品等が基金所有のものであるときは、当該美術品等の貸出しの決定及び借受者に対する貸出し承認の通知は、基金管理者が行うものとする。

エ 美術品等の貸出しは、無料とする。

(4) 貸出しの条件

美術品等の貸出しをする場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等は利用目的以外の用途に利用しないこと。

イ 美術品等の利用権を第 3 者に譲渡しないこと。

ウ 美術品等は常に善良な管理者の注意をもって管理保管すること。

エ 美術品等の棄損・亡失等が生じた場合は、速やかにその旨を館に報告し、その指示により損害を賠償し、又はこれを原状に回復すること。

オ 美術品等の輸送、その他貸出しに要する経費は、借受者が負担すること。

カ 図録作成等のため美術品等の写真撮影をする場合は、この要領 3 により別途手続を行うこと。

キ 美術品等の搬出または搬入に対して借受者は責任者を立会させること。

ク その他必要と認めること。

(5) 美術品等の引渡し

ア 館長（物品管理者）は、美術品等の貸出しを実行するときは、当該美術品等の現状を確認し、総務課長（物品取扱員）に対し、貸付物品払出通知書（財務規則第 102 号様式）により、その引渡しを指示するものとする。

イ 総務課長（物品取扱員）は、館長（物品管理者）から貸出し美術品等の引渡しの指示を受けたときは、借受者に対して当該美術品等の受領を証する書面と引換えに、これを引渡すものとする。

ウ 総務課長（物品取扱員）は、美術品等を引渡したときには物品貸付台帳（財務規則第 140 号様式）に所定の事項を記載し整理するものとする

エ 美術品等の引渡し場所は原則として館とする。

(6) 美術品等の貸付引受け

この要領 2 の (5) のアからエまでの規定は、貸出しを行った美術品等が返納された場合の受入れの手続きについて準用する。この場合「美術品等の貸出しを実行」とあるのは「貸出しを行った美術品等を引受け」と、「貸付物品払出通知書」とあるのは「貸付物品受入通知書」と、「引渡し」とあるのは「引受け」とそれぞれ読み替えるものとする。

3 美術品等の撮影

(1) 撮影承認の基準

ア 美術品等の撮影は国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、出版社、その他館長が特に必要と認めたものに対して承認するものとする。

イ 撮影により損傷を生ずるおそれがある美術品等は撮影を認めないものとする。

ウ 撮影の時期が美術品等の管理上、適当でないと認められる場合は、その時期を変更し、若しくは撮影を認めないものとする。

(2) 撮影承認の手続

ア 学芸課は、美術品等の撮影の承認をする場合には、撮影を希望する者（以下「撮影者」という。）から美術品等撮影承認願（別紙様式第 3 号。以下「承認願」という。）を提出させるものとする。

イ 美術品等が寄託を受けているものである場合には、寄

託者の撮影を承認する旨の書類を承認願に添付させるものとする。

ウ 学芸課は、撮影者から承認願の提出を受けたときは、撮影の目的、場所、時期、対象美術品等について充分に検討を加え、承認の適否を審査するものとする。

エ 学芸課は、この要領3の(2)のウの審査の結果、美術品等の撮影を承認することが適当と認めたときは、当該撮影の承認について館長の決裁を受けるものとする。

オ 美術品等の撮影料は無料とする。

(3) 撮影承認の通知

学芸課は、この要領3の(2)のエにより撮影承認の決定をしたときは、撮影者に対して撮影承認の通知(別紙様式第4号)をするものとする。

(4) 撮影の条件

美術品等の撮影を承認する場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等の撮影は館の職員の指示に基づいて行うこと。

イ 撮影により美術品等を損傷させないこと。

ウ 撮影した写真等は、撮影承認を受けた目的以外に使用しないこと。

エ 撮影の目的が著作権法の適用を受けることとなるときは、必要に応じ、あらかじめ著作権者の了承を得ること。

オ 撮影承認を受けた美術品等の写真を出版物に掲載したときは、当該出版物を館に提出すること。

カ その他必要と認めること。

(5) 補則

ア 撮影の場所は、原則として館とする。

イ 撮影が美術品等の管理上適当でないと認めるときは、館が所有する原版の使用を認めるものとする。

ウ 過去に撮影した写真等の撮影承認の目的外使用については、この要領の適用を受けるものとする。

エ 館所有の原版を複製して使用する場合は、当該複製版をすべて提出することとする。

オ 館所有の原版を使用する際、誤って損傷、亡失させたときは、再撮影に係わる実費を当該申請者に請求することができるものとする。

4 適用

この要領は昭和60年2月9日から適用する。

(平成9年9月福美第65号により一部改正)

F 福島県立美術館美術作品等寄託要領

(趣旨)

1 この要領は、福島県立美術館(以下「館」という。)における美術作品および美術資料(以下「美術品等」という。)の寄託に関し、必要な事項を定めるものとする。

(寄託の申し出)

2 福島県立美術館長(以下「館長」という。)は、美術品等の所有者に依頼して寄託を受けようとする場合には、寄託同意書(別記様式第1号)によって所有者の同意を得なければならない。

(2) 館長の依頼によらないで美術品等の寄託をしようとする者は、寄託申請書(別記様式第2号)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

(受託)

3 館長は、所有者の合意、もしくは所有者からの申込みのあった美術品等の寄託が館の事業のため必要があると認めたときは、これを無償で受託することができる。

(受け入れおよび返還)

4 館長は、所有者から帰宅された美術品等を受領したときは、所有者に対して受託証書(別記様式第3号)を交付するものとする。

(2) 所有者は寄託した美術品等(以下「寄託品」という。)の返還を受けようとするとき、返還を受けようとする日の一ヶ月以上前に返還申請書(別記様式第4号)を館長に提出しなければならない。

(3) 館長は、この要領4の(2)により、所有者に対して寄託品の返還をしようとするときは、受託証書と引き換えに、これを所有者に返還するものとする。

(4) 寄託品の返還を受けようとする者が所有者の代理人であるときは、委任状その他これを証する書面を館長に提出しなければならない。

(寄託期限)

5 美術品等の寄託期間(以下「寄託期間」という。)は2年とする。ただし、特別な理由があるとき、館長はこの期間を短縮することができる。

(寄託期間の更新)

6 館長は所有者の得て寄託期間を更新することができる。

(2) 寄託期間の経過後、所有者から寄託品の返還の請求がない場合は、寄託期間を更新したものと

(3) 館長は、この要領6の(1)および(2)により寄託期間を更新したときは、所有者に対し更新した受託証書を交付するものとする。

(所有者の変更等)

7 売買、相続等により寄託品の所有者に変更があったとき、または所有者の氏名、名称もしくは住所等に変更があったときは、所有者(所有者が変更した場合は変更後の所有者)は、所有権の移転その他氏名、名称等を証する書類を受託証書に添えて館長に提出し、受託証書の書き換えを受けなければならない。

(受託証書の再交付)

8 所有者は、受託証書を亡失し、または著しく破損したときは、これらの事実を証するにたる書類(破損の場合は、その受託証書)を添えて、速やかに館長に受託証書の再交付を申請しなければならない。

(寄託品輸送経費等の負担)

9 所有者は寄託品の搬入または返還に要する経費等を負担するものとする。ただし、館長が特にその必要がないと認めた場合は、この限りでない。

(寄託品の展示等)

10 館は、寄託品について、展示、研究および撮影等を行い、その結果を公刊することができる。

(2) 館職員以外の者がこの要領10の(1)の行為をしようとするときは、「福島県立美術館における美術品等の貸出しおよび写真撮影等に関する取扱要領」に定めるところにより、所定の手続きを経なければならない。

(寄託品の保存)

11 館長は、寄託品の保存管理およびその取扱いについては、館に所蔵する美術品に準じて行う。

(2) 館は、寄託品を亡失し、または損傷した場合は、その補償をするものとする。ただし、天災、その他不可抗力による場合は、この限りでない。

(その他)

12 この要領に定めるもののほか、美術品等の寄託に関し必要な事項は、館長が定める。

この要領は、昭和60年4月1日より施行する。

◆施設・整備

建築の概要

設計 大高建築設計事務所
 施工 鹿島建設株式会社仙台支店（建築・外観）
 敷地面積 60,500m²
 建築面積 6,471.5m²
 延床面積 9,680.7m²
 建物構造 鉄筋コンクリート造（一部S造・2階建）
 総工費 約49億円（本体、外構含む）

設備の概要

電気設備

- 1- 受変電設備：受電力 1,100W
- 2- 動力設備
- 3- 電灯・コンセント・照明（調光設備：各展示室、調光装置：講堂・講義室各1台）
- 4- 自家発電機設備
- 5- 避雷針
- 6- 電気時計
- 7- 火災報知設備
- 8- 防火扉・防煙設備
- 9- 拡声設備
- 10- インターホン設備
- 11- ITV 設備
- 12- 防犯設備
- 13- ビデオ設備
- 14- 蓄電池設備
- 15- 電話設備

空気調和設備

- 1- 熱源設備：
 展示室・収蔵庫系統＝空気熱源スクルーヒートポンプ、120RT＋熱回収ヒートポンプ30RT 組合せ制御方式、冷水槽 300m³、温水槽 250m³
 一般系統・図書館系統＝灯油だき冷温水発生器 150RT 2台
- 2- 空調設備：単一ダクト方式
 展示室4系統、収蔵庫3系統、ケース内4系統、一般系統7系統（一部フロアコイル併用）
- 3- 換気設備：50系統
- 4- 排煙設備：機械排煙6系統
- 5- 床暖房：2系統
- 6- 自動制御設備：中央監視盤、温湿度監視盤

給排水衛生設備

- 1- 熱源：都市ガス（厨房・実習室・工作修復室）／他は全て電器煮沸器を使用
- 2- 消化系：ハロン消火設備（収蔵庫3系統：共用機械室）／消火栓設備（消火ポンプ1台、屋内消火栓14台、動力ポンプ1台）
- 3- 燻蒸設備：ガスによる殺虫滅菌剤で燻蒸後吸着装置通過、規定濃度以下にして大気放出
- 4- 給水：受水槽 45t（加圧給水）／直結給水
- 5- 排水：屋内は汚水・雑排水の分流式（外部で合流後、市下水道公共マスに接続）

昇降機設備

- 1- 乗用エレベーター：油圧式、750kg 11名乗り 1台
- 2- 荷物用エレベーター：油圧式、最大積載量 3t 1台
- 3- 乗用エレベーター：油圧式、600kg 9名乗り 1台

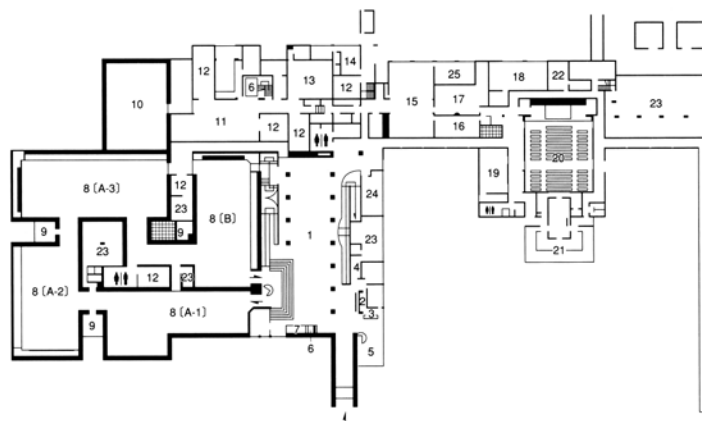
内部仕上の概要

- 1- エントランスホール
 床：御影石バーナー仕上げ（一部長尺塩ビシート張）
 壁：栓練付石綿ケイカル板
 天井：栓練付石綿ケイカル板
 その他：一部床暖房設備
- 2- 収蔵庫
 床：パーケットブロック、ぶな素地
 壁：米杉、矢羽根板張
 天井：米杉、本実目透張
 その他：収納棚、絵画収納ラック
- 3- 企画展示室
 床：長尺塩ビシート張
 壁：合板捨張の上に準不燃合板、特注クロス張
 天井：栓練付パネル
 その他：大型可動壁（幅 8,770mm × 高 3,770mm、11枚）
 固定ケース前可動壁：（幅 1,600mm × 高 4,050mm、延長約 72m）
 固定ケース：（A-2、A-3、B：総延長 72.3m）
- 4- 常設展示室
 床：タフテッドループカーペット
 壁：常設 A- 栓練付ケイカル板
 常設 B- 大理石空積、水磨き仕上げ
 常設 C・D- くるみ練付ケイカル板
 天井：常設 A- 栓練付パネル
 常設 B・C・D- くるみ練付パネル
 その他：固定ケース（常設 A、16.2m）
- 5- 講堂
 床：タイルループカーペット
 壁：くるみ練付石綿ケイカル板
 天井：ビニールクロス張
 その他：座席数：246（うち車椅子席 4）／ステージ：幅 12m × 奥行 3.2m
- 6- 講義室
 床：タイルカーペット
 壁：くるみ練付石綿ケイカル板
 天井：岩綿吸音板
- 7- 実習室
 床：エポキシ系塗床
 壁：モルタル金ゴテ VP
 天井：岩綿吸音板
- 8- 軽食喫茶室
 床：長尺塩ビシート張
 壁：くるみ練付パネル、粒状岩綿吸音材（一部）
 その他：テーブル 44 席
- 9- その他
 搬出入口：ホイストクレーン 2.8t／テーブルリフター
 写真室：電動スクリーン

◆施設配置図

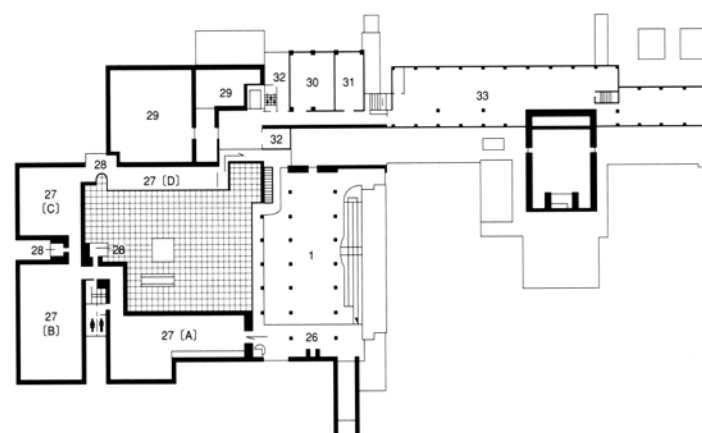
1階

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. エントランスホール | 14. 写真室 |
| 2. 受付案内 | 15. 警備室 |
| 3. ブックショップ | 16. 事務室 |
| 4. ロッカー室 | 17. 応接室 |
| 5. 図書コーナー | 18. 研究図書室 |
| 6. エレベーター | 19. 実習室 |
| 7. ビデオコーナー | 20. 講義室 |
| 8. 企画展示室 | 21. 講堂 |
| 9. 休憩室 | 22. 軽食喫茶室 |
| 10. 授乳室・救護室 | 23. 中央監視室 |
| 11. 収蔵庫 A | 24. 機械室 |
| 12. 荷解梱包室 | 25. 館長室 |
| 13. 倉庫 | 26. 副館長室 |



2階

- | |
|-------------|
| 27. ロビー |
| 28. 常設展示室 |
| 29. 休憩室 |
| 30. 収蔵庫 B・C |
| 31. 工作修復室 |
| 32. 会議室 |
| 33. 倉庫 |
| 34. 機械室 |



◆部門別専有面積（*は県立図書館と共用）

サービス部門	1223.8m ²
エントランスホール	817.3m ²
受付案内	(ホールに含む)
ブックショップ	(ホールに含む)
ロッカー室	(ホールに含む)
図書コーナー	(ホールに含む)
ロビー	202.1m ²
*軽食喫茶室	179.0m ²
授乳室・救護室	25.4m ²
展示部門	3064.4m ²
企画展示室 A (A-1,2,3)	1380.8m ²
企画展示室 B	431.1m ²
	(企画展示室合計 1811.9m ²)
常設展示室 A	403.1m ²
常設展示室 B	359.1m ²
常設展示室 C	143.8m ²
常設展示室 D	132.8m ²
	(常設展示室合計 1038.8m ²)
展示用具室	141.2m ²
展示用具室 2	72.5m ²
収蔵部門	1365.3m ²
収蔵庫 A	280.2m ²
収蔵庫 B	368.7m ²
収蔵庫 C	105.1m ²
一時保管庫	51.8m ²
収蔵庫前室	57.6m ²
搬出入口	65.7m ²
荷解梱包室	188.8m ²
梱包倉庫	77.7m ²

荷扱人控室	29.6m ²
燻蒸室	33.3m ²
工作修復室	106.8m ²
普及部門	654.6m ²
*講堂	498.6m ²
講義室	73.9m ²
実習室 (準備室含む)	82.1m ²
研究部門	187.2m ²
研究図書室	88.7m ²
写真室	98.5m ²
管理部門	1832.7m ²
応接室	48.0m ²
副館長室	34.0m ²
事務室 (総務課・学芸課)	174.0m ²
会議室	73.3m ²
館長室	43.2m ²
事務機械室	16.0m ²
警備室	54.7m ²
更衣室	8.7m ²
受付控室	15.4m ²
給湯室	4.4m ²
倉庫	33.0m ²
*機械室	1266.4m ²
車庫	61.6m ²
その他 (化粧室・廊下・階段等)	1330.8m ²

◆福島県立美術館友の会 活動報告

美術を愛好する人達が集い、会員相互の親睦を深めるとともに、美術館活動に協力することを目的とした福島県立美術館友の会が2003年4月に発足した。4年目を迎えた今年も、会員による様々な自主活動が展開された。

○「須田国太郎展」オープニングセレモニー、コレクターズトーク参加。

企画展開催に際して、オープニングセレモニーの後、友の会会長・丹治孝子氏による展示作品解説が行われた。展示室内でのトークに多くの友の会会員も参加した。

日時：4月8日(土) 13:00～

場所：福島県立美術館エントランスホール及び企画展示室

○第4回福島県立美術館友の会総会

日時：5月21日(日) 13:00～

場所：美術館講堂

総会 議事：2005年度事業及び事務報告

2005年度収支決算報告／2005年度監査報告

2006年度事業計画(案)

2006年度収支予算(案)

その他

○友の会美術教養講座「ルーブルとパリの美術館を楽しむ」

昨年度からの継続企画である。多くの美術ファンに人気の高いルーブル美術館を始めとするパリの美術館に焦点をあてた美術教養講座を開催した。友の会会員と学芸員・外来講師の交流も兼ね、パリや美術にちなんだ内容で肩の凝らない楽しい講座となった。

毎回50名以上の参加者があり、人気の高い講座であった。

第4回 2006年5月21日(日) 14:00～16:00

「印象派とオルセー美術館」(荒木康子・当館学芸員)

「映画と美術」(阿部泰宏氏・福島フォーラム総支配人)

第5回 2006年7月2日(日) 14:00～16:00

「パリ彫刻散歩」(吉村有子・当館学芸員)

「暮らすようにパリを旅する」(田村奈保子氏・福島大学教授)

第6回 2006年9月10日(日) 10:00～13:00

昨年度からの連続講座の最終回。講義の後、講師2名を含む22名で昼食懇談会も開催した。

「現代アートの見方～ポンピドー国立近代美術館など」(宮武弘・当館学芸員)

「パリの美術館巡りのコツ～楽しく安全な海外旅行術」(黒澤文雄氏・福島県観光連盟事務局長)

場所：福島県立美術館講義室など

○福島県立美術館友の会「会報」第5号発行

第5号の友の会会報誌発行。

日時：2006年8月

内容：活動報告と予定／美術館を知ろう！常設展編／旅のエッセイ／私の薦める美術映画／

総会報告、表紙について・他

○「ハギレの日本文化誌展」特別ギャラリートークと茶話会

企画展示室で、展覧会企画学芸員による友の会会員のためのギャラリートークを開催。その後、講義室にて茶話会を開催し、会員同士の交流を深めた。約20名参加。

日時：9月30日(土) 14:00～16:00

場所：会議室、企画展示室、講義室

講師：当館学芸員 佐治ゆかり

○2006 年度研修旅行

2006 年度の研修旅行としてバスで宇都宮美術館とニキ美術館などを訪れた。宇都宮美術館では「山種美術館コレクション展～美しき日本の情景」など、ニキ美術館では「ニキ・ド・サンファル展」を見学。見応えのある充実した内容であった。会員 54 名参加。

日時：10 月 15 日（日）

場所：宇都宮美術館、ニキ美術館 他

○「風景読本～絵の旅・東北展」特別ギャラリートークと茶話会

企画展示室で、展覧会企画学芸員による友の会会員のためのギャラリートークを開催。その後、講義室にて茶話会を開催し、会員同士の交流を深めた。13 名参加。

日時：11 月 19 日（土） 14:00～16:00

場所：会議室、企画展示室、講義室

講師：当館学芸課長 伊藤匡

○第 1 回友の会会員のための実技講座「フレスコ画を描く」

友の会のための初めての実技講座。会員 8 名が、フレスコ画に挑戦。

日時：12 月 9 日（土）13:30～16:30

12 月 10 日（日）10:00～16:30

講師：当館学芸員 久慈伸一、橋本淳也

場所：美術館実習室

○友の会映画鑑賞会

フランス映画「セザンヌ」を上映、鑑賞。会員 25 名が参加。

日時：2007 年 1 月 28 日（日）13:30～

講師・解説：阿部泰宏氏（フォーラム総支配人）

場所：美術館講堂

○福島県立美術館友の会「会報」第 6 号発行。

第 6 号の友の会会報誌発行。

日時：2007 年 2 月

内容：活動報告と予定／私の好きな一点／企画展予定、表紙について

○企画展「名画の散歩道～山形美術館名品展」ギャラリートークと茶話会

企画展示室で、展覧会企画学芸員による友の会会員のためのギャラリートークを開催。その後、講義室にて茶話会を開催し、会員同士の交流を深めた。15 名参加。

日時：2 月 25 日（土） 13:30～

場所：企画展示室、講義室

講師：当館学芸員 堀宜雄

○ミュージアム・コンサート

「山形美術館名品展関連事業 ベルク木管五重奏団」

開催された山形県美術館名品展にちなみ、コンサートを開催。100 名以上が参加。その後、演奏者を囲んで友の会主催のティーパーティーを開催した。

日時：2007 年 3 月 18 日（日） 14:00～17:00

内容：第 1 部 コンサート

演奏：山形交響楽団ユニット

演目：モーツァルト「ディベルティメント No.8」他

場所：エントランスホール

第 2 部 ティーパーティー

コンサートの奏者、友の会会員、美術館員間の親睦会。

場所：カフェ・ド・ミュゼ ムスターシュ

◆福島県立美術館協力会 活動報告

社会の変化とともに美術館の役割や美術館に対する県民の意識もまた変化しており、単に鑑賞するだけの施設でなく、県民がより豊かな生活を送るための学習の場、いわゆる生涯学習時代の文化拠点、憩いの場としての役割が美術館には求められるようになってきている。

こうした趨勢を踏まえて、多くの県民が広く美術に親しみ、美術を楽しむことができる機会を提供することにより、本県美術文化の振興と心豊かな県民の育成に寄与することを目的に「福島県立美術館協力会」が設立され、2004年6月7日付けで特定非営利活動法人（NPO 法人）として認証を受けた。

2007年3月31日現在の会員数は34名（団体16件、個人18名）である。

○協力会の主な活動

- ・美術についての教養を高め、美術を楽しむための活動（美術に関する講演会、講座、研修旅行、コンサート等）
- ・実制作の体験を通して、表現の喜びを味わい、美術に親しむための活動（実技講座、ワークショップ等）
- ・展覧会に関する各種資料、ミュージアム・グッズの作成頒布活動

○特典

- ・会員証の交付
- ・企画展、常設展の優待
- ・展覧会図録の配布
- ・美術館ニュース等の送付
- ・企画展内覧会への招待
- ・協力会各種事業への招待 など

○2006年度の事業活動

2006年 5月26日	理事会開催
2006年 5月30日	総会開催
2006年 10月22日	ベン・シャーン講演会（アーサー・ビナード氏）の開催
2006年 12月27日	ミュージアム・グッズの製作
2007年 3月18日	ミュージアム・コンサート（ベルク木管五重奏団）

◆委員会等・組織図

□美術館運営協議会

1. 委員名簿

氏名	所属	任期
久保恵美子	福島県中学校教育研究会美術部専門部安達支部長	2003.1.1-
松本良子	福島県立高校教育研究会美術工芸部会県北支部長	2007.1.1-
高城俊春	財団法人福島県文化振興事業団理事長	2005.1.1-
粟津則雄	いわき市立草野心平記念文学館館長	2003.1.1-
酒井昌之	福島県美術家連盟理事	2007.1.1-
板野裕爾	日本放送協会福島放送局長	2007.1.1-
遠藤由美子	奥会津書房編集長	2007.1.1-
雪山行二	横浜美術館長	2003.1.1-
辻みどり	福島大学行政政策学類教授	2005.1.1-
阿部泰宏	公募による委嘱	2005.1.1-

2. 協議会の開催

日時：2007年2月22日(木) 10:30～12:00

会場：美術館会議室

- 議事：1) 2006年度事業実績の概要について
 2) 2007年度予算の概要
 3) 2007年度事業計画の概要について
 4) 福島県立美術館の運営等について

□収集評価委員会

1. 委員名簿

氏名	所属	任期
村田哲朗	町田市立国際版画美術館館長	1996.11.21-
真室佳武	東京都美術館館長	1996.11.21-
尾崎正明	東京国立近代美術館副館長	2003.12.1-
長谷川三郎	宮城県美術館館長	2005.12.1-
山梨俊夫	神奈川県立近代美術館館長	2005.12.1-

2. 委員会の開催

日時：2007年2月8日(木) 14:00～15:30

会場：美術館会議室

- 議事：1) 2005年度収集作品の報告
 2) 2006年度購入候補作品について
 3) 2006年度受贈候補作品について

□他館との連携

1. 加盟団体

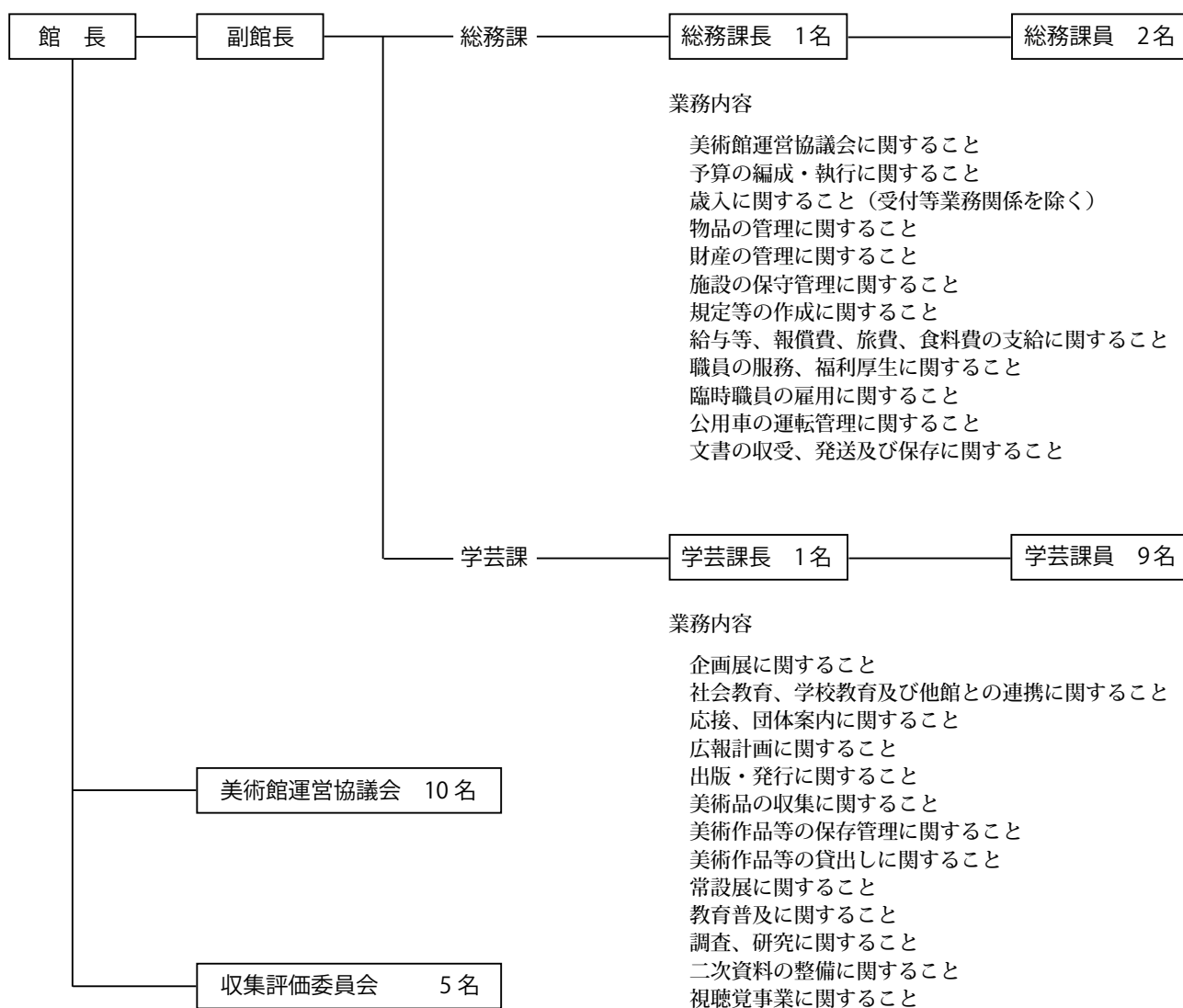
全国美術館会議（理事）、美術館連絡協議会（理事）、日本博物館協会（会員）、日本博物館協会東北支部（監事）、東北地区博物館協会（監事）、東北美術館会議（会員）、福島県博物館連絡協議会（理事）

2. 公務視察等の受入れ

- | | |
|------------------|--------------|
| 1) 公務視察受入 | 0件 |
| 2) アンケート回答・調査協力等 | 6件（東京理科大学ほか） |
| 3) 体験学習 | 0件 |

□組織図・職員名簿

1. 組織図



2. 職員名簿（2007年3月31日現在）

館長	酒井 哲朗	(2000.4.1-)
副館長	渡部信一郎	(2006.4.1-2007.3.31)
総務課長	中山 兼一	(2004.4.1-2007.3.31)
総務課 主査	渡辺 憲雄	(2005.4.1-)
総務課 同	早坂 亜紀	(2003.4.1-2007.3.31)
学芸課長	伊藤 匡	(文化施設整備室 1983.4.1-)
学芸課 主任学芸員	久慈 伸一	(文化施設整備室 1982.4.1-)
学芸課 同	佐治ゆかり	(1984.4.1-)
学芸課 同	荒木 康子	(1990.4.1-)
学芸課 同	堀 宜雄	(1989.4.1-)
学芸課 同	吉村 有子	(1990.7.1-)
学芸課 同	宮武 弘	(1992.4.1-)
学芸課 同	増渕 鏡子	(1993.4.1-)
学芸課 同	橋本 淳也	(2005.4.1-)

□利用案内

1. 開館時間 9:30 ～ 17:00（最終入館は 16:30 まで）
※夜間開館を行うことがあります。
2. 休館日 1) 月曜日（祝祭日をのぞく）
2) 祝祭日の翌日（土日をのぞく）
3) 年末年始（12/28 ～ 1/4）
3. 観覧料 1) 常設展 一般・大学生 260 円（210 円）
※（ ）内は 20 名以上の団体料金
2) 企画展 その都度料金が変わります。
※企画展の料金で常設展もご覧になれます。
※企画展のみの観覧券は発行していません。
※ふくしま教育週間（11/1 ～ 7）中は、小・中・高校生は企画展料金も無料。
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保険福祉手帳をお持ちの方は企画展料金が無料（付き添いの方も無料）
4. 常設展無料 1) 子供の日（5/5）、県民の日（8/21）、敬老の日（9 月第 3 月曜）、文化の日（11/3）
2) 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保険福祉手帳をお持ちの方（付き添いの方も無料）
3) 小・中・高校生（団体の場合、引率者も無料）
5. 常設展減額免除 常設展料金無料 ・大学生が、学校活動の一環で観覧するとき
常設展料金半額 ・公民館や公共団体が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき
※事前申請が必要です。いずれも引率者無料となります。
6. 年間観覧券 常設展・企画展ともに一年間何度でも入館可（年度ごとに料金は異なります）

□交通案内

1. J R 福島駅（東口）より 電車 福島交通飯坂線「美術館図書館前駅下車」下車、徒歩 3 分
バス 9 番バス乗り場より、福島交通市内循環 2 コース「県立美術館入口」下車、徒歩 4 分
タクシー 約 5 分
2. 自家用車で 東北自動車道・福島飯坂 I C より約 15 分、福島西 I C より約 20 分
※駐車場 150 台収容

福島県立美術館年報 平成18年度・2006

2008 年 2 月 29 日 発行

編集・発行 福島県立美術館
〒960-8003 福島市森合字西養山 1 番地
Tel. 024-531-5511
Fax. 024-531-0447
HP <http://www.art-museum.fks.ed.jp>

印刷 キング印刷株式会社

